

第5章 西ノ原遺跡第159地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

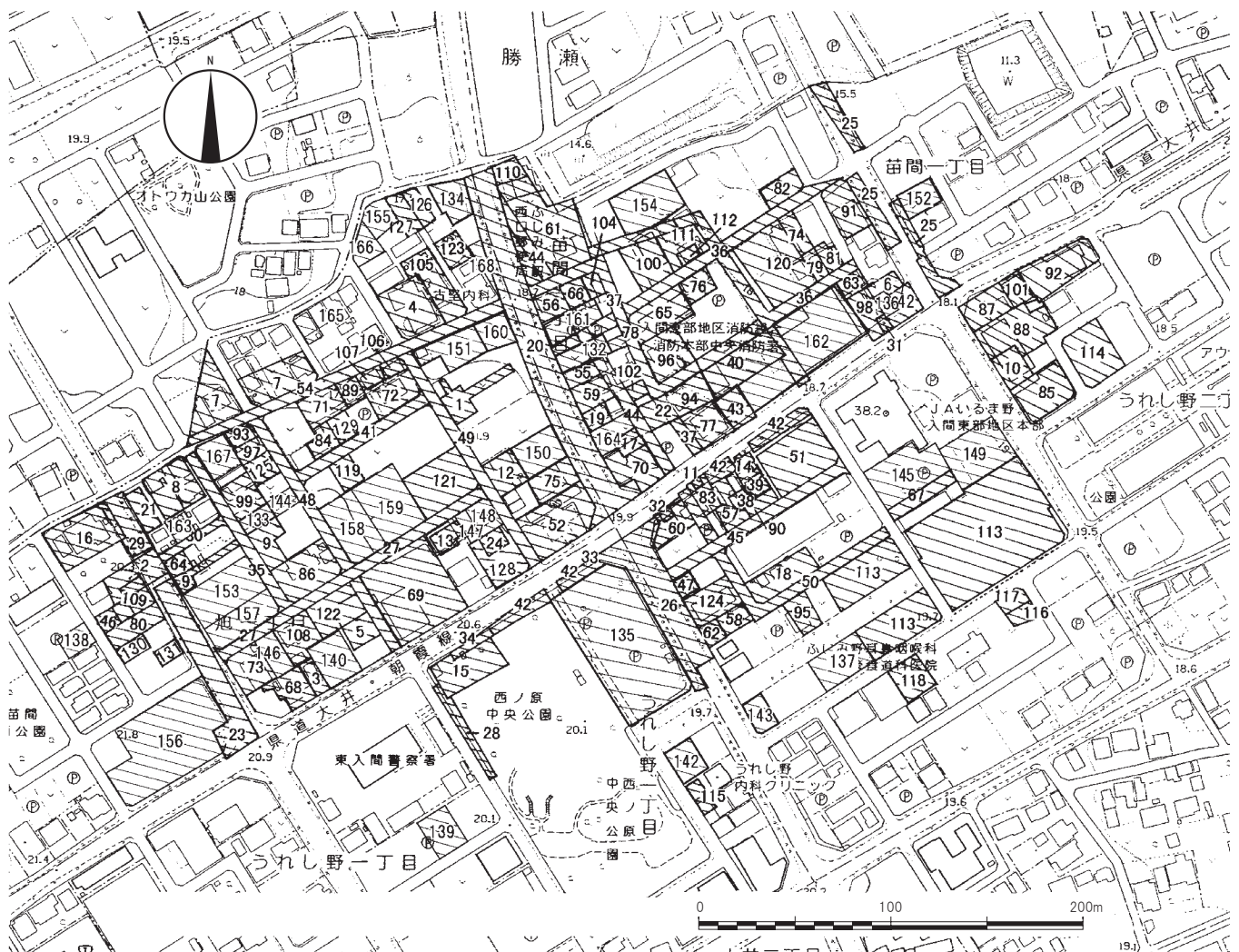
本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進

んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1917年以来2015年12月現在、167地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、210軒を越す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2014年1月27日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を行った。

試掘調査は同年1月30日～2月16日まで行い、幅約1.5mのトレンチ8本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。



第42図 西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)

試掘調査の結果、縄文時代の住居跡や炉跡などを確認した。地表面から遺構確認面までの深さは約 30 cm で、遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は遺構の確認された 3 ケ所の区画を、残土置き場の関係から反転して行った。

平成 25 年度は、2014 年 3 月 4 日から 25 日まで行い、平成 26 年度は、2014 年 4 月 2 日から 5 月 9 日まで、2 ケ年度にわたって実施した。

住居跡の実測は、調査区内に 5 × 5 m 方眼の区画を設定し、東から西へ A、B、C ～、北から南へ 1、2、3 ～の番号を付し A 1 区、B 1 区～とした。全側図 1/100 の作成には平板測量を用いた。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代の住居跡 8 軒と炉穴 4 基である。遺物は縄文土器と石器などである。

第 14 表 西ノ原遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収 報告書
150	旭一丁目14-5・6	(2012.1.23～2.16) 2012.2.20～3.4	108	宅地造成	縄文中期住居跡12、集石土坑2、土坑2、ピット36、縄文土器・石器	市11
	旭1-14-17	(2012.1.23～2.26) 2013.7.1～26	111	個人住宅	H24.1～2月試掘済。地表面下40～50cmで縄文中期住居跡3、土坑1、ピット1	市15
	旭1-14-18	2013.1.23～2.14	111	個人住宅	縄文中期住居跡5軒、風倒木痕1、縄文中期土器・石器コンテナ14箱	市15
	旭1-14-19	2012.6.26・27	107	個人住宅	縄文中期住居跡1、縄文土器・石器	市15
151	旭1-14-1	(2012.1.25～27)	467	分譲住宅	溝5、縄文土器片	市14
152	苗間1-12-3	(2012.1.27～31)	324	分譲住宅	遺構遺物なし	市14
153	旭1-6-2の一部、1-6-4・5	(2012.5.28～30)	951	共同住宅	縄文中期住居跡1、縄文土器・石器	市15
154	苗間1-2-2・2-3	(2011.10.24～28)	846	共同住宅	遺構なし 縄文土器片	市14
155	旭1-13-3、25	(2013.10.22)	234	分譲住宅	地表面から1.7m掘削するも確認面まで達せず、遺構遺物なし	未報告
156	旭1-17-1、17-2	(2013.11.27～12.9)	2345.1	店舗・工場	縄文住居跡床面確認、遺存状態悪く本調査不可	未報告

Ⅲ 遺構と遺物

(1) 縄文時代の住居跡

縄文時代の住居跡は 8 軒検出した。各住居跡については以下のとおりである。また住居跡のピットについては第 16 表のとおりである。

① 204 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の北西隅に位置し、西側半分は調査区外に延びる。調査率は約 5 0 % である。周溝はない。

【形状・規模】平面形態は円形か隅丸方形を呈する。規模は、長軸 375 cm 以上、短軸 160 cm 以上、深さ 20 cm である。

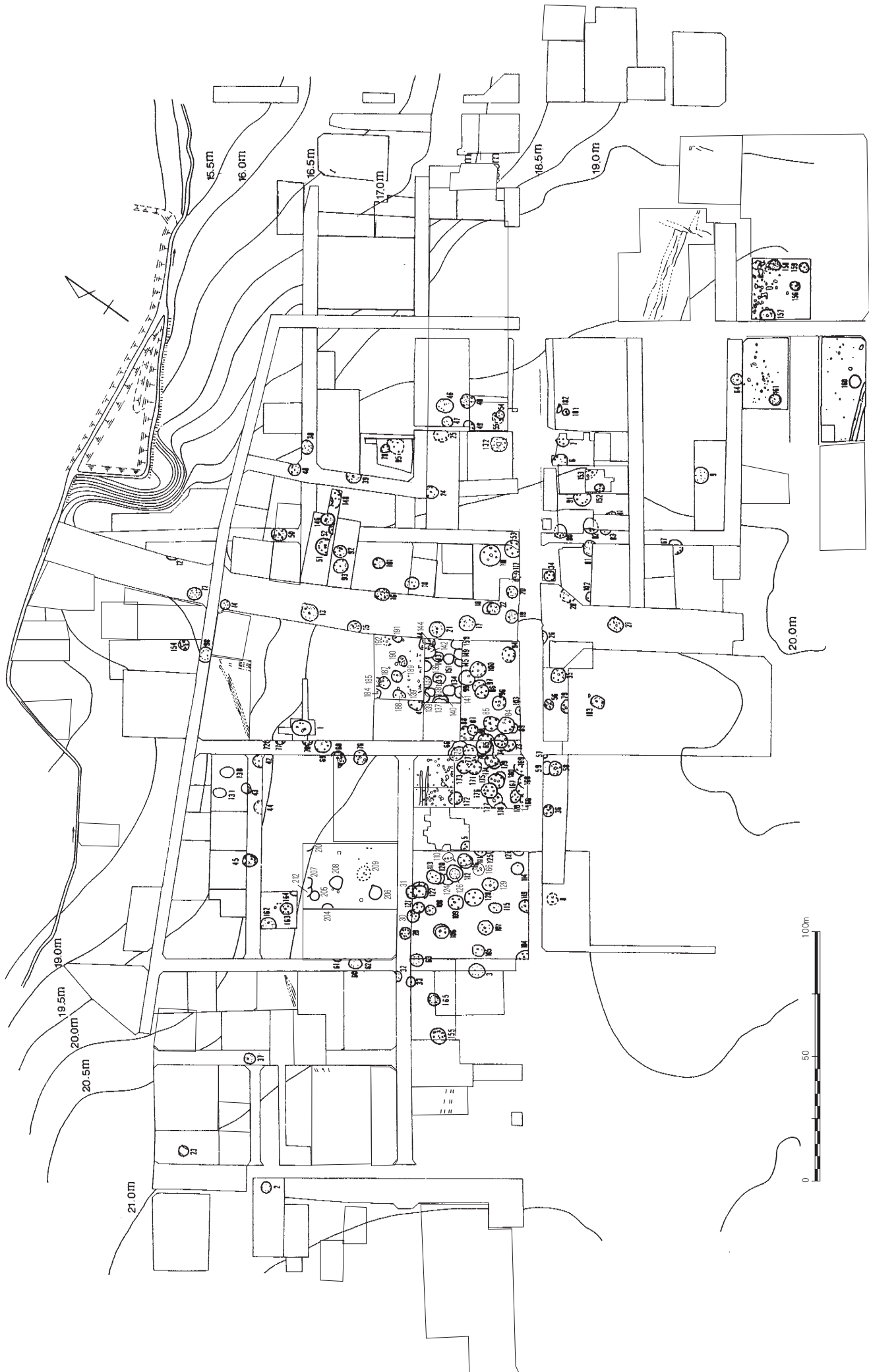
【炉】炉は住居跡中央部北寄りに位置する。形状はほぼ円形である。炉は底部を欠損する縄文土器を正位に埋設し、炉の北側に礫を埋設する、石囲埋甕炉または

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収 報告書
157	旭1-6-3	(2013.12.9～17)	602	分譲住宅	時期不明溝2	未報告
158	旭1-15-6の一部	(2014.1.7～14)	739	共同住宅	縄文時代住居跡12軒検出、要本調査	未報告
159	旭1-15-8	(2014.1.30～2.10) 2014.3.4～25、4.2～5.9	869	共同住宅	縄文時代住居跡9 (プラン、炉・ピットのみの検出含む)	未報告
160	旭1-14-2	(2014.4.15～16)	309	駐車場造成	遺構無し、縄文土器、石器	未報告
161	旭1-15-18	(2014.6.17) 2014.6.18～23	442	個人住宅	縄文時代中期住居跡2、溝1	未報告
162	苗間1-13-2～5・11	(2014.8.29、9.4)	2526.76	葬祭場	溝1 (時期不明、中近世以降)	未報告
163	旭1-7-10	(2015.2.2～3)	148.98	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
164	苗間1-15-8	(2015.5.8～18)	647	駐車場	住居跡1、壁外埋塞1、土坑9、ピット1、縄文土器、石器	未報告
165	旭1-12-1	(2015.9.30)	160	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
166	旭1-13-1・17-18	(2015.11.5)	212.01	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
167	旭1-8-1	(2015.11.9・10)	349	アスファルト造成	遺構遺物なし	未報告
168	旭1-13-20・23	(2013.10.21)	76.8	店舗	遺構遺物なし(旧西ノ原遺跡第154地点の名称を変更)	未報告

第 15 表 西ノ原遺跡住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査率	平面形状 ()は推定	規模	炉			埋塞	拡張	壁溝	備考	時期	文献
				地床	埋設	石囲						
139	55%	不明	(546) × 不明	○	○					138号と複合		調13集
140	40%	楕円形	(762) × 不明	○						137・138号と複合		調13集
141	55%	不明	528 × 不明	○						134号と複合		調13集
142	50%	不明	不明	○						143・144号と複合		調13集
143	完掘	楕円形	479 × 421		○					142・151号と複合		調13集
144	90%	(隅丸長方形)	595 × 430 × 40	○	○				有	142号と複合	勝Ⅲ新	調13・市14
145	60%	不明	不明 × 325	○						149・151号と複合		調13集
146	85%	楕円形	585 × ?	○					有	炉穴群と複合	EⅡ	調17集
147	30%	楕円形	? × ?	未掘					○	148号と複合	EⅢ	町V
148	完掘	楕円形	不明	○						147号と複合	EⅡ	町V
149	90%	(楕円形)	430 × 336		○	○				145・150号と複合	EⅡ新	調13集
150	80%	(円形)	581 × 不明			○				149・151号と複合		調13集
151	95%	(楕円形)	664 × (642)		○	○				143・145・150号と複合	EⅡ古	調13集
152	95%	円形	380 × 370	○						153号と複合	EⅡ	町VI
153	20%	(円形)	-600	○						152号と複合	EⅡ新	町VI
154	完掘	不明	(400)	○	○				有	床面まで削平	勝Ⅲ	町VII
155	75%	隅丸方形	610 × 540	②	②				建替と拡張	○ 2回拡張・建替	勝Ⅲ新・EⅠ新式古	町XⅡ
156	完掘	円形	462 × 365 × 14		○						EⅡ新	調17集
157	75%	楕円形	594 × 392 × 22	○							EⅡ新	調17集
158	完掘	不定形	669 × 455 × 16			○					EⅡ新	調17集
159	完掘	円形	434 × 415 × 13	○?							EⅡ新	調17集
160	完掘	円形	547 × 490 × 35			○?					EⅡ新	調17集
161	完掘	楕円形	512 × 440 × 16		○	○?	②				EⅡ中～新	調17集
162	75%	隅丸方形	715 × ?	③	○		2回拡張		○		勝Ⅲ	町X
163	完掘	楕円形	505 × 482	○	○		○	有	○	脂肪酸分析実施	EⅠ新古	町X
164	20%	隅丸方形	不明			未掘			○		EⅠ新	町X
165	完掘	卵形	498 × 488	②	○				建替	○ 他地域系多い	勝Ⅲ・EⅠ新式古	町XⅡ
166	10%	不明	不明	○						削平著しく炉・ピットのみ検出	EⅡ中	調13集
167	55%	(円形)	不明							168・170住と複合	EⅡ	調18集
168	45%	隅丸方形	不明			未掘		有	○	167住に切られる	EⅠ新	調18集
169	30%	円形	不明	○						南・東未発掘		調18集
170	60%	(円形)	不明 × 496	○						167住を切る	EⅢ	調18集
171	完掘	不整形円形	554 × 595	○				有	○	173住を切る	EⅡ	調18集
172	52%	円形	不明 × 472			未掘			○		EⅠ古	調18集
173	完掘	楕円形	485 × 492					有		171住に切られる	EⅠ新	調18集
174	90%	楕円形	612 × ?	○						179住と複合	EⅡ古	調18集
175	完掘	楕円形	640 × 630	○				有	○	176住に切られる	EⅡ	調18集

住居番号	調査率	平面形状 ()は推定	規模	炉			埋塞	拡張	壁溝	備考	時期	文献
				地床	埋設	石囲						
176	完掘	隅丸方形	690 × 535	○	○		2回拡張	○		175・177住と複合	EⅠ古	調18集
177	95%	楕円形	624 × 不明	○		○	不明			176住を切る	EⅡ	調18集
178	100%	隅丸方形	不明				未掘	有	○	177住と複合	EⅠ新	調18集
179	95%	楕円形	不明					○		174住を切る	EⅡ	調18集
180	完掘	円形	385 × 392								EⅡ	調18集
181	完掘	不整形円形	340 × 298	○						削平著しい	EⅡ	調18集
182	45%	(円形)	不明 × 390		○					削平著しい	EⅡ	調18集
183	完掘	隅丸方形	450 × 370	○	○				○		EⅠ新	市3
184	25%	(楕円形)	(337 × 225)						○		EⅠ新	市15
185	80%	(円形)	320 × (224)					○		187住と複合	EⅡ	市15
186	欠番											
187	完掘	楕円形	480 × 430			○		○	○	185住と複合	EⅠ新	市15
188	50%	楕円形	(517 × 430)		○				○	東側一部調査区域外	EⅢ	市15
189	完掘	楕円形	452 × 400	○					○		EⅡ～EⅢ	市15
190	完掘	楕円形	436 × 302	○					○		EⅢ	市11
191	50%	(円形)	(392 × 220)					○			EⅢ	市11
192										掘り込み確認できず		市15
193												
194												
195												
196												
197	プランのみ確認									西ノ原遺跡第158地点試掘調査済み、トレンチでプラン確認のみ		市内17報告予定
198												
199												
200												
201												
202												
203												
204	50%	円形か隅丸方形	375 × 165 × 20		○	○						市16
205	100%	円形	360 × 350 × 35		○	○				212号住居と重複		市16
206	100%	隅丸長方形	475 × 455 × 18		○	○	○					市16
207	50%	円形か隅丸方形	(375 × 160) × 20		○					212号住居と重複		市16
208	100%	隅丸台形	475 × 452 × 43.6			○			○			市16
209	100%	不明	直径360cm以上									市16
210	25%	不明	(260 × 168) × 50	○								市16
211										欠番		市16
212	40%	(楕円形か隅丸長方形)	(460 × 190) × 55	○					○	207号住居と重複		市16



第43図 西ノ原遺跡遺構分布図 (1/2,000)

添石炉である。

炉の規模は、推定長軸 68 cm、短軸 65 cm、底径は 23 × 20 cm、深さ 23 cm である。

【柱穴】柱穴は 4 本検出した。主柱穴は P 3・4 である。P 1 も主柱穴の可能性もある。各ピットの詳細は第 16 表のとおりである。

【遺物出土状況】炉周辺にやや集中する他は、住居跡の覆土層から僅かに出土する。

② 205 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の北西隅に位置し、212 号住居跡と重複し、本住居跡が新しいとみられる。調査率は約 100% である。周溝はない。

【形状・規模】平面形態は隅丸方形に近い円形を呈する。規模は、長軸 360 cm、短軸 350 cm、深さ 35 cm である。

【炉】炉は住居跡中央部北寄りに位置する。耕作による影響を受け全容は不明である。炉は底部を欠損する縄文土器を正位に埋設し、炉の周囲に礫を埋設する、石囲埋甕炉である。

炉の規模は、掘方の長軸 64 cm、短軸 54 cm、深さ 15 cm である。

【柱穴】柱穴は 5 本検出した。主柱穴は P 1 ～ 4 である。各ピットの詳細は第 16 表のとおりである。

【遺物出土状況】住居跡の床面から覆土層にかけて、やや集中して出土する。

③ 206 号住居跡

【位置・時期】調査区の南部に位置する。

【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈する。規模は、長軸 475 cm、短軸 455 cm、深さ 18 cm である。周溝はない。

【炉】炉は住居跡中央部北寄りに位置する、石囲炉である。炉の規模は長軸 125 cm、短軸 81 cm、深さ 20 cm である。

【埋甕】埋甕は住居内の北西端に位置する。底部を欠損する深鉢形の縄文土器を正位に埋設するが、南側半分は耕作の影響を受ける。土器はやや東側に傾いて埋設される。

掘方の平面形態は、ほぼ円形を呈する。確認面径は 50 cm、底径 25 cm、深さは 18 cm である。

【柱穴】柱穴は 6 本検出した。主柱穴は P 1 ～ 4 である。各ピットの詳細は第 16 表のとおりである。

【遺物出土状況】住居跡床面から覆土層にかけて僅かに出土する。

④ 207 号住居跡

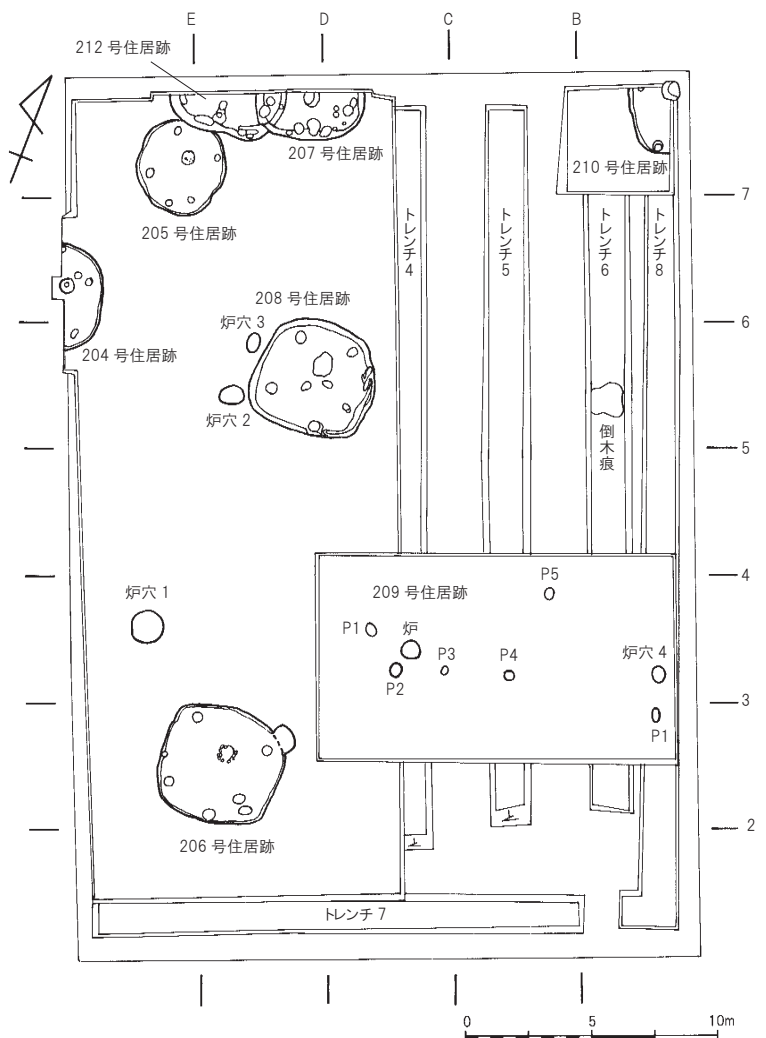
【位置・時期】本住居跡は調査区の北端に位置し、北側は調査区外に延びる。また、西側の一部は 212 号住居跡と重複し、207 号住居跡が新しい。調査率は約 50% である。

【形状・規模】平面形態の全容は不明であるが、円形か隅丸方形を呈するとみられる。検出部の規模は、長軸 375 cm 以上、短軸 160 cm 以上、深さ 20 cm である。

【炉】本住居跡に伴う炉は未検出であるが、住居跡覆土層から床面にかけて、炉跡 1 基を検出した。土層の観察から炉跡が新しい。住居の廃棄後、埋没過程で炉が使用されたものと考えられる。検出部の平面形態は半円形を呈する。炉の規模は確認面径 (62) × 54 cm、底径は (13) × 13 cm、深さ 11.7 cm である。

【柱穴】柱穴は 8 本検出した。主柱穴は P 1 ・ 2 ・ 8 である。各ピットの詳細は第 16 表のとおりである。

【周溝】周溝は 1 本検出した。P 1 と P 6 の間で周溝が途切れる以外は全周する。周溝 1 の上幅は 15 ～



第 44 図 西ノ原遺跡第 159 地点遺構配置図 (1/300)

24 cm、下幅 5 ～ 12 cm で深さ 5.3 ～ 9.3 cm である。

【遺物出土状況】住居跡の床面出土は少なく、覆土層から縄文土器片がやや多く出土する。

⑤ 208 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の中央部に位置する。調査率は 100% である。

【形状・規模】平面形態の隅丸台形を呈する。規模は、長軸 475 × 短軸 452 cm、深さ 43.6 cm である。

【炉】炉は住居跡中央部やや北寄りに位置する。炉内に埋設土器や礫は出土しないが、炉内の壁際に巡る溝や底部の窪みなどから、石囲埋甕炉であった可能性が考えられる。

炉の規模は、確認面径 190 × 153 cm、底径は 88 ×

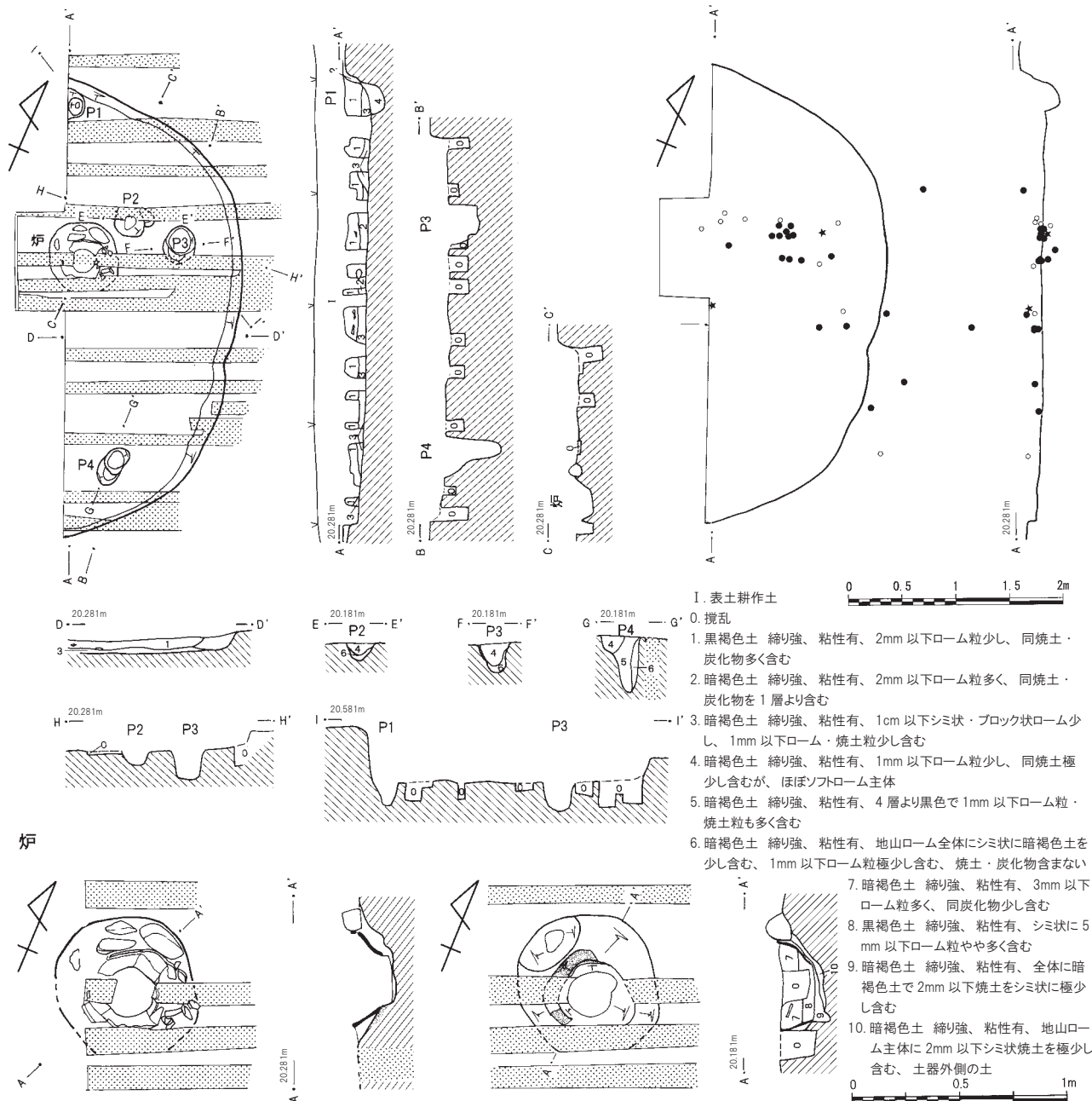
52 cm、深さ 21.7 cm である。炉の底部に平面形態が不整形形で、直径 11 cm、底径 3 ～ 5 cm、深さ 12 cm の窪みがみられる。炉内を巡る溝は、上幅 2 ～ 12 cm で深さ 9.1 ～ 12.3 cm である。

【柱穴】柱穴は 7 本検出した。主柱穴は P 1 ～ 4 である。詳細は第 16 表のとおりである。

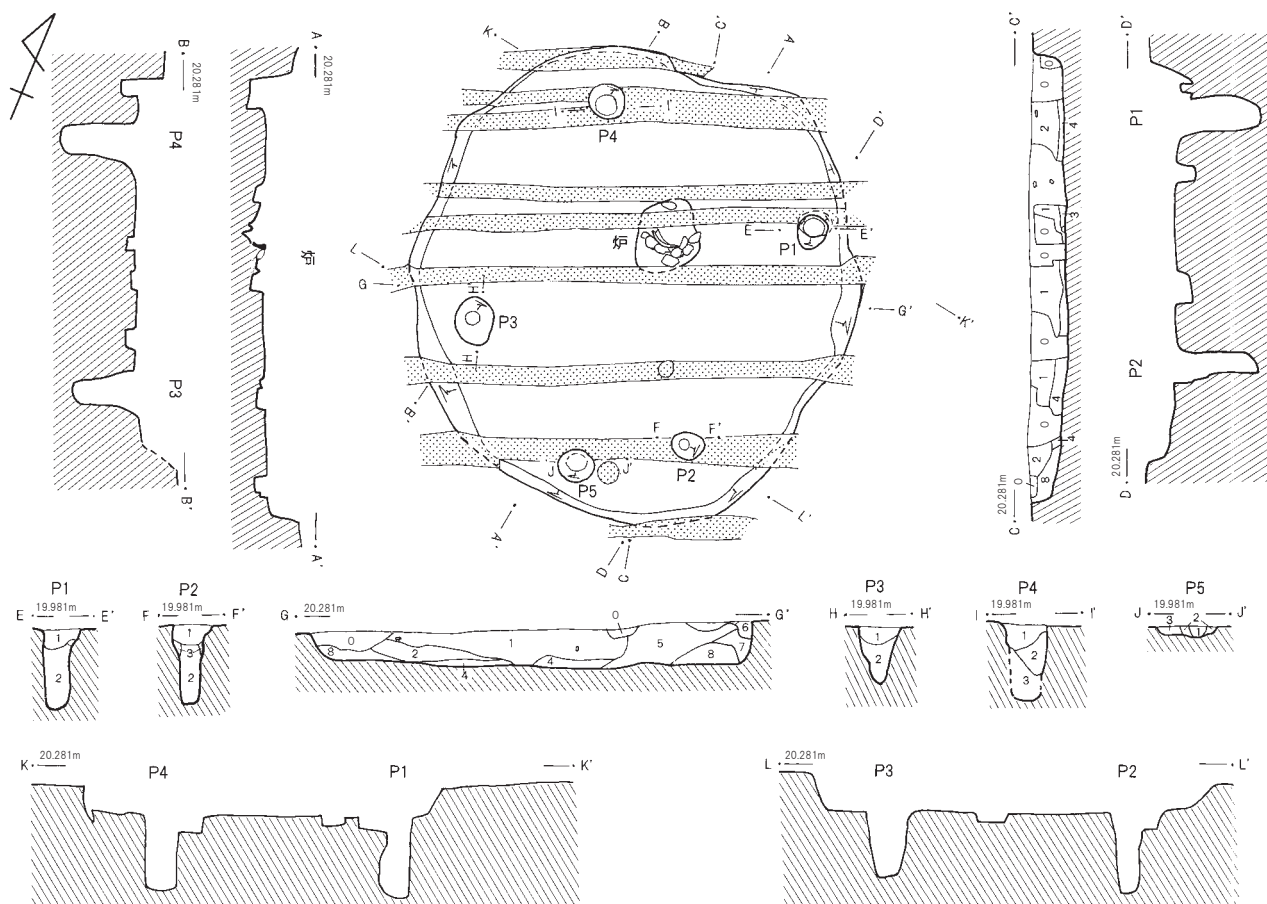
【周溝】周溝は 1 本検出した。住居跡の壁際を回り、P 1 の南東部と P 7 集辺で一部途切れる。上幅は 8 ～ 23 cm、下幅 4 ～ 8 cm で深さ 3.3 ～ 12.8 cm である。

【遺物出土状況】住居跡の床面付近出土の遺物は少なく、覆土中層から上層に多く出土する。また、住居跡北西端の覆土下層から直径 10 ～ 20 cm 大の比熱した礫がまとまって 10 点程出土した。集石土坑の礫より

204 号住居跡



第 45 図 西ノ原遺跡第 159 地点 204 号住居跡・遺物出土状況 (1/60)、炉 (1/30)



遺物出土状況

205号住居跡

0. 攪乱

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下やや多く、2mm以下炭化物少し含む

2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多く、3mm以下炭化物少し含む

3. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下焼土少し含む

4. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に2cm以下ロームブロック多く含む

5. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く、3mm以下炭化物少し含む

6. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、2mm以下炭化物少し含む

7. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1cm大ロームブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く含む

8. 黄褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック・粒やや多く含む

205号住居内 P1～4

1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む

2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1層と比べ色調暗く、締り弱め

3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体

205号住居内 P5

1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む

2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、シミ状にローム土やや多く含む

3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5～20mmロームブロック多く含む

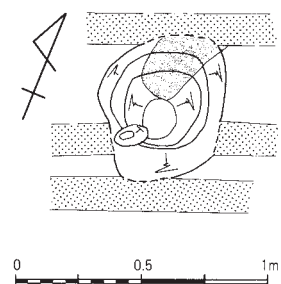
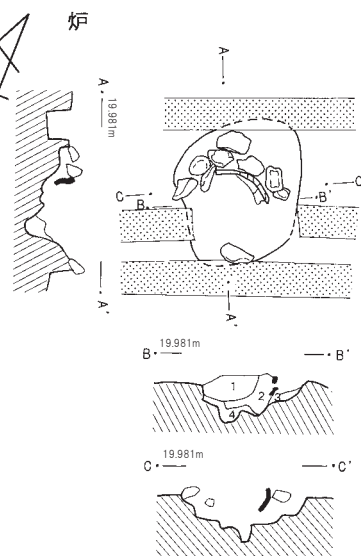
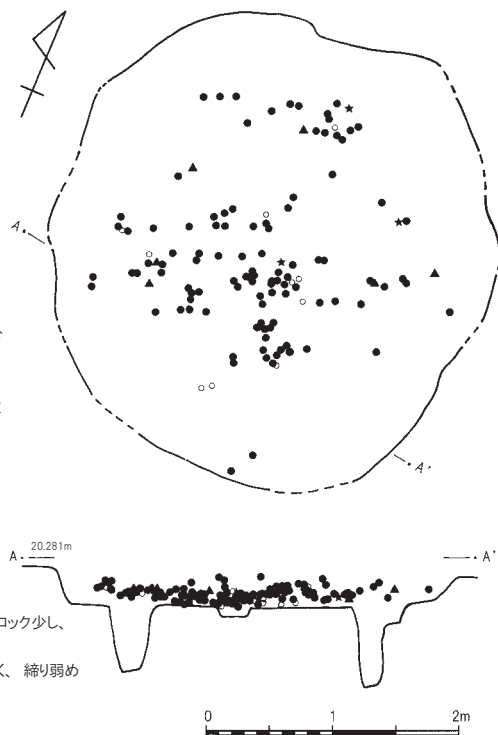
炉 B-B'

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・焼土やや多く含む

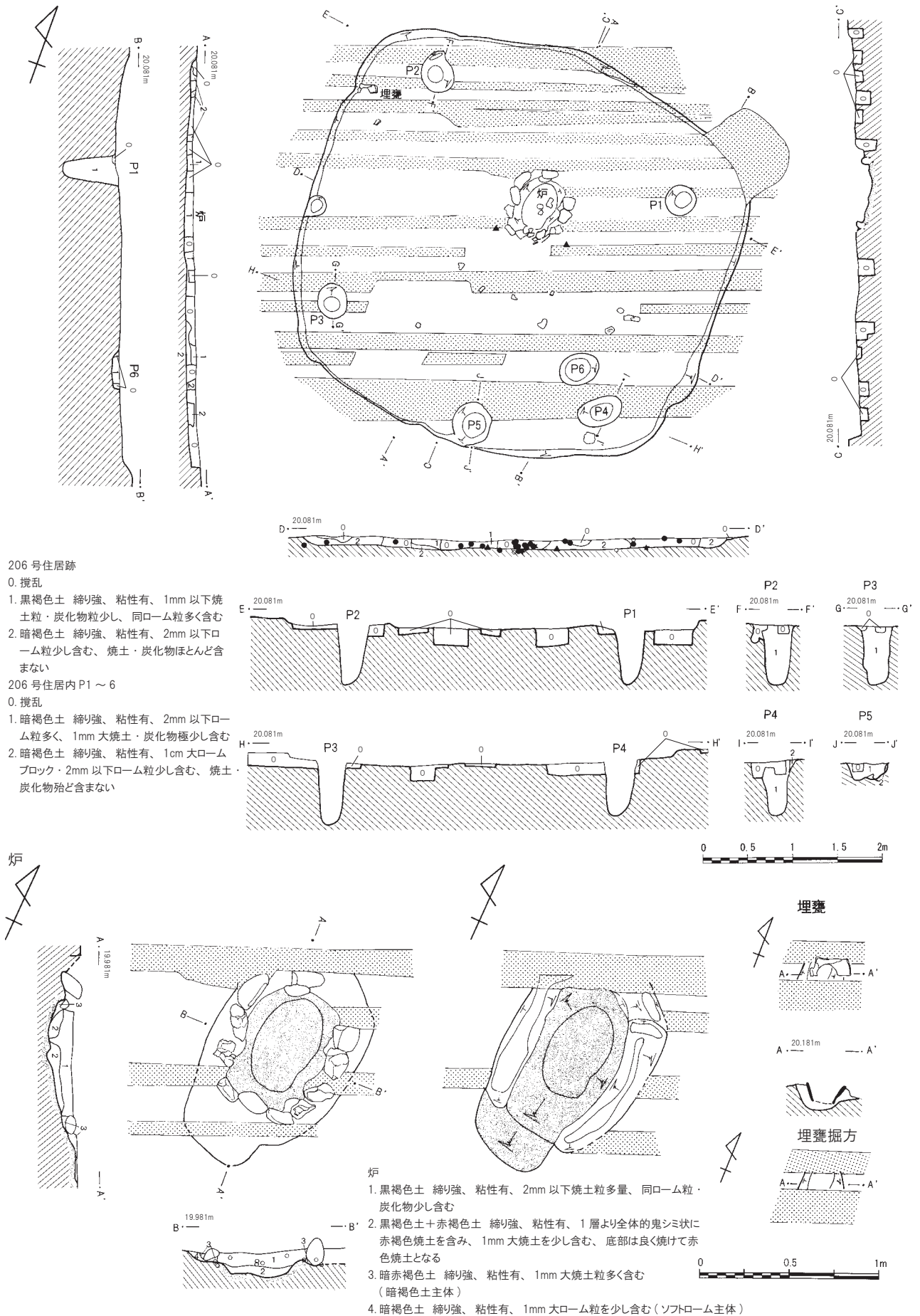
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多く、2mm以下焼土少し含む

3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状の2mm以下ローム粒多く含む

4. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに、3cm以下ロームブロック主体



第46図 西ノ原遺跡第159地点 205号住居跡・遺物出土状況 (1/60)、炉 (1/30)



第 47 図 西ノ原遺跡第 159 地点 206 号住居跡・遺物出土状況 (1/60)、炉・埋・掘方 (1/30)

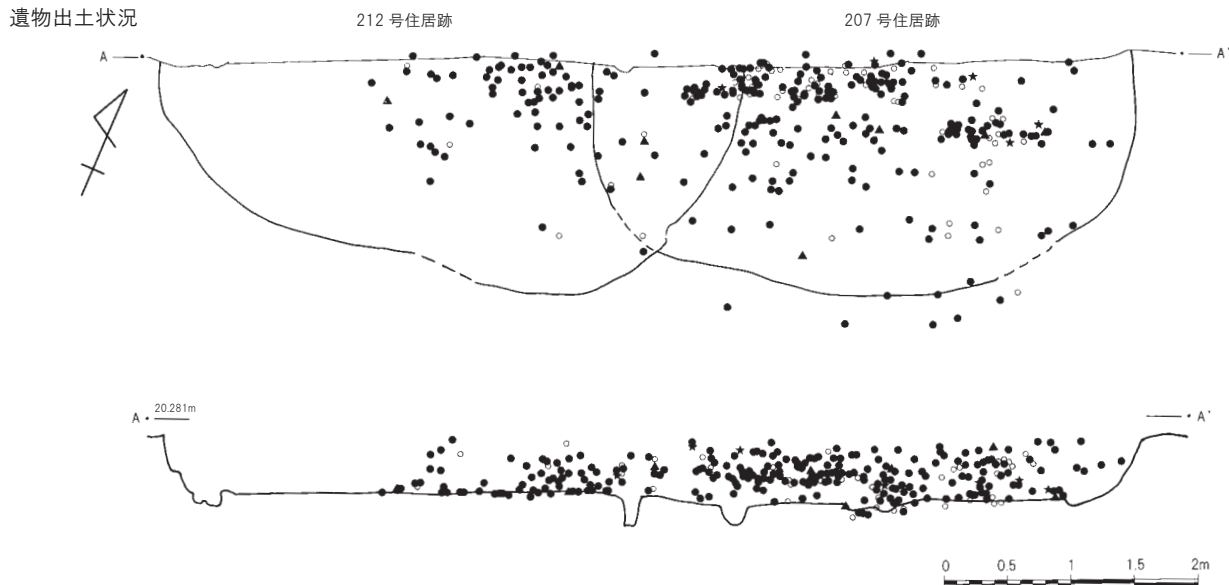
大型で、蒸し焼きなどによる風化したような痕跡がないため、石囲炉などに使用された礫と考えられる。覆土層からは完形の土製耳飾り 1 点が出土している。

⑥ 209 号住居跡

【位置・時期】 本住居跡は調査区の中央部に位置し、遺物出土状況

調査率は約 100% である。住居跡の掘り込みおよび周溝は無く、炉とピット 3 基を確認した。周辺部には炉穴の可能性のある屋外炉も 4 基検出されており、あるいは本住居跡も屋外炉の可能性もある。

【形状・規模】 平面形態および規模は不明であるが、炉、



212 号住居跡焼土

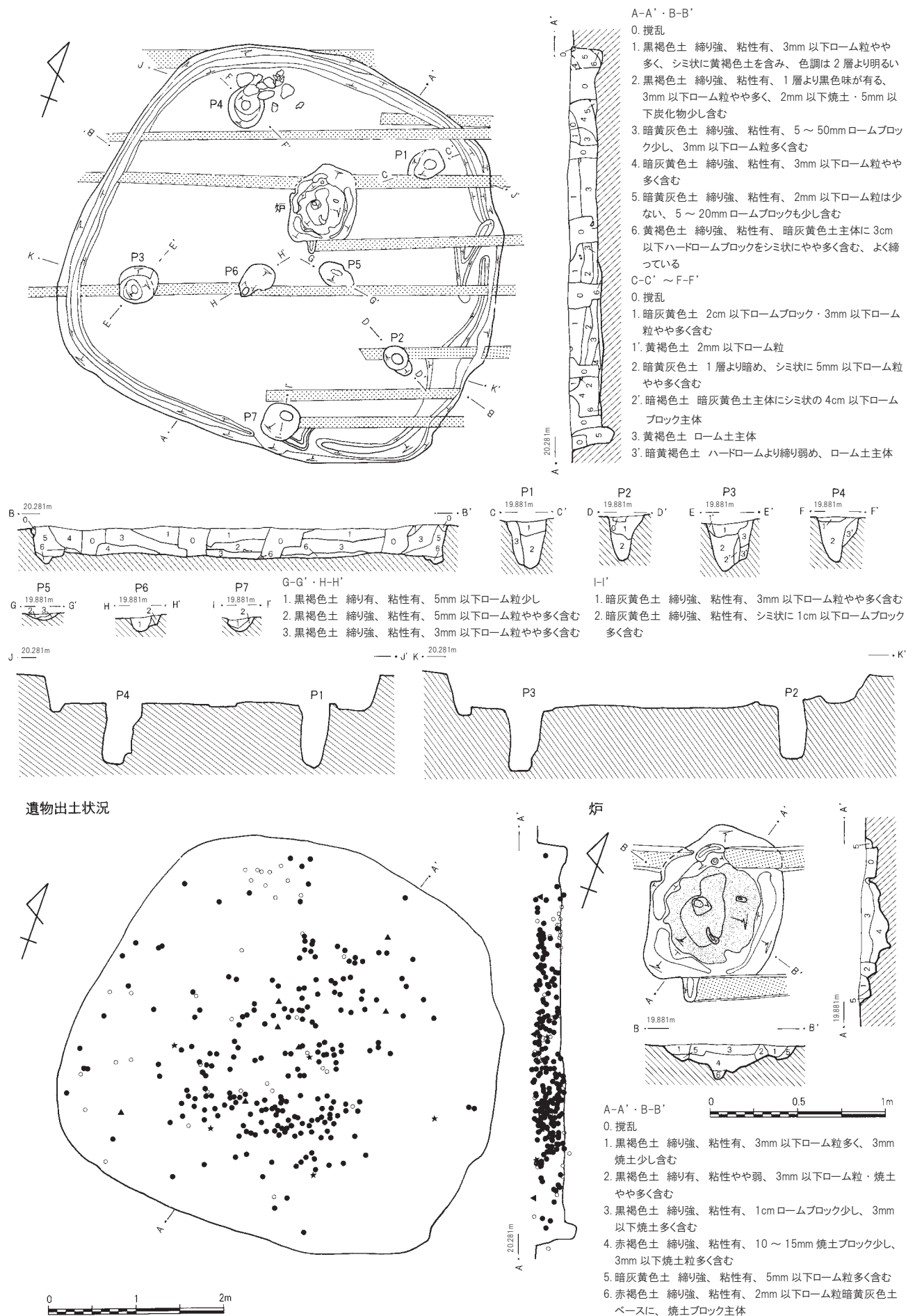
207 号住居跡炉

212 号住居跡 C-C'

1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒多く、3mm 以下炭化物やや多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・3mm 以下炭化物やや多く、2mm 焼土少し含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土をやや多く含む、3mm 以下ローム粒やや多く、1cm ロームブロック・3mm 以下炭化物少し含む
 4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く、1cm ロームブロック・3mm 以下炭化物少し含む
 5. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に黒褐色土をやや多く含む、1cm ロームブロック少し、3mm 以下ローム粒多く含む
 6. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、1～5cm ロームブロックやや多く、5mm 以下ローム粒多く、1～5mm 炭化物少し含む
 7. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、5～40mm ロームブロック少し含む
 - 7'. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土含む、2mm 以下ローム粒・炭化物少し含む
 8. 黄褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム土主体、1～2cm ロームブロックやや多く含む
- D-D' ～ F-F' ・ I-I' ・ J-J'
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
 3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、ローム分多く含み色調明るめ、5mm 以下ロームブロック・粒シミ状にやや多く含む
 4. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体

G-G' ・ H-H'

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状の 2cm 以下ロームブロック多く含む
 2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土多く含む、締りは良い
 3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、15mm 以下ロームブロック・粒多く含む
- K-K'
1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く、1cm ロームブロック・3mm 以下炭化物少し含む
- O-O'
1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5～15mm ロームブロック・2mm 以下ローム粒やや多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、15mm ロームブロック少し、2mm 以下ローム粒多く含む
 3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に 3mm 以下ローム粒少し含む、粘性強め
 4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く含む
- P-P'
1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く、1mm 以下炭化物少し含む
 2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒少し、炭化物僅かに含む
 3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、1・2 層より黒色味が有る、3mm 以下ローム粒多く・3mm 以下ローム粒・炭化物少し含む
 4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5～20mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒・3mm 以下炭化物やや多く含む
 5. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5mm 以下焼土多く・3mm 以下炭化物やや多く含む



ピット1、ピット3の配置から、直径360cm以上と考えられる。

【**炉**】炉は住居跡中央部に位置する。形状は楕円形である。炉の規模は、長軸90cm、短軸(70)cm、底径は51×51cm、深さ15.1cmである。

【**柱穴**】柱穴は3本検出した。平面形態は不整の円形から楕円形を呈する。ピット1の確認面径は38×30cm、底径24×16cm、深さ23.3cmである。ピット2の確認面径は37×35cm、底径28×22cm、深さ25cmである。ピット3の確認面径は35×30cm、底径24×11cm、深さ21.1cmである。

【**遺物出土状況**】炉周辺で土器片と礫が各1点出土したのみである。

⑦ 210号住居跡

【**位置・時期**】本住居跡は調査区の北東隅に位置し、調査区外に延びる。調査率は約25%である。周溝はない。

【**形状・規模**】平面形態の全容は不明である。検出部の規模は、長軸260cm以上、短軸168cm以上、深さ50cmである。

【**炉**】炉は地床炉で、調査区の北東端に位置する。形状は隅丸長方形である。

炉の規模は、長軸75cm、短軸71cm、底径は52×42cm、深さ14cmである。

【**柱穴**】柱穴は2本検出した。主柱穴はP1で、P2が主柱穴かどうかは不明である。各ピットの詳細は第16表のとおりである。

【**遺物出土状況**】住居跡床面から覆土層にかけてやや多く出土する。

⑧ 212号住居跡

【**位置・時期**】本住居跡は調査区の北端に位置し、北側は調査区外に延びる。また、東側の一部は207号住居跡と重複し、207号住居跡が新しい。調査率は約40%である。

【**形状・規模**】平面形態の全容は不明であるが、楕円形か隅丸長方形を呈するとみられる。検出部の規模は、長軸460cm以上、短軸190cm以上、深さ55cmである。

【**炉**】炉は住居跡南部で、焼土範囲1ヶ所を検出した。掘り込みは無く、床面が焼けて硬化している。南北に浅いピットがあり、焼土範囲と重複し焼土範囲が古い。

住居跡の中央部付近にみられる本来の炉跡とは考え

られない。焼土範囲は不整形を呈し、規模は確認面径36×(31)cmである。

【**柱穴**】柱穴は1本検出した。主柱穴はP1である。P2・P3は深さ約11.3cmと12.2cmと浅く、柱穴とは考えられない。また壁際の周溝内に、小ピットP4～P7があり、詳細は第16表のとおりである。

【**周溝**】周溝は2本検出した。周溝1は壁際を全周し、周溝2はP1の南側で、周溝1の内側に延びる。土層の観察から、おそらく周溝2が新しいと考えられる。何らかの理由で内側に掘り直したのと考えられる。

【**遺物出土状況**】住居跡の床面付近から、底部を欠損する以外はほぼ完形に近い、勝坂末から加曽利EⅠ古式期に属する褶曲文系または複弧文系の土器が1点出土する。また覆土層からも縄文土器片がやや多く出土する。

⑨ 炉穴

炉穴はA区で3基、B区で1基を検出した。出土遺物がないため、時期と属性の特定は出来ない。

【**炉穴1**】平面形態は楕円形で、確認面径136×114cm、底径95×64cm、焼土範囲は80×42cm、深さ15.5cmで足場はない。確認面系44cm、底径30×22cm、深さ26cmのピットを伴う。

【**炉穴2**】平面形態は楕円形で、確認面径92×82cm、底径69×60cm、深さ36.6cmで、焼土は覆土層にやや多く含むが、面では広がらず、足場もない。

【**炉穴3**】平面形態は円形で、確認面径85×83cm、底径72×38cm、深さ4.5cm、焼土範囲も底径と同じで、足場はない。

【**炉穴4**】平面形態は円形で、確認面径75×62cm、底径15×12cm、焼土範囲は30×32cm、深さ5.6cmで足場はない。確認面径30×10cm、底径3～9cm、深さ2.4～11.8cmのピットを2ヶ所伴う。

⑩ ピット

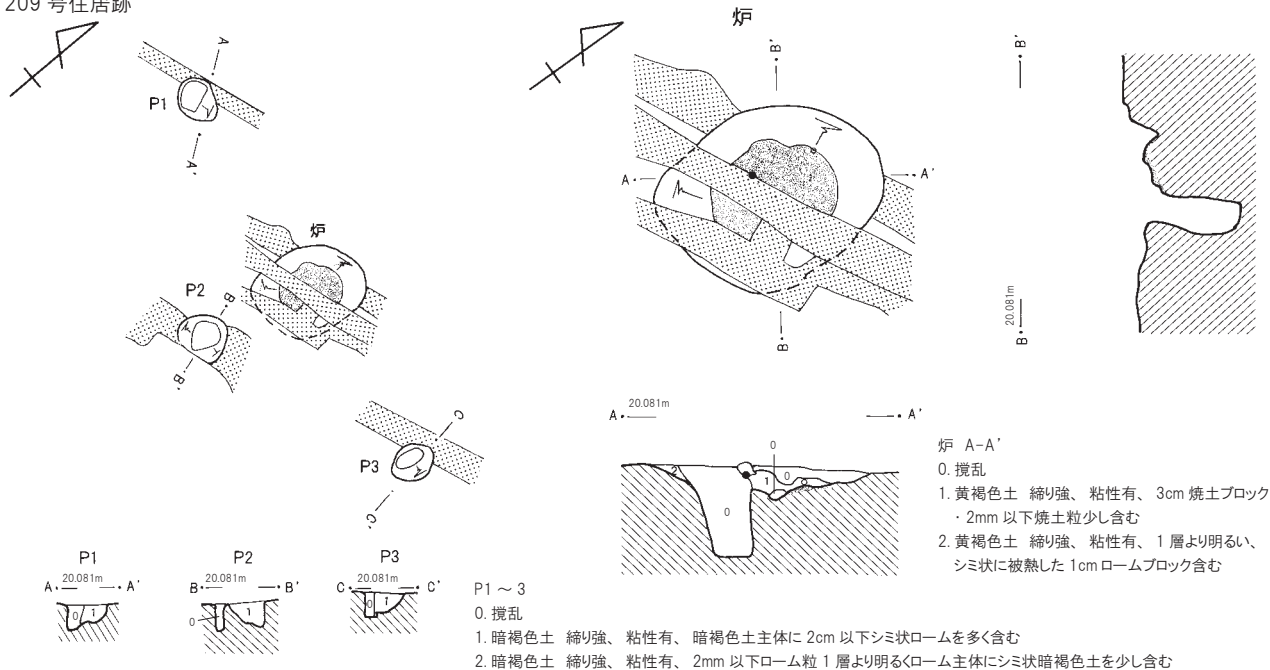
ピットは3基検出した。覆土層の観察から縄文時代とみられる。詳細は第16表のとおりである。

⑪ 出土遺物

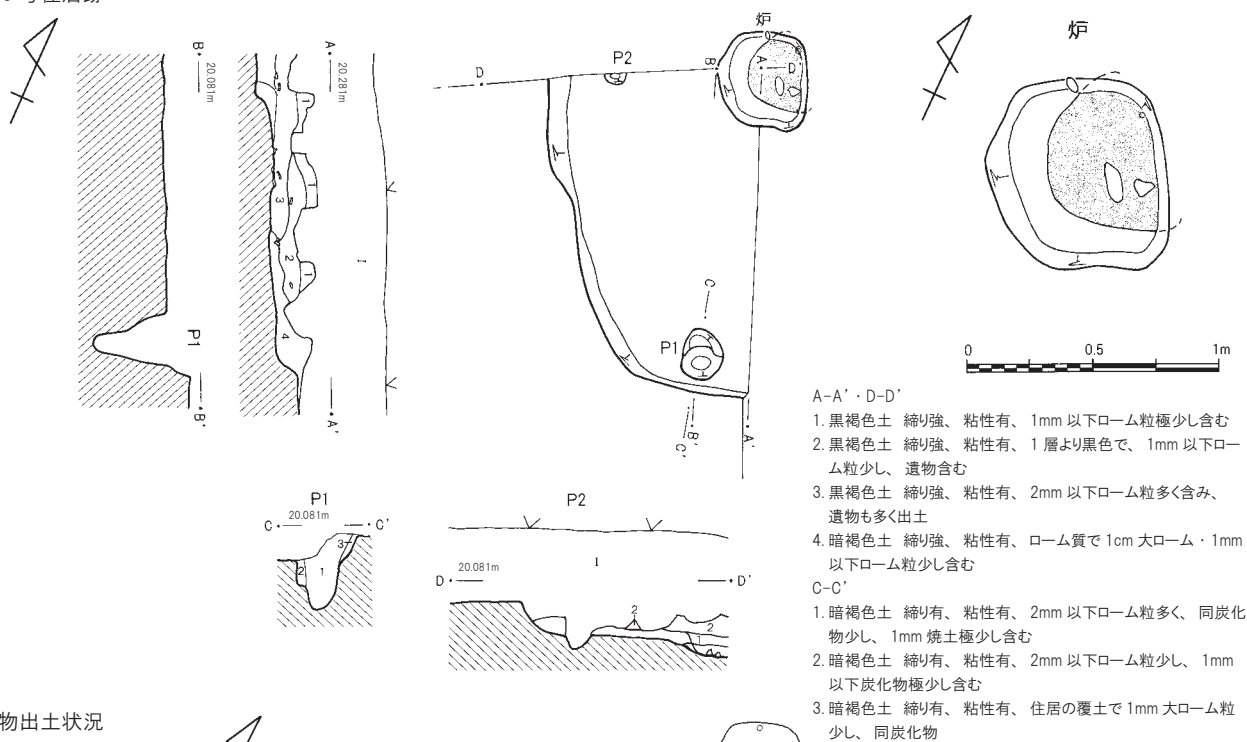
【**第204号住居出土遺物**】1は、炉体土器。現存1/3。口径44.5cm。地文にRⅠの撚糸文を施した後、粘土紐を貼り付け、渦巻文とそれを2本の連結する隆帯で文様を構成している。隆帯の粘土紐の両側には細い沈線で区画している。茶褐色で2～4mmの石英を混じる。

2は、口径26cm。口縁部1/3、胴部1/2現存。器面全面に単節RⅠの縄文を縦に密に施文後、口縁部文

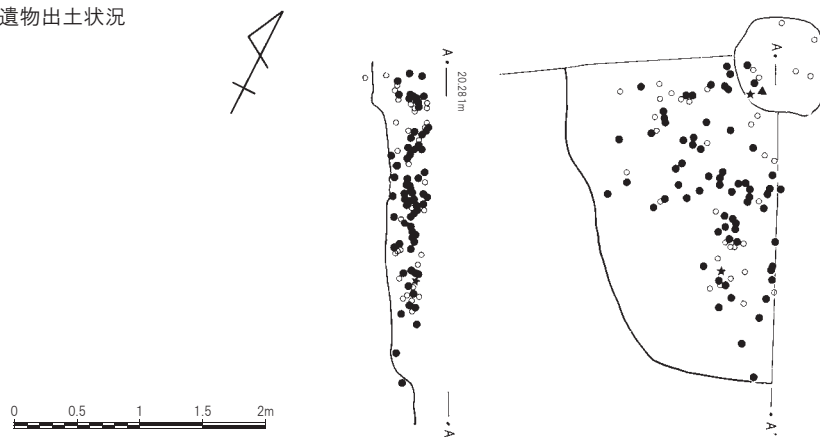
209号住居跡



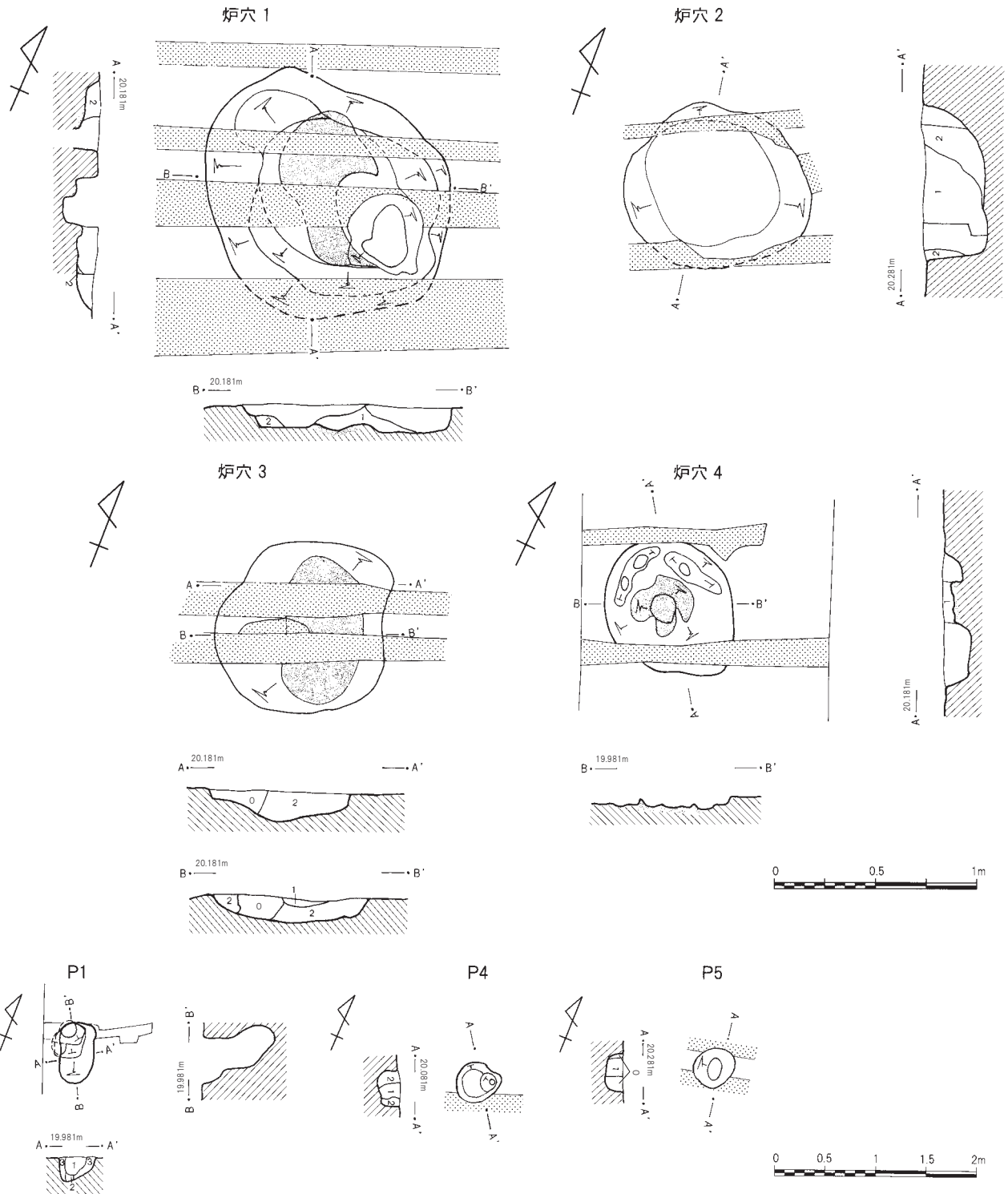
210号住居跡



遺物出土状況



第51図 西ノ原遺跡第159地点 210号住居跡 (1/60)、炉 (1/30)



炉穴 1

0. 攪乱

1. 暗褐色土 + 暗赤褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土にシミ状焼土を全体に含み、1cm 以下焼土ブロック少し含む
2. 暗褐色土 + 暗赤褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土主体に 2mm 以下ローム粒少し含む

炉穴 2

0. 攪乱

1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm 大ローム粒・焼土粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有

炉穴 3

0. 攪乱

1. 褐色土 締り有、粘性有、赤褐色味が有る、2mm 以下焼土粒少し含む、黒褐色の表土貫入する
2. 黄褐色土 締り有、粘性有、ソフトローム土主体、3mm 以下黒色土粒少し含む、茶褐色味が有る

炉穴 4

0. 攪乱

1. オリーブ褐色土 締り強、粘性やや弱、2mm 以下焼土少し含む

P1 A-A'

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状の 2cm 以下ロームブロック多く、2mm 以下炭化物僅かに含む

P4・5

0. 攪乱

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土主体に 2cm 以下シミ状ロームを多く含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒 1 層より明るくローム主体にシミ状暗褐色土を少し含む

第 52 図 西ノ原遺跡第 159 地点炉穴 1～4、ピット 1・4・5(1/30)

様帯と頸部文様帯の境に隆帯を回し、口縁部文様に渦巻文と渦巻文を「U」字状に連結している。1/3 の残存しかないが渦巻文は 6 単位になろう。胴部の境界と胴部の懸垂文は、半截竹管による対の沈線を右方向に施文。胴部は蛇行懸垂文と垂直懸垂文を交互に施文。内面の剥落が激しいが、2 ～ 4 mm の石英等の小砂利が多量に含まれている。3 は浅鉢形土器。口縁部が直立し、胴下半が丸く窄まる形態となろう。4 はその同下半の破片である。断面に上部に擬口縁が丸く整形されている。胎土は 2 と同じく石英等の小砂利が多量に含まれている。

5 は、加曽利 E Ⅲ 式土器の口縁部破片。地文に LR の単節を横位に回転したもの。

この住居は、炉に加曽利 E I 式期最終末の土器 1 と覆土に頸部文様帯に縄文施文した土器 2 も加曽利 E I 式期最終末と理解されよう。

【第 205 号住居出土遺物】8 は浅鉢形土器で、図示した口縁部から胴部の括れまでが炉体の土器として使われていた。胴下半部は床面の南側に出土した。炉体土器を引き抜いて放置したもの。口縁部と胴下半部は接合していないが、復元により接合させて図化した。口縁 1/3 現存、口径 36 cm。胴下半分 1/2 現存。炉に使われていたため、器面は内外面とも斑点状の剥落が激しい。

9 は最上部口径 18 cm。1/2 現存。渦巻文の大形の

立体突手 1 個と小形渦巻文 2 個 (1 個は欠落) の 3 単位文様になろう。渦巻文の間には楕円文を区画し、縦

第 16 表 西ノ原遺跡第 159 地点住居跡内・遺構外ピット一覧表 (単位 cm)

住居名	ピットNo.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
204号住居跡	1	(円)	25×14	6×4	27.8	
	2	(円)	27×27	8×9	15.7	
	3	(円)	31×29	23×20	30.8	
	4	楕円	32×26	16×14	55.4	
205号住居跡	1	円	26×3	2×15	66.6	
	2	円	25×20	7×7	66.6	
	3	楕円	3×38	12×10	53.1	
	4	円	29×25	16×15	63.9	
	5	円	29×25	15×12	9.3	
206号住居跡	1	円	34×34	17×2	63.2	
	2	楕円	36×45	15×19	64.1	
	3	楕円	31×40	18×15	68.4	
	4	楕円	51×29	26×19	9.4	
	5	円	41×45	25×27	18.0	
	6	円	41×34	27×25	3.4	
207号住居跡	1	円	36×45	18×15	77.4	
	2	楕円	33×29	15×15	67.2	
	3	楕円	29×39	12×13	30.3	
	4	円	21×25	6×7	71.5	
	5	円	23×21	7×5	11.4	
	6	楕円	36×33	14×15	9.4	
	7	楕円	35×63	21×24	24.0	
	8	円	47×41	21×19	65.9	
208号住居跡	1	楕円	41×33	12×11	76.2	
	2	楕円	28×32	12×13	68.6	
	3	楕円	42×43	8×9	77.0	
	4	楕円	42×48	10×9	72.8	
	5	楕円	36×26	8×5	11.5	
	6	楕円	36×32	6×9	28.7	
	7	円	44×43	15×12	19.5	
209号住居跡	1	楕円	37×31	24×16	23.3	
	2	楕円	37×34	27×21	25.0	
	3	楕円	35×29	24×11	21.1	
210号住居跡	1	楕円	39×32	15×11	61.0	
	2	(円)	17×(8)	7×3	12.5	
212号住居跡	1	円	46×45	34×26	76.4	
	2	円	(48)×50	40×(20)	11.3	
	3	(円)	34×30	14×11	12.2	
	4	楕円	22×18	16×12	53.0	
	5	楕円	33×16	17×8	20.4	
	6	楕円	32×(25)	16×(16)	9.2	
	7	楕円	25×14	10×10	17.7	
遺構外ピット	1	楕円	62×34	17×16	70.9	
	4	円	45×40	6×5	30.4	
	5	楕円	41×36	22×13	21.3	

第 17 表 西ノ原遺跡第 159 地点出土石器観察表 (単位 cm)

遺構名	図版番号・No.	種別／器形	長さ	幅	厚さ	重量	石材	推定年代	残存／備考／注記
204住	第53図6	打製石斧	14.6	5.2	2.4	256.34	中粒砂岩	縄文時代	完形、No.13
	第53図7	磨石・敲石	11.3	4.6	2.2	177.42	中粒砂岩	〃	完形
205住	第54図29	打製石斧	9.5	4.2	1.4	83.39	泥岩	〃	完形
	第54図30	打製石斧	(8.6)	4.4	1.1	56.43	細粒砂岩	〃	下部欠損、No.86
	第54図31	磨石	(7.4)	5.4	2.7	120.68	安山岩	〃	下部欠損、No.44
206住	第54図47	打製石斧	8.6	6.2	1.3	62.67	黒色細粒砂岩	〃	完形、No.25
	第54図48	刃部磨製石斧	12.3	3.8	1.9	101.27	細粒砂岩	〃	完形、No.20
	第54図49	敲石	19.2	4.6	3.1	338.55	結晶片岩	〃	一部欠損、No.6
207住	第56図104	打製石斧	8.5	4.1	1.7	87.01	黒色細粒砂岩	〃	完形、No.63
	第56図105	打製石斧	(7.4)	4.5	2.5	128.11	中粒砂岩	〃	上部欠損、No.130
	第56図106	打製石斧	7.3	5.2	1.3	53.16	細粒砂岩	〃	完形
	第56図107	打製石斧	(7.0)	4.8	1.3	60.34	泥岩質片岩	〃	下部欠損、No.71
	第56図108	打製石斧	(9.6)	5.0	1.5	95.05	中粒砂岩	〃	下部欠損、焼土3
	第56図109	打製石斧	(12.5)	(4.2)	2.3	103.00	泥岩	〃	一部欠損、No.109
	第56図110	敲石	(8.3)	(3.8)	2.4	98.12	細粒砂岩	〃	下部欠損、No.286
208住	第59図152	打製石斧	9.2	4.6	1.7	114.57	中粒砂岩	〃	完形、No.96
	第59図153	打製石斧	(9.8)	4.7	2.2	137.86	中粒砂岩	〃	下部欠損、No.40
	第59図154	磨製石斧	9.3	4.1	(2.4)	150.49	輝緑凝灰岩	〃	完形、No.58
	第59図155	石皿	(9.1)	(7.2)	5.2	303.71	多孔質安山岩	〃	1/4残存、No.221
	第59図156	凹石	(17.4)	(6.4)	5.5	884.14	輝緑凝灰岩	〃	2/5残存、No.116
210住	第60図172	石鏃	(1.8)	1.6	0.2	0.51	チャート	〃	先端部欠損、No.68
	第60図173	敲石	11.0	4.1	2.7	151.19	黒色細粒砂岩	〃	完形
	第60図178	小型磨製石斧	(3.2)	(2.3)	0.9	10.12	細粒砂岩	〃	上部欠損、周溝1
	第60図179	打製石斧	9.1	7.6	1.8	135.99	砂岩	〃	完形、No.8
	第60図183	石鏃	1.9	(1.5)	0.3	0.50	チャート	〃	一部欠損
遺構外	第60図184	二次加工剥片	1.8	1.4	0.5	1.46	黒曜石	〃	完形
	第60図185	小型磨製石斧	4.8	2.5	0.8	16.95	滑石(黒色・不透明)	〃	完形
	第60図186	敲石	13.3	4.5	2.4	252.09	細粒砂岩	〃	完形、トレンチ6

の沈線を充填している。10は接合していないが9と同一個体となろう。11は勝坂期の様相をとどめる口縁部先端が外湾した土器。口縁部にはRIの撚糸文を縦に施文した後、隆帯によって剣先の付いた横S字の文様を施文したもの。色調は灰白色で他の土器群が黒褐色を中心の色調に対し異彩である。12は、隆帯による立体縦S字の波状口縁の頂部。13、14は接合しないが同一個体と思われる。地文にRIの撚糸文を縦に施文した後、口縁部に2本の隆帯を貼付けして大きなS字を横位に施文し、胴部に隆帯2本の垂直懸垂文と1本の蛇行懸垂文を交互に施文。口縁部の大きなS字文には隆帯の脇に浅い沈線でなぞっている。15は口唇部を粘土紐の隆帯で、渦巻文の波頂部を構成する土器。16は渦巻による小波状口縁の波頂部。

17～24は胴部破片。17は半截竹管の平行線を密に施文し、隆帯の脇を細い沈線で区画したもの。18は太い粘土紐で頸部文様帯を区画しその上部に細い粘土紐で文様を施文したもの。胎土に2～3mmの石英を含み、頸部無文部の研磨が著しい。19は地文にRIの撚糸文を施文し、頸部無文部と胴部を2本の隆帯で区画し2本の隆帯で垂直懸垂文を施文したもの。20は地文RLの単節を施文後、2本の隆帯で垂直懸垂文、1本の隆帯の蛇行懸垂文。半截竹管の平行を隆帯の上にかぶせている。内外面の器面が荒れ、色調は黒褐色で石英等の砂粒が多い。21、22は2本の隆帯で垂直懸垂文の土器。21の地文は半截竹管による2本の平行線を施文。22の地文はRIをきつく巻いた撚糸文。23は地文RLの単節を縦回転した後、頸部と胴部の境界を二重の沈線で施文し、胴部にも沈線で渦巻文を施文。24は小形の異形土器。RLの単節を縦に施文。色調明茶色で胎土は非常に細かい精練された砂粒が混じる。25は口唇部が大きく張出し内湾した曾利系の影響を受けた土器。26は若干の上げ底気味の底部。地文はRIの撚糸文を底部ぎりぎりまで施文し、大きな渦巻を2本の隆帯で下半部にまで施文したもの。27・28は浅鉢形土器。27は分厚い口縁部破片。内外面は非常に研磨が著しい。2～3mmの石英等の小砂利を多量に含み、粘土に混じっていたと思われる微細な雲母も観察される。28は、外湾する口縁を欠落しているが、直下に擬口縁が観察される。沈線で横S字の平行に施文し、平行沈線の間に立てに刻を加える。加曾利EⅠ式期中頃の所産である。

【第206号住居出土遺物】29～31は石器である。詳

細は第17表参照。

32は埋甕に使われた土器である。直径25cm。現存1/2。器面に5～6本を単位とする櫛歯状工具で縦に右から左へ一部重ねながら施文した後、粘土紐で頸部を横位に、口唇部から懸垂文を貼付けたもの。現存する範囲では、懸垂文は8単位となるが確かでない。2～3mmの石英等の小砂利を多量に含む。33は器面の風化が激しいが、地文に条線を施文後に、粘土紐で突出渦巻文を中心に連結したもの。隆帯の脇にはナゾリを入れる。

34は地文RLの単節に粘土紐で文様を施文したもの。隆帯の脇にはナゾリを入れる。35は地文は縦の沈線で、口唇部直下の隆帯脇にはナゾリを入れる。

36～39は胴部の破片。36は頸部の破片。地文は8本位の櫛歯状工具による条線。37は地文RLの単節を縦に施文。垂直懸垂文は拓本では隆帯に見えるが、半截竹管で2本の平行線を重ねながら引き磨消状になっている。38は、地文RLの単節。半截竹管で2本の平行垂直懸垂文を施文するが、地文は磨消されない。39は地文半截竹管で2本の平行垂直懸垂文を重ねて施文したもので、櫛歯状工具の条線のように見える。蛇行懸垂文は地文施文後に貼付けたもの。40は地文の条線に連弧文を施文した連弧文土器の破片。

41は、曾利系の口縁部無文の大形の深鉢形土器破片、内面黒色で1～2mmの粒子を多量に含む。42は浅鉢形土器の破片。色調明茶色。内外面に横へう磨きが丁寧に施されている。胎土に黒色化したような鉱物が混入され、特異な土器である。43は浅鉢形土器の底部。底径約9.5cm。微小の白い砂粒が多量に混じる。底部下端に横位のへう削りを施しているが、それ以外の外面と内面は丁寧なへう磨きを施す。

44は、後期称名寺式土器の口縁部破片。口唇部は厚く斜位に調整され称名寺式の典型。

45、46は土器片再利用の土製円盤。45は17.36g、46は26.27gである。

【第207号住居出土遺物】50は口縁部上半が無文で垂直に立ち上がる土器。地文にRIの撚糸文を横位に施文後、横S字状に隆帯を貼付けたもの。口縁部文様帯の湾曲は極端に円形になる。

51は地文にRIの撚糸文を横位に施文後、粘土紐で渦巻文を貼り付けたもの。粘土紐の脇には沈線が引かれない。52は地文にRIの撚糸文を縦に施文後、2本の粘土紐で横位のS字文を貼付けたもの。粘土紐の脇

には沈線が引かれない。53は地文にRLの撚糸文を縦に施文後、2本の粘土紐で横位のU字文を貼付けたもの。口唇直下の粘土紐の脇に沈線はないが、横位のU字文には沈線が引かれる。54、55は文様を施文した粘土紐がよく磨かれている。56は地文にRLの単節を横位に施文後、隆帯とその両脇を研磨している。57は地文にRLの単節を縦位に施文後、隆帯とその両脇を研磨し、文様を浮き上がらせている。58は地文にLrの撚糸文を横位に施文後、貼付けした粘土紐上から連続的に押圧をかけて波状に隆帯としたもの。59は、地文にLRの単節を縦位に施文後、頸部に低い隆帯を貼付け、沈線で楕円の文様を付けたもの。60は隆帯による区画文の内側に縦の沈線で文様を施文したもの。61は地文にRLの撚糸文を縦に施文後、粘土紐を貼付け研磨し、粘土紐の隆起は平らになっている。62は頸部の無文帯に粘土紐を貼付け沈線で区画し、境には沈線を縦方向に加えたもの。63は頸部区画を2本の隆帯で区画したもの。隆帯の研磨が著しい。

64～68は胴部下半の破片。64は地文にRLの単節を施文後、2本の隆帯で垂直懸垂文と半截竹管で幅5mmの2本の平行沈線で蛇行懸垂文を施文したもの。懸垂文を、蛇行と垂直の2種の隆帯と平行沈線で区別するのは珍しい。65は地文にRLの単節を縦位に施文後、隆帯で垂直懸垂文を施文したもの。66、67は地文にRLの撚糸文を施文。66は、隆帯による蛇行懸垂文を加え、隆帯の脇を研磨したもの。67は2本の隆帯で垂直懸垂文を加えたもの。68は、地文にRLの撚糸文を縦に施文後、2本の隆帯を貼付けし、さらに隆帯を半分に分けるように半截竹管で平行沈線を加え、見た目に4本の隆帯にしたもので、極めて珍しい。

69、70はいわゆるブラジャー文様で別個体の土器。両者ともに入り組み渦巻文である。71、72は曽利系の土器。71は通常的口縁部は無文となるが、縦に粘土紐を貼付け後、RLの無節を縦方向に施文。72は大きな鍵状の口唇部を付けたもの。

73～76は浅鉢形土器。73は口径40cm(推定)。現存1/4。内外面ともによく研磨されている。胎土に石英等の白色粒子を多量に含む。色調は黒褐色。74、75は接合しないが同一個体と思われる。RLの単節を縦に施文後、粘土紐と沈線で文様をつけたもの。76は下半の破片で器表面方向から補修孔が穿孔されている。77は底部破片で、拓本の上半に弱いRLの撚糸文が施文。

78～80は炉の中から出土したもの。78はRLの単節を縦位に施文後、磨消による垂直懸垂文としたもの。79は地文がRLの撚糸文を縦に施文後、垂直懸垂文を施文したもの。撚糸文を施文したのは珍しい。80は地文はRLの単節で懸垂文の間の蛇行懸垂文と思われる。81と82は隆帯の渦巻文の脇を大きくなぞるもの。地文LRの単節による縄文。82は磨消帯による垂直懸垂文。83も同じ土器の仲間で、胴部U字状の懸垂文。84は口縁部直下に沈線が巡り、幅広の沈線でU字状の垂直平行懸垂文を施す。地文は縄文である。85は地文無節RLを横回転し、浅い幅6mmの広い沈線で、楕円状の文様を描くもの。86は地文6～7本の櫛歯状工具で条線を施し、隆帯で弧線を連弧のように回すもの。連弧の連結部は指で天井に押捺。隆帯の脇には幅3mmの沈線を深く施文。87は地文RLの撚糸文を縦に施文後、2本の沈線で連弧文を描いたもの。88は口縁部付近の土器片。2本の沈線で大形の渦巻文を施文、RLの単節を充填したもの。88は2本の隆帯で大きな渦巻文を施文するもの。90は1本の隆帯で渦巻文を施文するもの。89、90の地文はRLの単節を粘土紐を貼付けた後に施文。91は曽利系の土器。ひねり蛇行懸垂文を貼付け、幅3mm、深さ3mmの深めの沈線で斜状または矢羽根状に施文。

92～98は、胴部の磨消し懸垂文の土器。92は細い沈線でLRの単節。93、95～97は断面が丸い沈線で、幅5～6mmで強く浅く施文。96は大きな渦巻文になるかもしれない。98は沈線を複数回施す。縄文は95がLRの単節、98がLRLの複節。他はRLの単節。99は、鉢形の有孔罅付土器の破片で、丸い円形の文様と「U」または大きな渦巻文の文様が太い沈線で施文。内面の研磨を丁寧に施している。100は樽形の有孔罅付土器。内外面ともに器面の研磨を丁寧に施し、目立つ粒子の混和材はない。101は浅鉢形の土器で、口縁無文帯の区画に一条の沈線を廻し、胴部下部をRLの単節を施文したもの。102も同一個体。

103は口縁部に粘土紐を貼付け、口縁としたもの。指頭押捺痕が残されている。安行3c、3d式の無文粗製土器。

104～110は石器で、詳細は第17表に記載。

107号住居は加曽利EⅠ式期の土器とEⅢ式期の土器に分かれる。このうち81と82はEⅡ式の様相を強く残し、また91の曽利Ⅲ式の最末期である。これが実態としての姿であろう。

103の口縁部片は安行3c、3d式の所産で、一点だけを確認した。何故に出土したのか。

【第208号住居出土遺物】111は炉体に使われた土器である。口径45cm(推定)現存1/4。2本の隆帯で1本の渦巻文を連結させ、間に3本の縦状の隆帯で、無文帯を挟んで懸垂文に繋がる。隆帯の両脇には幅7mmの沈線によるナゾリ。地文RLの単節を横位に施文。色調茶褐色で2～3mmの石英等の小砂利を多量に含む。112は口径21cm。1/5現存。胴部に地文RIの撚糸文を施文。口縁部文様は縦沈線で充填。渦巻文の脇に沈線でなぞる。隆帯による突出度が弱いが突出渦巻文。

113は口径16cm。器高19cm、底径7.5cm。口縁部一部欠、胴部1/8欠。地文はRLの単節を縦に密に施文。2本対の沈線で口縁部と頸部を区画し、口縁部に連弧文を、胴部に蛇行懸垂文を配置する。口縁部は一部欠落しているが2個の連弧を想定できる。胴部には蛇行懸垂文一つを想定できよう(文様分析は後述)。

114は口縁部中位1/2現存。推定口径26cm。地文にRIの撚糸文。幅5mmの3本の沈線で、口縁部の一段の連弧文と胴部一段の連弧文を施文。口縁部の連弧は幅に大小の違いがあり7～8単位になる。口縁部の連弧文には磨消しが施されている。

115は直径32cm。口縁から胴部径1/2現存。地文にRIの撚糸文。撚糸は5巻きの絡条体。

文様の施文具は半截竹管の平行線を2重に施す。磨消は無い。上部の連弧は二段になり4つの連弧が認められるが、そのうち一つ(図示左側)の連弧が大きく描かれ、他と異にしている。したがって、全体では8～9の単位になろう。

116は口径22cm。1/2現存。4単位の緩い波状口縁。口唇部は内側に鍵状に突出。地文RLの単節、幅1cmの半截竹管で2本の平行沈線で文様を施文。波頂部から渦巻文を挟み2対の平行沈線で直線懸垂文を施文し、懸垂文間に上下に「U」字状と「∩」字状を対とする連弧の一種を施文。

117は地文にRIの撚糸文。幅4mmで1本ずつによる3本の沈線で連弧文を施文。この土器片は、他の土器に見られない内面に木口状工具により横位にナデを施す。胎土にも黒色の粒子状の鉱物を含み他と異なっている。あるいは黒鉛かもしれない。206住居の42の浅鉢形土器に似る。

118は底径10cm。底部完存。地文6～7本の櫛歯状工具による条線を施文。胴部を中央で区切る幅4mmで1本ずつによる3本の沈線の上下に3本単位の連弧文を施す。

119は地文に5～6本単位の櫛歯状工具で条線を縦に施し、口縁部直下に半截竹管の平行沈線を2周(4本)、胴部も同じく、さらに胴下半にも同じく施文。胴部は3段施される。120は口径19.5cm。1/5現存。地文に6本単位の櫛歯状工具で条線を縦に施し、口唇部に一条の隆帯を巡らせる土器。121は口径10cmの小形波状口縁の土器として復元した。1/4現存。地文にはやや斜位にRIの撚糸文を密に施文。

122は、曾利系の土器のように内側に鍵状に突出。地文に櫛歯状工具により条線を施文、粘土紐を貼付けた両側は沈線でなぞる。123は内湾気味の口縁につながる破片から、また頸部は粘土紐を貼るが両側の磨きは著しく、内面の磨きも顕著で胎土も精錬され小砂利の混入が目立たないことから、浅鉢形土器と考えてみた。124は地文の条線を施文後、胴部に2本の隆帯で懸垂文を施文した大形土器。125は半截竹管による2本の平行沈線を条線として施文。隆帯による蛇行懸垂文を貼付けた下半部の破片。126、127は地文にRLの単節。126は一本の隆帯を貼付。127は、一本ずつ3本の沈線で沈線間に磨消しを施したもの。128は地文を密な櫛歯状工具で施文後、2本の沈線で垂直懸垂文、1本の沈線で蛇行沈線を施文。129は口唇部が内側に鍵状に突出した曾利系土器の口縁部。

130～139は連弧文の土器。130、131は口唇部に交互刺突文を施した連弧文の土器。130は地文RL、131は波状口縁で地文RIの撚糸文。132～139はいずれも連弧文の胴部破片。132は地文条線、太い沈線による。133、134は地文撚糸文、135～139は地文条線。135、136は沈線による1本ずつ引いた連弧文。137、138の条線は6本単位の条線が明瞭で、半截竹管による平行線を対に(4本)引いたもの。139は地文条線で1本ずつ沈線を引き、連弧文の間に垂直懸垂文を加えている。

140は隆帯脇の磨きが著しい加曾利EⅢ式期の土器。141～144は浅鉢形の土器。141は胎土に1mm以下の極小の粒子を多量に含み、内外面の研磨が著しい。142は水平の口唇部に拓本図下半に屈曲があることから浅鉢と判断したもの。143は口縁部が「く」字状に成形され横位の沈線の間に交互刺突が付く。144

は、口縁部に無文帯が一周し0段3条のRLを縄文を施文。胎土に2～3mmの石英を多量に含む。145、147は底部破片。145は底部全面に1段くぐりの網代痕が付く。146は底部面に光沢をおびた磨きを施す。

148～150は土器片再利用の土製円盤。148は11.84g、149は14.51g、150は15.88g。151は土製耳飾りで、重さは7.36g。152～156は石器で、詳細は第17表参照。

【第209号住居出土遺物】文様の判明し図示できたものは2点のみである。157は加曽利EⅡ式の破片で、二本の沈線の間には無文の磨消し。

158は拓本図示の上端は上方法へ内湾する屈曲部で、疑似口縁が見られる。胎土に1mm以下の白色の粒子を多量に含む(白色針状物質の可能性あり)。

【第210号住居出土遺物】159は口径34.0cm。2/3現存。胴下半部欠。地文8本単位の櫛歯状工具による条線を口唇部から胴部の括部まで一気に施している。連弧文と、口唇部の文様、それに括部の横位の文様は、半截竹管の平行線によるもの。胎土に石英等の白色の粒子を多量に含む。連弧は2本単位の平行線を基本にして全周させ、一部口唇部から1本の平行線を連弧の上端に加える。連弧連結部から蛇行懸垂文を引く。欠落部には連弧文の乱れが想定される。展開図の▲印上方の沈線は一本による(詳細は展開図を参照)。

160はブラジャー文様の渦巻突起が剥落したもの。161、162は突出渦巻文の同一個体。口唇部内面の折返し口縁跡の接合痕が著しい。

163～165は地文が条線の同一個体。6本単位の櫛歯状工具の条線を密に施文。163には蛇行懸垂文、165に直線懸垂文を施文。

166は、底部径10cm。地文はRLの単節。底面は水平に磨かれ光沢がおびる。底部より5cmは無文でよく磨かれ無文帯をつくる。懸垂文は2本の丸い沈線で、間の磨消しは一部縄文が残り不十分である。懸垂文の下端は浅い。

167と168は曽利系の破片。167は口唇上面と器面に沈線による斜線を施し、口唇部から隆帯による蛇行懸垂文が付く。補修孔が穿たれているが、貫通していない。168は地文胴部にRLの単節。口縁部無文帯で外湾し、頸部に交互刺突による波状隆帯を貼付け。

169、171は同一個体。口径36cm、底径11cm位の浅鉢形土器(1/4現存)。色調明茶褐色に1mm以下の白色鉾物の混入が目立つが、3～4mmの赤茶色の鉾

物が集中的に混じる。170は細かいRLの撚糸文が施文された底部破片、蛇行・垂直懸垂文が浅く施文。

172～179は石器で、詳細は第17表に記載。

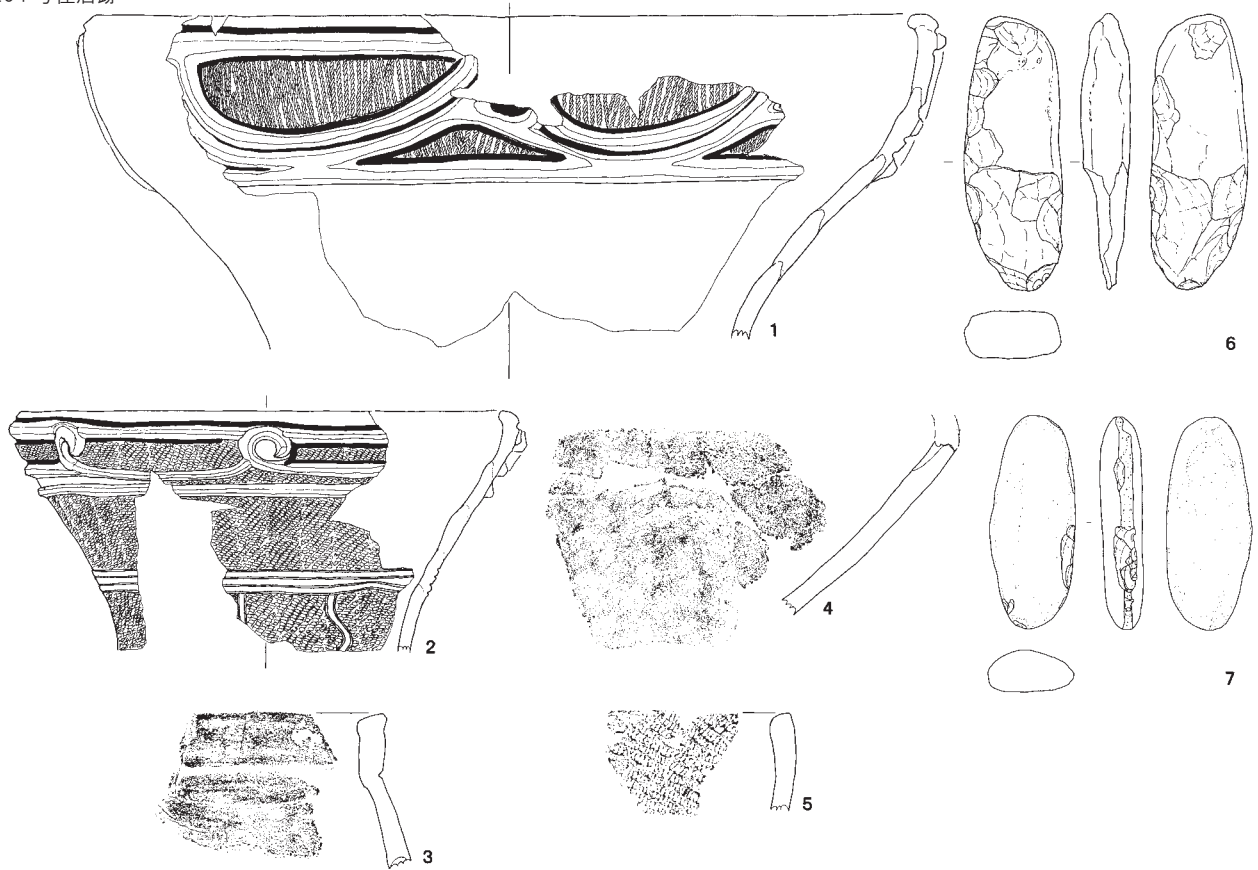
【第212号住居出土遺物】174は直径13.5cm。1/2現存。地文にRLの撚糸文を口縁部は横位に、胴部は縦位に施文。口縁部文様は粘土紐を貼付け、渦巻文を連結し、1/2の破片から推定すると5単位の文様となる。頸部に粘土紐を貼付け一周させるが、両側に磨消しが施され幅3cmの無文帯を表していることを重視したい。175は立体渦巻文で地文にはRLの撚糸文を施文。176は頸部、胴部、底部と3つの破片で復元実測をした曽利系の土器。頸部胴部の縦位の文様は幅8mmの半截竹管で平行沈線を2mmずつ離して施文したもので、2mm、8mmの二重の間隔が器面を装飾している。

177は口径、内傾部直径17cm。いわゆるブラジャー文様の土器。器面文様は粘土紐を貼付けしたもので粘土紐の間に1本の沈線で浅くなぞり整形をしている。図示にあっては、実測図・展開図ともに粘土紐を白く描いた。黒く塗った箇所は器面を表す。口縁部は2条の隆帯で波状となる。「U」と「∩」の組み合わせが6単位である。その相互の間に弧状渦巻文を充填したもの。但しUの空間に充填した渦巻文は一つだけ異なっている。また、∩の空間に充填した渦巻文は一つだけ渦巻連弧になっていない。かつ一ヶ所は欠落して不明となっている。胴部文様は3本の隆帯で大きな波状を描き、4ヶ所のブロックに分けている。その中を大渦巻2個と小渦巻2個、大渦巻2個、大渦巻1個と小渦巻2個、そして推定であるが小渦巻2個と大渦巻1個の組み合わせとなるであろう。これについては後述する。

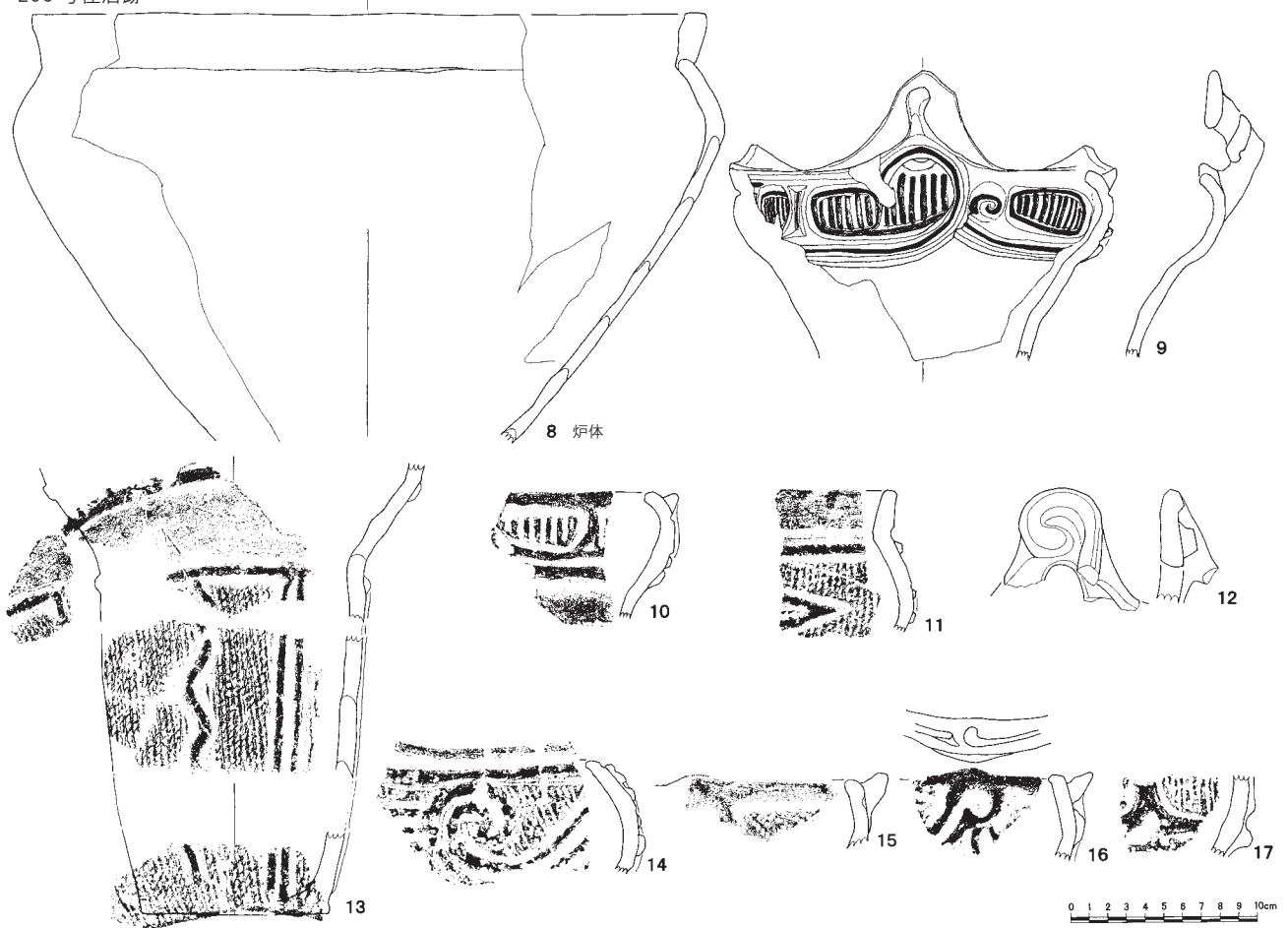
【遺構外の出土遺物】180は浅鉢形の阿玉台1b式土器。色調、明茶褐色。胎土に石英の2～5mmの大粒の鉾物を含む。研磨は非常に丁寧で器厚も重量がある。口唇部内側に3本の沈線がまわるが、2本は細い結節沈線を加えている。特に中央のものは刺突に近い。

181は大形樽形の有孔罌付土器。「孔」は器体内部に貫通せず、罌を貫通するもの。色調は暗茶褐色で、胎土は非常に細かく精錬されている。182は浅鉢形土器と考えられる。口縁部の無文帯を胴部の境を沈線で区画するもので、内外面赤彩を施している。

204 号住居跡

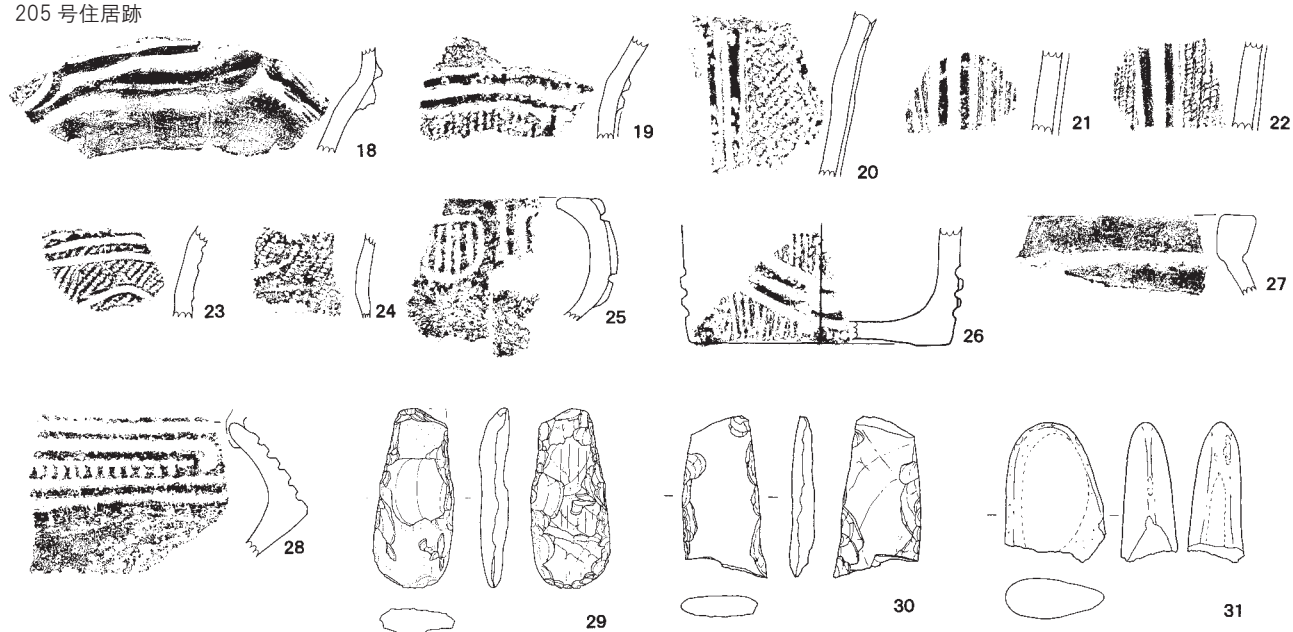


205 号住居跡

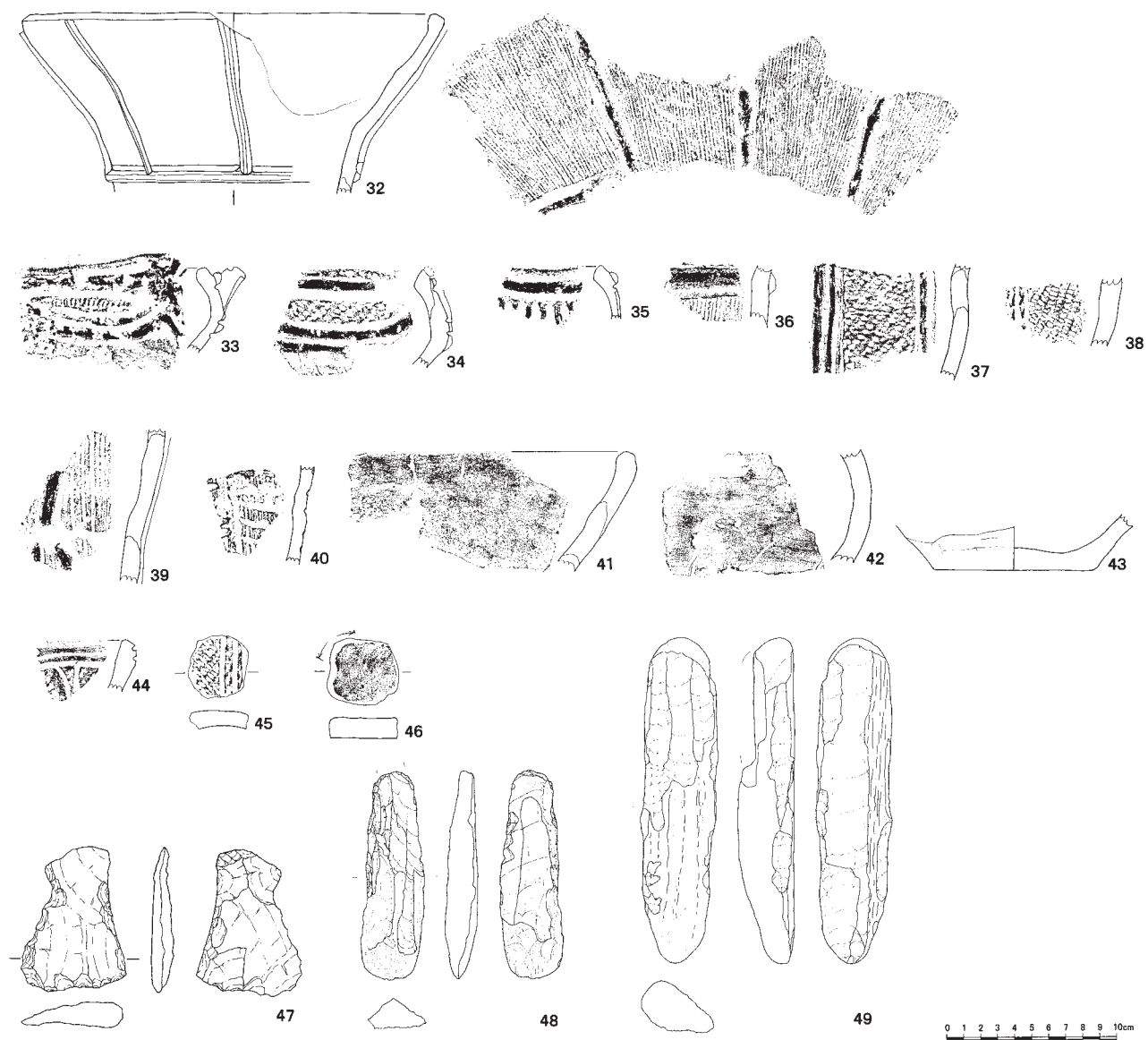


第 53 図 西ノ原遺跡第 159 地点 204・205 号住居跡①出土遺物 (1/4)

205号住居跡



206号住居跡

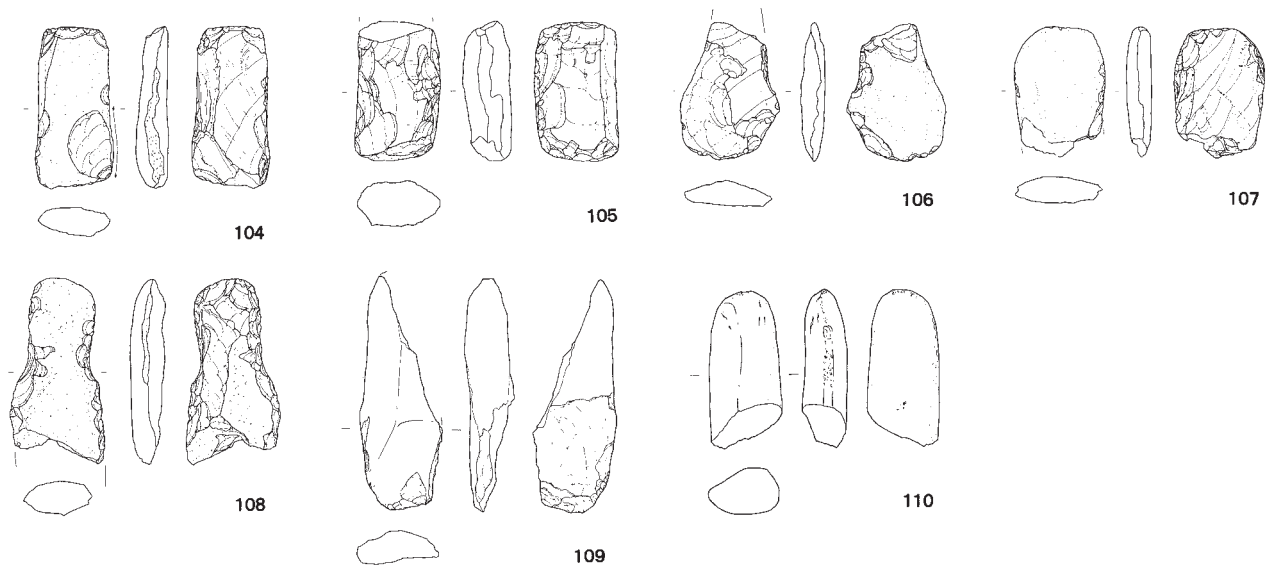


第54図 西ノ原遺跡第159地点 205②・206号住居跡出土遺物 (1/4)

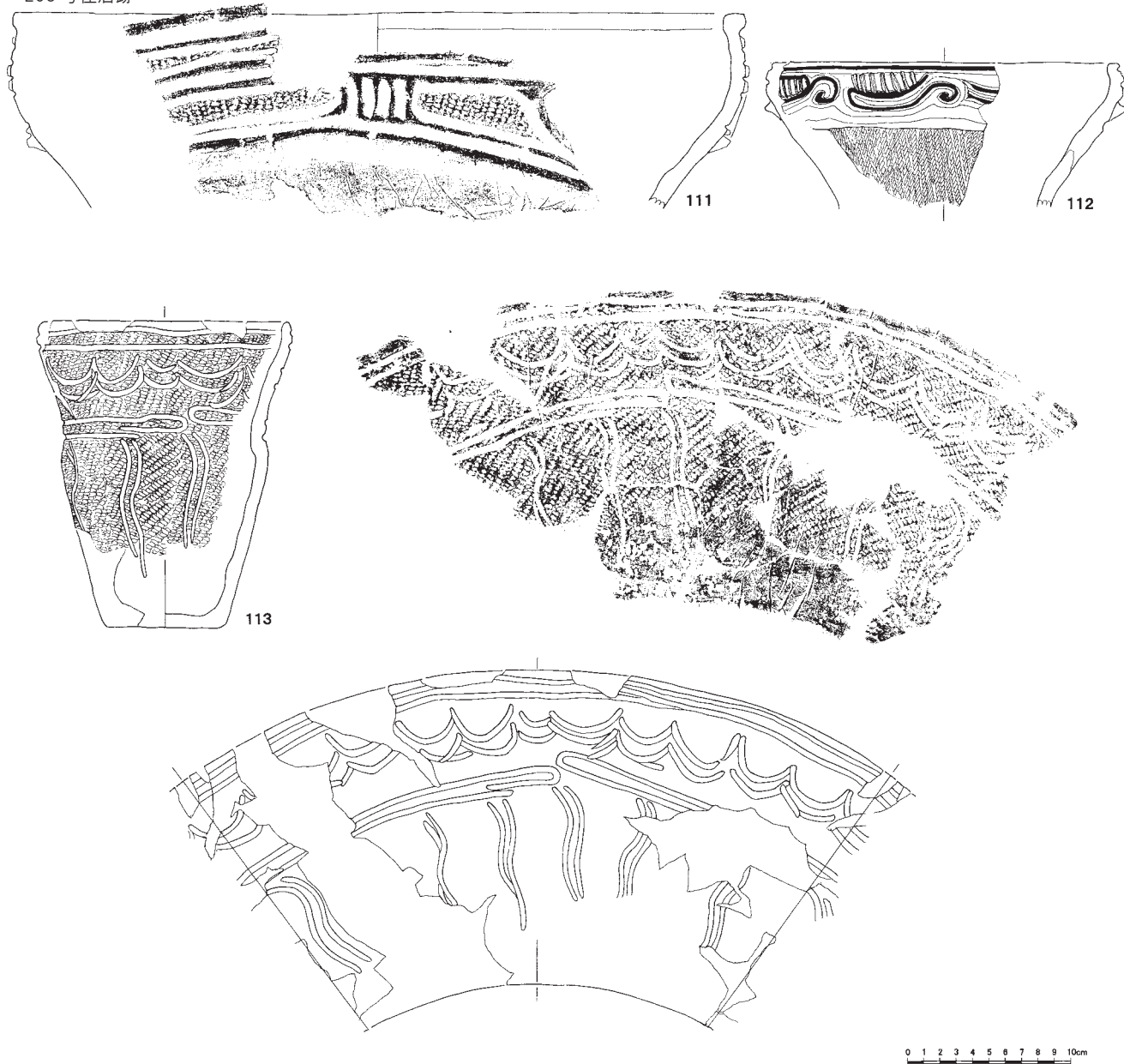


第 55 図 西ノ原遺跡第 159 地点 207 号住居跡出土遺物① (1/4)

207号住居跡



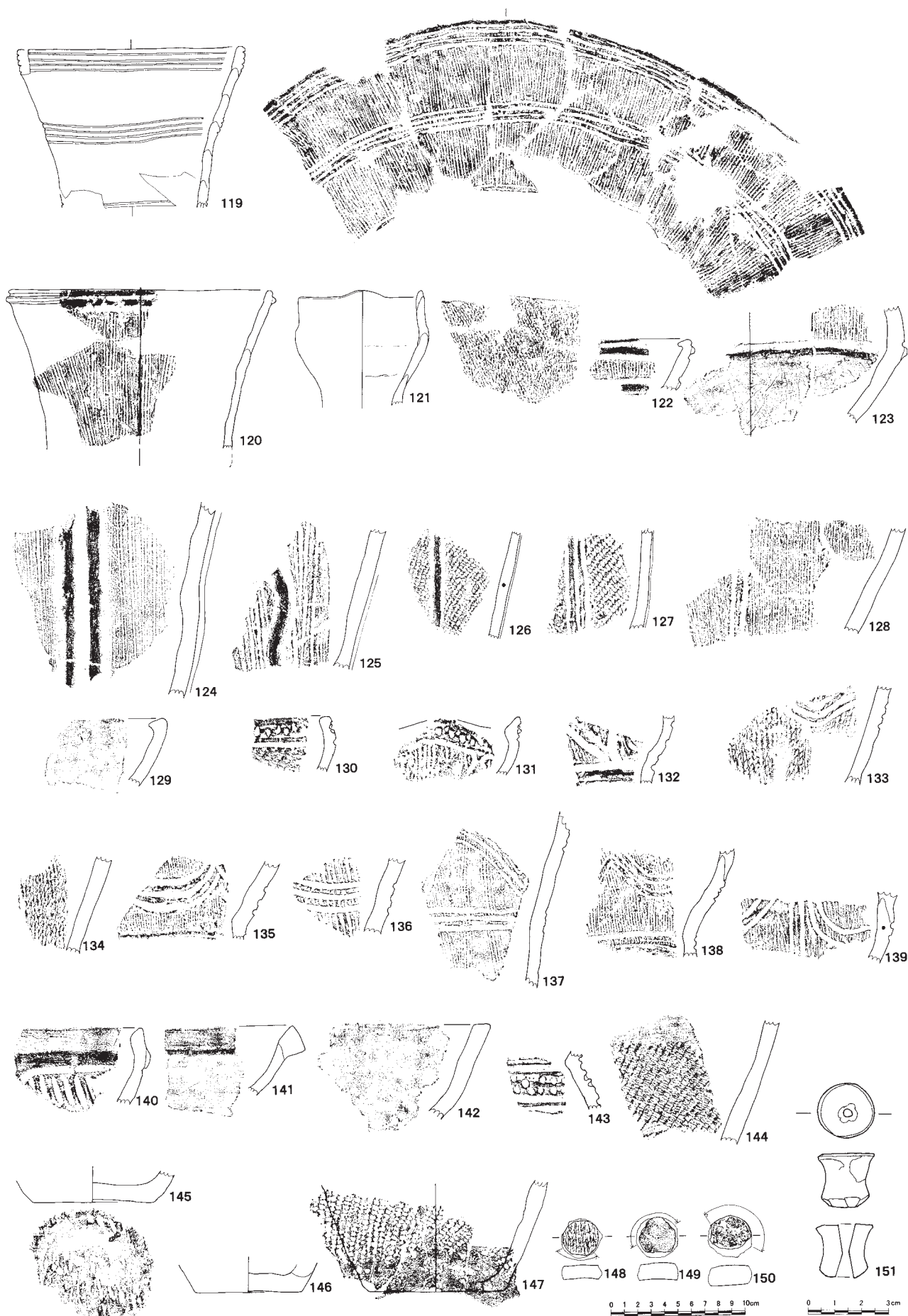
208号住居跡



第56図 西ノ原遺跡第159地点 207②・208号住居跡①出土遺物(1/4)

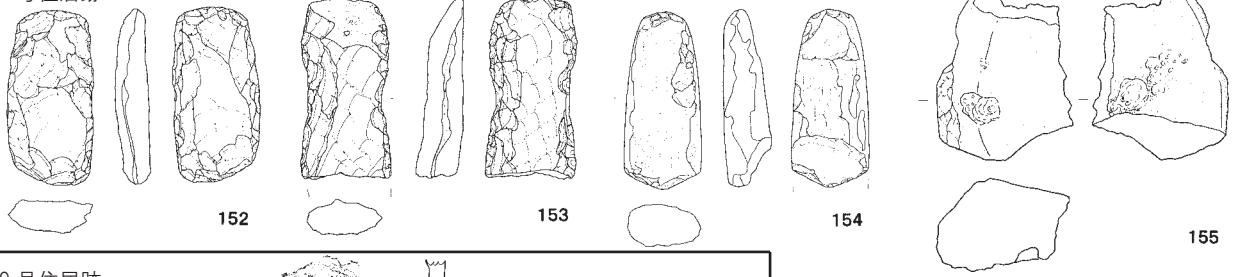


第 57 図 西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡出土遺物② (1/4)

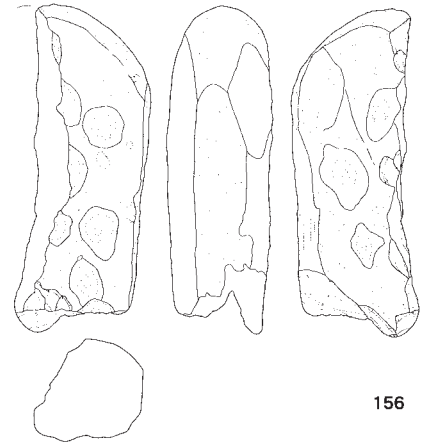
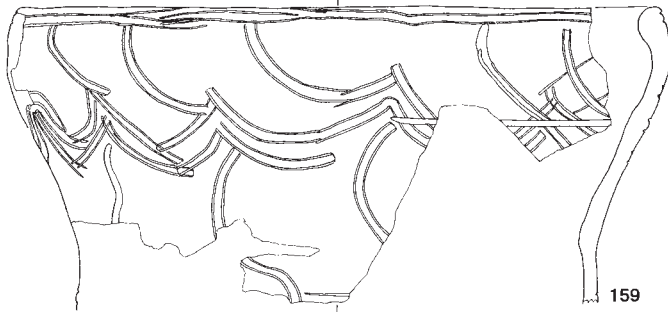


第58図 西ノ原遺跡第159地点208号住居跡出土遺物③ (1/4・1/2)

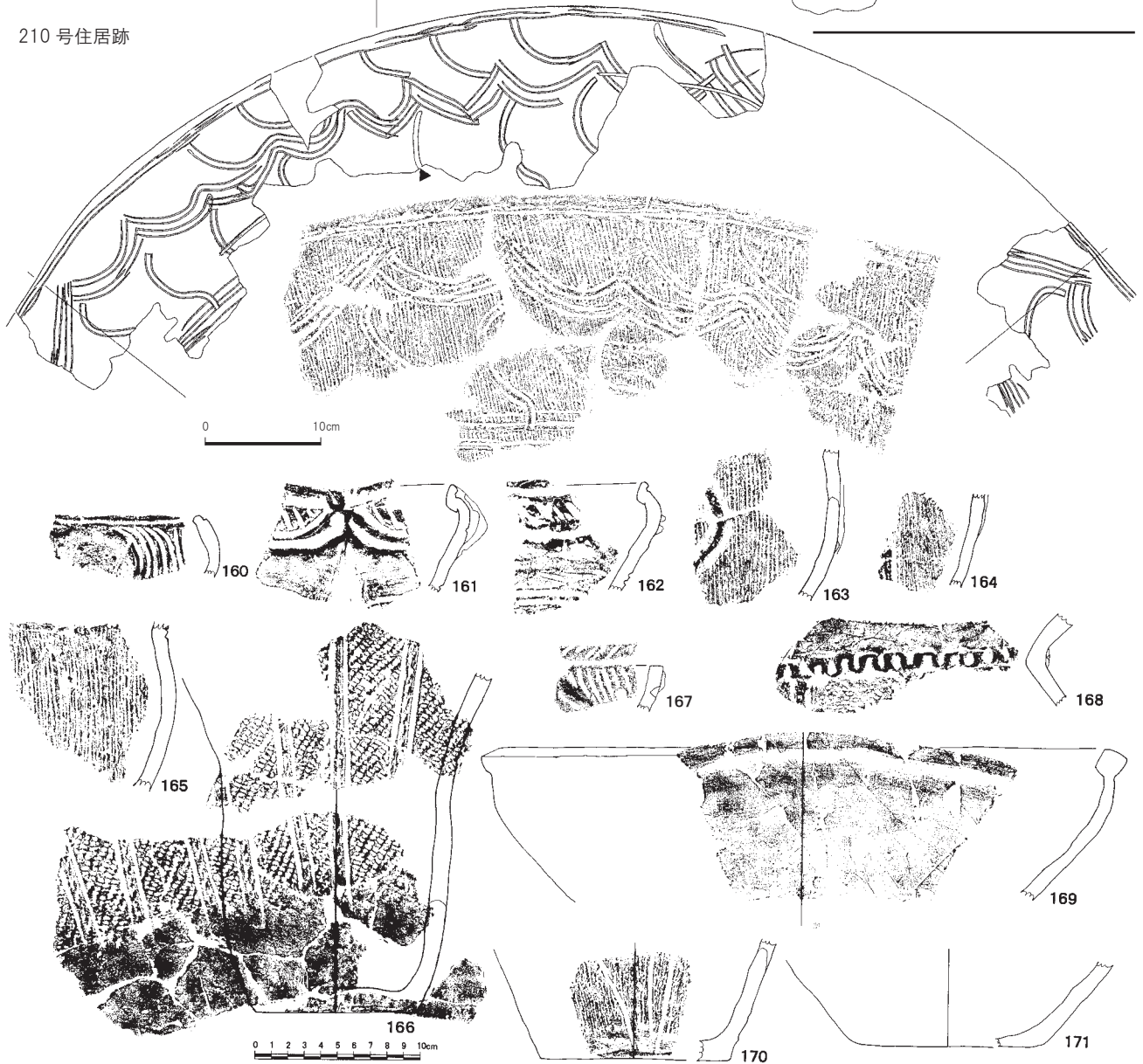
208 号住居跡



209 号住居跡

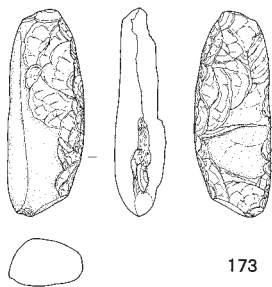
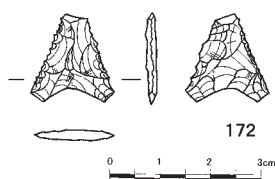


210 号住居跡

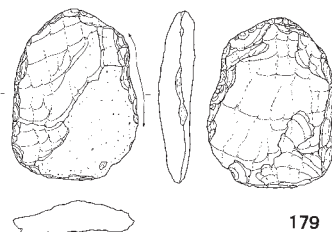
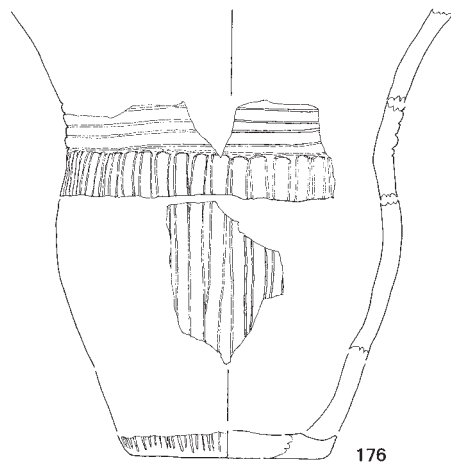
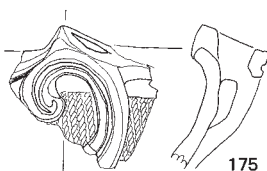
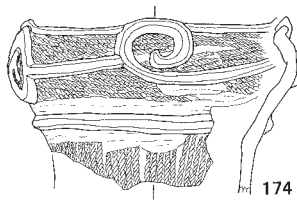


第 59 図 西ノ原遺跡第 159 地点 208 ④・209 号住居跡出土遺物 (1/4)

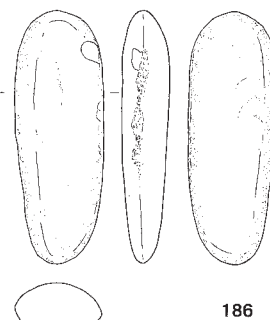
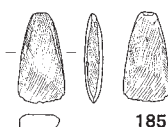
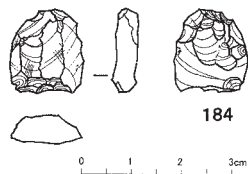
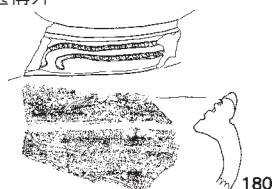
210号住居跡



212号住居跡



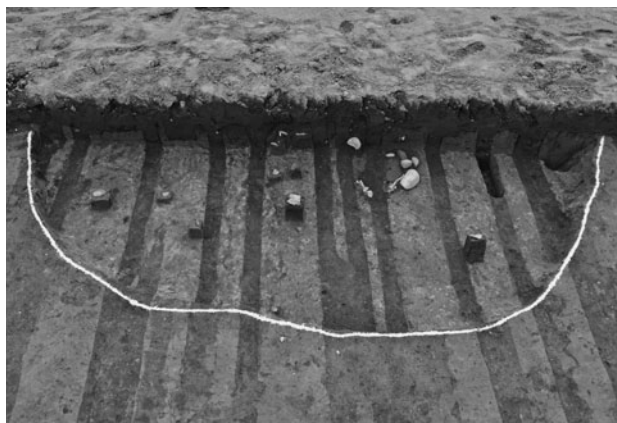
遺構外



第60図 西ノ原遺跡第159地点 210・212号住居跡・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)



西ノ原遺跡第 159 地点 204 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 159 地点 204 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 204 号住居跡炉



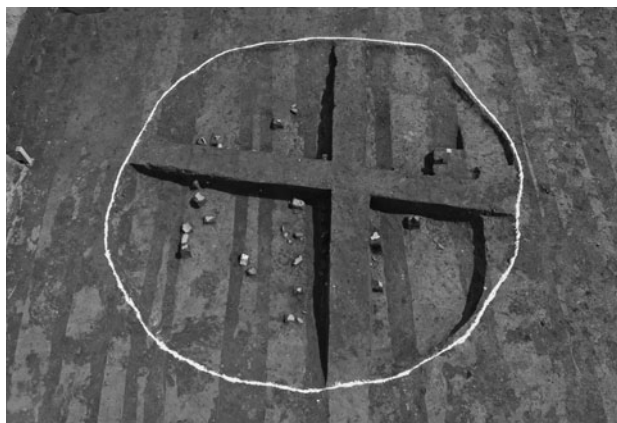
西ノ原遺跡第 159 地点 204 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 159 地点 204 号住居跡土層



西ノ原遺跡第 159 地点 205 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 159 地点 205 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 205 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 205 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 205 号住居跡遺物出土状況



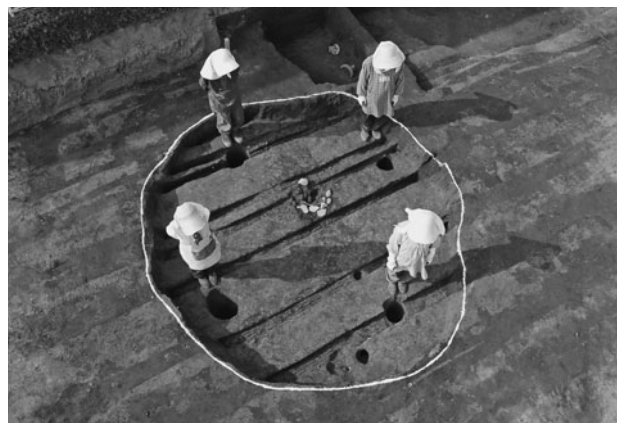
西ノ原遺跡第 159 地点 205 号住居跡土層



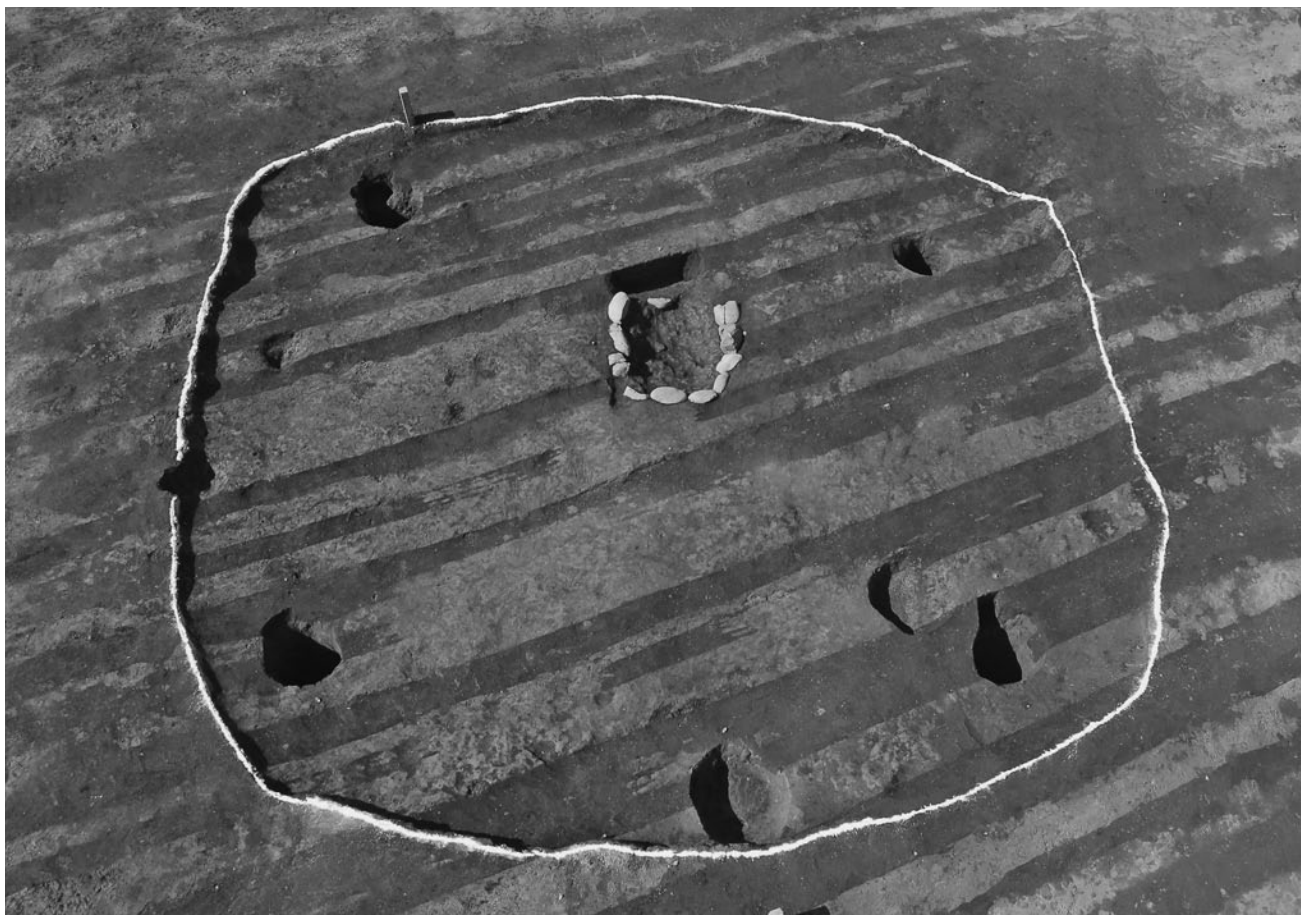
西ノ原遺跡第 159 地点 205 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 159 地点 205 号住居跡炉掘方



西ノ原遺跡第 159 地点 205 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 159 地点 206 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 159 地点 206 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 206 号住居跡土層



西ノ原遺跡第 159 地点 206 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 159 地点 206 号住居跡炉土層



西ノ原遺跡第 159 地点 206 号住居跡炉掘方



西ノ原遺跡第 159 地点 206 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 159 地点 207 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 207 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 207 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 159 地点 207・212 号住居跡全景



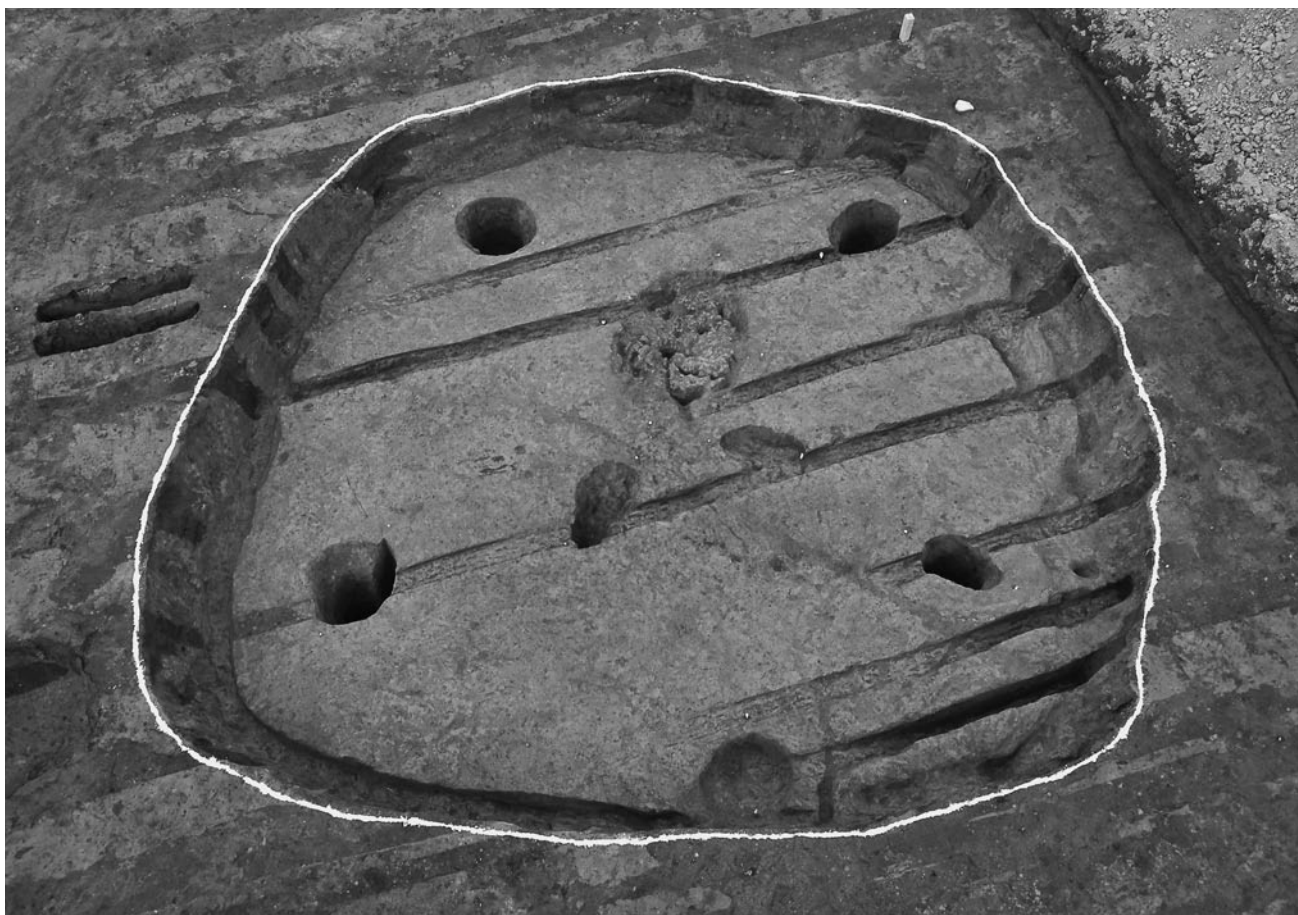
西ノ原遺跡第 159 地点 207 号住居跡炉遺物出土状況



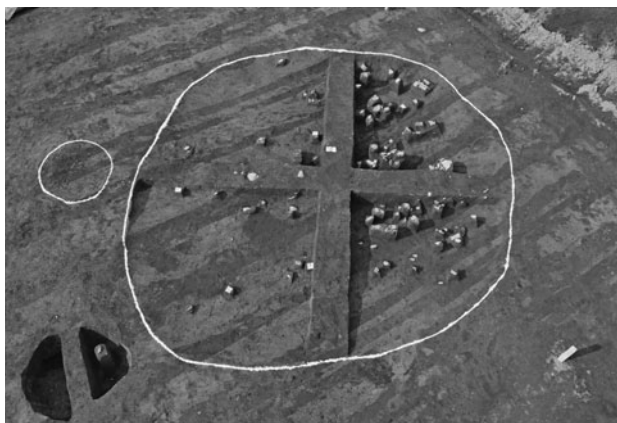
西ノ原遺跡第 159 地点 207 号住居跡炉掘方



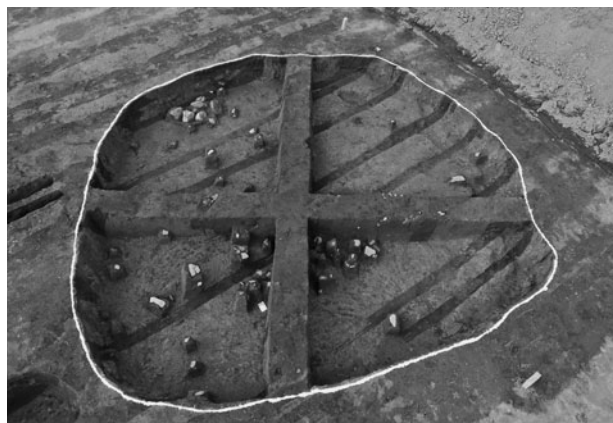
西ノ原遺跡第 159 地点 207 号住居跡ピット



西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡土層



西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡調査風景



西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡土層



西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡礫出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡炉土層



西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡炉掘方



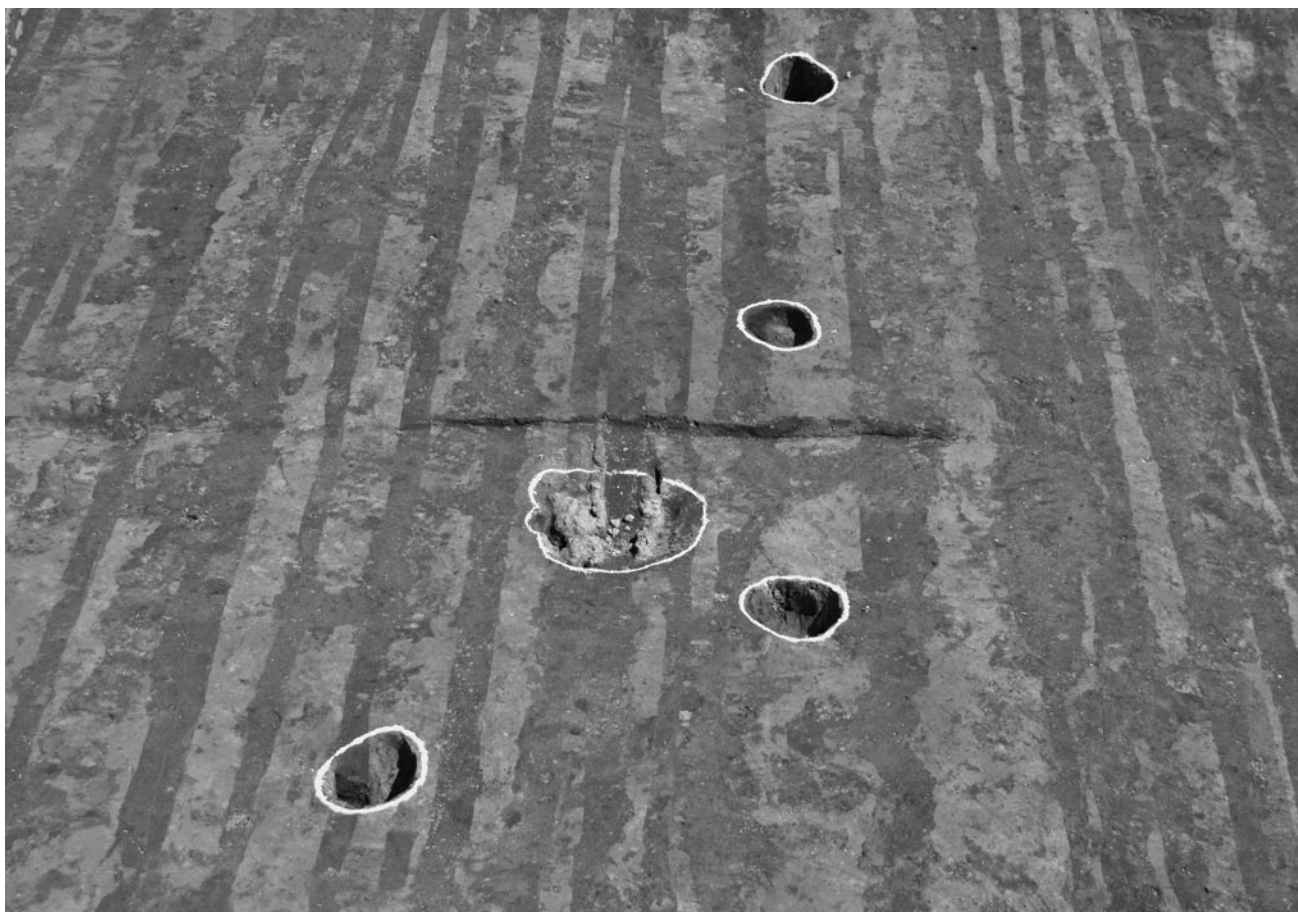
西ノ原遺跡第 159 地点 208 号住居跡全景



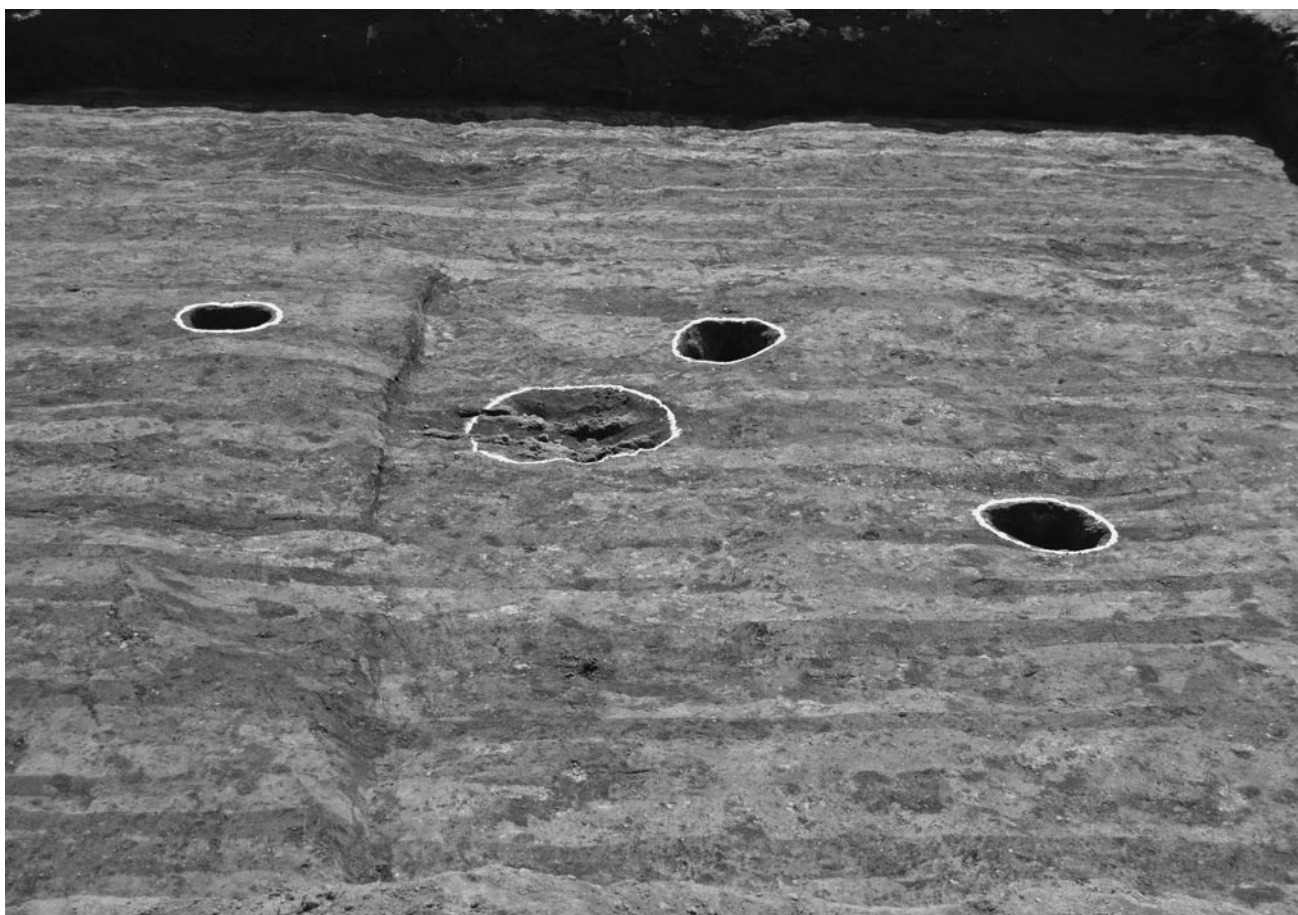
西ノ原遺跡第 159 地点 210 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 210 号住居跡遺物出土状況



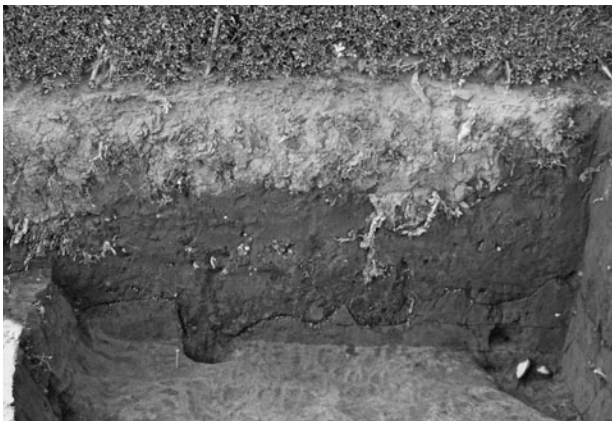
西ノ原遺跡第 159 地点 209 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 159 地点 209 号住居跡全景



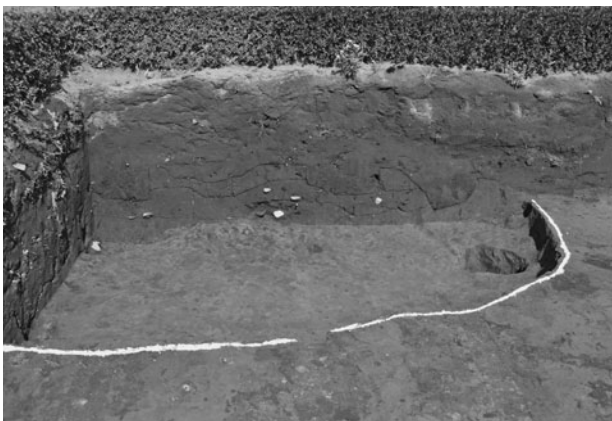
西ノ原遺跡第 159 地点 210 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 159 地点 210 号住居跡土層



西ノ原遺跡第 159 地点 210 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 159 地点 210 号住居跡土層



西ノ原遺跡第 159 地点 210 号住居跡調査風景



西ノ原遺跡第 159 地点 212 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 159 地点 212 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 212 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 212 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 159 地点 212 号住居跡炉土層



西ノ原遺跡第 159 地点 212 号住居跡焼土、ピット 2・3 完掘



西ノ原遺跡第 159 地点 212 号住居跡焼土ピット 2・3 完掘



西ノ原遺跡第 159 地点 212 号住居跡周溝



西ノ原遺跡第 159 地点 207・212 号住居跡



西ノ原遺跡第 159 地点 A 区全景



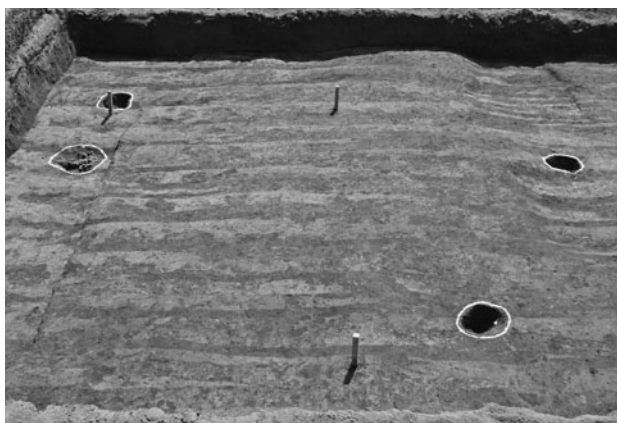
西ノ原遺跡第 159 地点 A 区全景



西ノ原遺跡第 159 地点 B 区全景



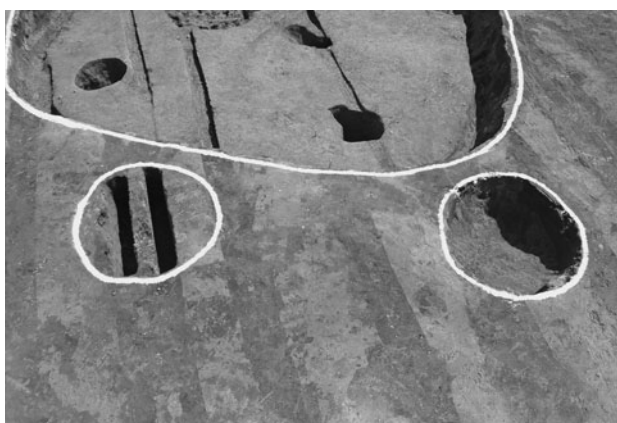
西ノ原遺跡第 159 地点 C 区全景



西ノ原遺跡第 159 地点炉穴 4、ピット 1・4・5



西ノ原遺跡第 159 地点炉穴 1



西ノ原遺跡第 159 地点炉穴 2・3



西ノ原遺跡第 159 地点炉穴 2



西ノ原遺跡第 159 地点炉穴 4、ピット 1



西ノ原遺跡第 159 地点炉穴 4



西ノ原遺跡第 159 地点プラン確認



西ノ原遺跡第 159 地点試掘調査全景



西ノ原遺跡第 159 地点試掘調査全景



西ノ原遺跡第 159 地点トレンチ 2



西ノ原遺跡第 159 地点調査風景



西ノ原遺跡第 159 地点調査区近景



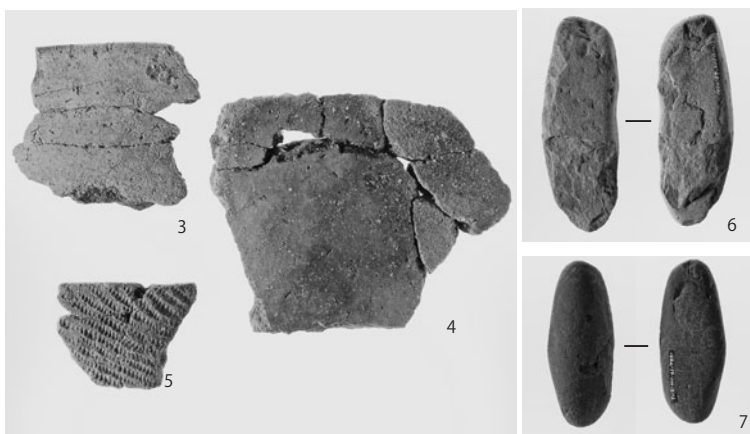
西ノ原遺跡第 159 地点調査区近景



西ノ原遺跡第 159 地点試掘調査風景



西ノ原遺跡第 159 地点調査風景



204 号住居跡出土遺物

205 号住居跡出土遺物 No.8



205 号住居跡出土遺物 No.9・10・26



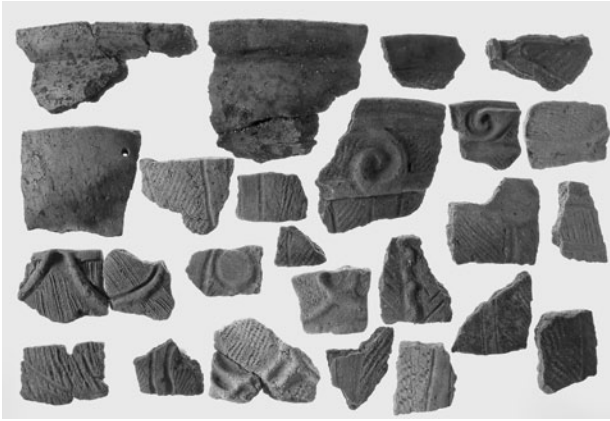
205 号住居跡出土遺物 No.11～25・27・28



206 号住居跡出土遺物 No.32～46



207 号住居跡出土遺物 No.50～72



207 号住居跡出土遺物 No.73 ~ 76・78 ~ 96

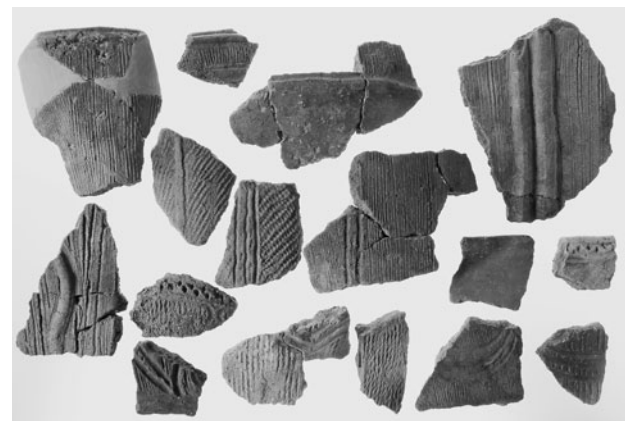


207 号住居跡出土遺物 No.77・97 ~ 103

208 号住居跡



208 号住居跡出土遺物 No.137 ~ 144・147・151

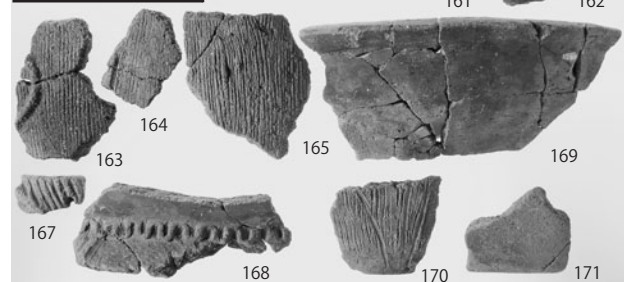


208 号住居跡出土遺物 No.120・122 ~ 136

209 号住居跡



210 号住居跡



209・210 号住居跡出土遺物

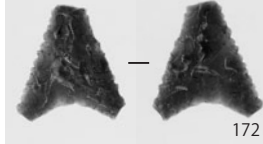
210 号住居跡



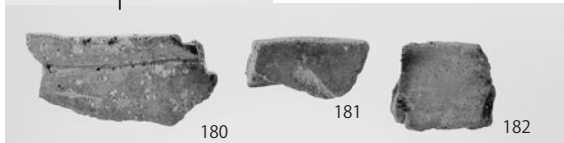
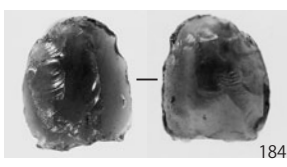
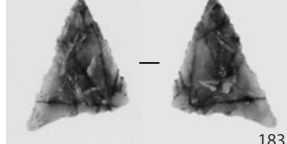
212 号住居跡



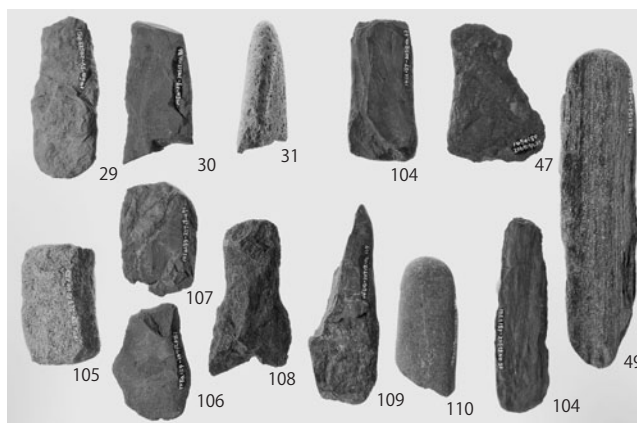
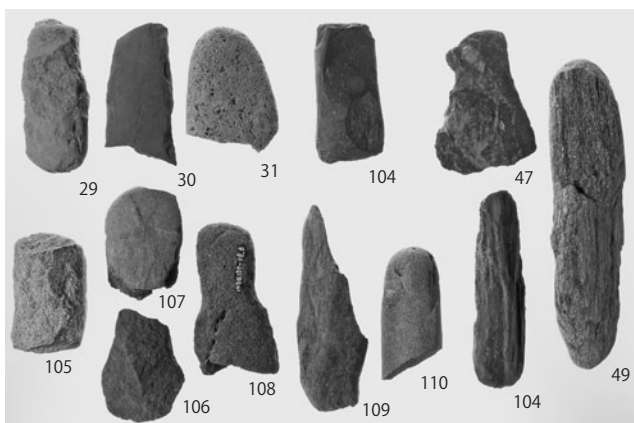
210 号住居跡



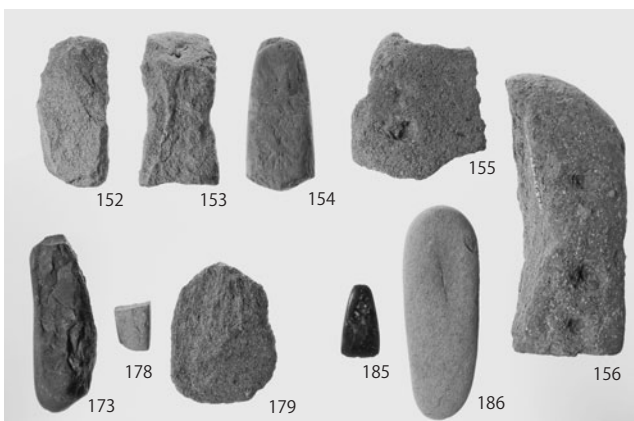
遺構外



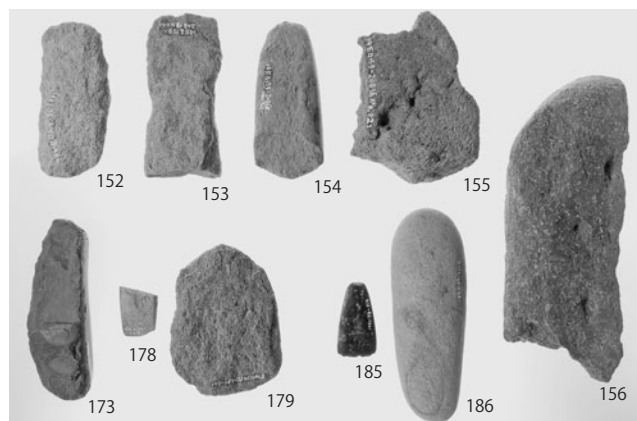
210・212 号住居跡、遺構外出土遺物



西ノ原遺跡第 159 地点出土石器①表



西ノ原遺跡第 159 地点出土石器①裏



西ノ原遺跡第 159 地点出土石器②表

西ノ原遺跡第 159 地点出土石器②裏

まとめ一西ノ原遺跡第 159 地点出土土器について（第 53 ～ 60 図）

【204 号住居跡】1 の炉体土器は加曽利 E I 式期最終末、2 は頸部文様帯に縄文を全面施文し渦巻文が口縁部文様帯いっばいに描かれ E I 式を逸脱した新しい様相。本住居跡は加曽利 E I 式の古い段階に構築、E II 式の初めまで営まれたのであろう。

【205 号住居跡】覆土層出土 9 は、大形渦巻の立体突手や 13 の隆帯による蛇行・平行懸垂文から加曽利 E I 式期中頃の所産。

【206 号住居跡】32 の埋甕は、曽利系だが全面に条線を施文。曽利系は口縁部が無文を原則とするのに対し、条線は加曽利 E II 式の連弧文土器に多用される地文の一つで、曽利系から連弧文に代わる段階の土器と考えられる。33 は突出渦巻文を中心に連結した加曽利 E I 式の新しい段階。37 の懸垂文は E II 式の細い磨消し。本住居跡は加曽利 E II 式の前段階に当たろう。

【207 号住居跡】本住居跡出土土器は、加曽利 E I 式期（中）と加曽利 E III 式期（古）の 2 群に分かれる。炉中の土器は後者の様相、86 や 91 の曽利系の土器などは、E III 式期まで残る連弧文や曽利系の最末期の土器。本住居跡は加曽利 E III 式期前段階。古い様相の土器群は、重複する 212 号住居跡床面出土土器と矛盾しない。103 は縄文晩期の安行 3 c、3 d 式と思われる。一点だけ出土し、当地域では、川崎遺跡第 9 次調査で、台地斜面下部で安行 3 式の土器片が出土するのみで、興味深い。（笹森 1987『埋蔵文化財の調査』(IX) 上福岡市教育委員会）。

【208 号住居跡】111 の炉体土器は、加曽利 E I 式期。112 は渦巻文が文様帯の幅に収まり頸部文様帯には全面撚糸文施文、加曽利 E II 式へ踏み出した前段階の様相。加曽利 E 系の土器は、E I 式期の最終末を境に急速に減少し、E II 式期に連弧文に置き換わる。覆土層の土器も連弧文土器が占め、E II 式に相当する事から、本住居跡は加曽利 E II 式期（古）の段階と考えられる。113 の連弧文土器は、頸部に施文された 2 本の沈線の区画帯により、上半と下半の文様帯に分かれる。上半の連弧文は、10 の弧と 1 つの小さい弧（小弧とする）が描かれ、下半の 6 個の懸垂文で成り立つ。欠損した箇所は幅 6.0 cm。およそ弧の幅は 3.5～4 cm で（小さい弧を除く）、欠損部分に 1 個の弧と小弧が存在したと想定でき、上段は 11 個の弧と 1 個の小弧から成り立つ。一見、文様は横位に連続し区分がないようだが、2 本沈線の頸部区画帯は図示中央で U U が対となり区分される。それを境に上方の連弧文は、右方向へは同じ大きさの弧が施文されるが、左方向へは小弧 1 個から通常の 4 つの個と小弧が描かれる（欠損箇所の想定による）。そこで先に想定した 12 個の連弧は、中央の境から右方向へ {3 弧 + 3 弧 + (1 小弧 + 2 弧) + (2 弧 + 1 小弧)} になる。これを {a + a + b + b} と表せる。①。

一方、胴部の懸垂文は、対の沈線で蛇行懸垂文が 6 対施文され、欠損箇所に 1 対の懸垂文しか想定できない。全体で 7 対の懸垂文から成る。上記の区画帯の境から 3 連弧の区分に対応させると、右方向へ (2 対 + 2 対 + 1 対 + 2 対) と配分される。これを {x + x + y + x} と表せる②。そこで①と②を上下重ねた関係は {a/ x + a/x + b/y + b/x} と書き表せ、A + A + B + A の関係になる。

【210 号住居跡】161 は、突出渦巻文が定型をとどめておらず崩れる。167 と 168 の曽利系の交互刺突を施した粘土紐は平坦に仕上げ立体的でない。159 の連弧文や 166 の一部磨消の垂直懸垂文から加曽利 E II 式期前段階の様相。

【212 号住居跡】174 は頸部に粘土紐を貼付し一周するが、両側に磨り消しが施され、幅 3 cm の無文帯を表し古くならないだろう。207 号住居跡にも同様の土器群が出土し、加曽利 E I 式でも古い様相であるが、174 の頸部無文帯の意識や 175 の立体渦巻文、さらに 207 号住居跡出土の頸部無文帯の土器から加曽利 E I 式の中頃。177 は渦巻文を連結した所謂ブラジャー文様の土器で、関東地方では渦巻文の突出した箇所だけが粘土を貼付け、他の箇所は沈線を多用して施文。それに対し、祖元と思われる井戸尻 III 式期の土器は、口縁部文様に細隆帯（粘土紐）を U 字状に重層して貼付、下半部に櫛形文を付ける。177 の土器は、文様が連弧状になり中部地方の様相をうかがえないが、口縁部文様と胴部文様は全て粘土紐の貼付によるため強く、長野県の技法がよったものと考えたい。

177 の文様について、口縁部文様と胴部文様に分けて記述する。口縁部は 2 条の隆帯で波状の弧で連結する。つまり U と U の組み合わせ 6 単位で、その相互間に弧状渦巻文を充填する。

i) U に乗る渦巻文は、右巻きと図示左▼の右側 2 番目の下端を連続させる右巻きの 2 種から成る。連続渦巻きにさらに小渦巻きが付く。また、図示右端の渦巻きの上部に横 S の文様が追加され、これを右巻きで表す。従って、1 箇所を連続渦巻き、1 箇所に横 S を加え、文様を異にする。

ii) U に収まる渦巻文は、大部分が右巻きだが、左▼の右側に小円が描かれ 1 つだけ違う。（巻き方向は、中心から外側へ方向を右・左で区別した）

上段 右巻 + 連続渦巻 + 右巻 + 右巻 + 右巻 + 右巻

下段 小円 + 右巻 + 右巻 + 右巻 + 右巻 + (不明)

これを波状隆帯により 4 単位に区分すれば次のようになる。

上段 右巻 + 連続渦巻 + 右巻 + 右巻 + 右巻 + 右巻

下段 小円 + 右巻 + 右巻 + 右巻 + (不明)

これによれば、各々の区分内は 3 個の渦巻きとなり、{b + a + a + (a)} になる…①。

胴部の文様は、先述したように、3 本の隆帯で大きな波状を描き、4 力所のブロックに分け、その中を大きい渦巻文と小さな渦巻文で充填する。これを大渦・小渦と略記すると、「大渦 2 個と小渦 2 個」+「大渦 2 個」+「大渦 1 個と小渦 2 個」+「(推定であるが) 小渦 2 個と大渦 1 個」の組み合わせとなり、{y + y' + x + x} と表せる…②

そこで、口縁部文様と胴部文様の関係、すなわち①と②の上下の二重の関係は、{b/ y + a/y' + a/x + (a)/x} となり、これは B + A + A + A という全体文様の構成を表す。この関係は、先述した連弧文土器 113 と全く同じ構造となる。これは二つの単純な文様で、3 種以上の全く異なった文様を表現する方法であると思う。かかる文様の課題の一端にふれてみた。（笹森）

第18章 西ノ原遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2016年7

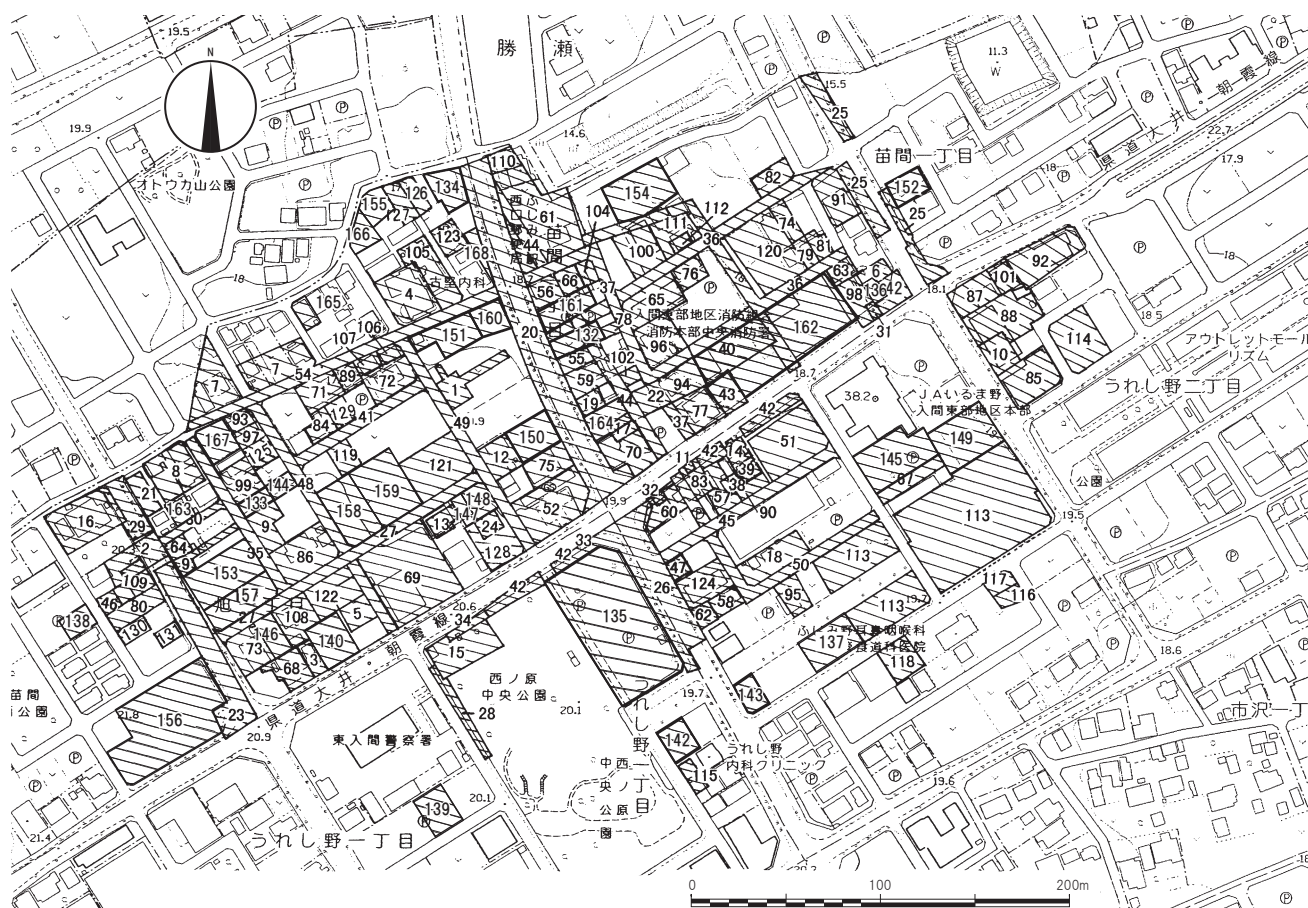
月現在で168地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、210軒を超す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。

II 西ノ原遺跡第150地点（旭1-14-17）

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年5月20日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。調査地は2012年1月23日～2月16日まで試掘調査を行い、住居跡等が確認されている。（ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第12集『市内遺跡群11』2014.3）。現地表面から地山ローム層までの深さは約40～50cmである。申請者と協議の結果、遺跡への影響が避けられないため、2013年7月1日～26日まで本調査を実施した。

本調査は残土置き場の関係から、東西に分けて行っ



第60図 西ノ原遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第31表 西ノ原遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1		1971			住居跡1、土坑3、集石土坑1	町資1
2	西ノ原83	1978.12.6～12.26	270	宅地造成	住居跡1、溝2、旧石器、縄文土器1979「西ノ原遺跡」	西ノ原遺跡
3		1979.3		宅地造成	土器片のみ出土	
4	西ノ原125-1	1979.7.2～7.9	668	宅地造成	遺構なし、縄文中期土器	東Ⅰ
5		1979.8.1～8.14		町史編集事業	住居跡1、土坑1、早期炉穴2、縄文中期土器「大井町史料7集」	町史料7
6	西ノ原170-2	1980.6.19～6.27	450	宅地造成	土坑2、柱穴2、堀之内Ⅱ式土器他	東Ⅱ
7	西ノ原96-1	1080.10.1～10.29	563	宅地造成	旧石器礫群2、縄文土坑1	東Ⅱ
8	西ノ原95-2・3	1980.10.30～11.14	661	宅地造成	縄文集石土坑2、土坑1、溝2、縄文中期土器	東Ⅱ
9	西ノ原93-1、98-1	1981.6.1～6.23	600		柱穴6、溝2、石器、土器	東Ⅲ
10	西ノ原180-2	1981.11.4～11.13	400	個人住宅	柱穴11	東Ⅲ
11	西ノ原143-4	1983.5.23～5.27	198	宅地造成	縄文土坑1、縄文中期土器	東Ⅴ
12	西ノ原123-3	1983.7.6～8.11	330		縄文中期住居2、縄文土坑39	東Ⅴ
13	西ノ原114-6	1983.9.13～10.18	350		縄文中期住居1、縄文土坑56、集石1、溝1	東Ⅴ
14	西ノ原143	1983.10.24～11.7	240		縄文中期住居2、縄文土坑3、集石1、溝1	東Ⅴ
15				共同住宅	縄文土坑2、ビット6	
16					遺構なし	
17	西ノ原135-3	1985.5.13～5.22	165	宅地造成	縄文土坑2、溝1	東Ⅵ
18	西ノ原141-2	1985.7.26～8.5	569	宅地造成	縄文中期住居1、縄文土坑1、ビット群	東Ⅵ
19	西ノ原135-1	1986.7.8～7.21	230	住宅建設	縄文中期住居1、縄文土坑1、屋外埋蔵2	東Ⅶ
20	西ノ原135-1	1986.11～1987.4	3,553	区画道路	縄文早期炉穴4、中期住居跡12、竪穴状遺構、屋外埋蔵2、落とし穴5、土坑40	調査6
21	西ノ原95-1	1986.12.11～1987.1.9	447	住宅	竪穴状遺構1	東Ⅶ
22		1987	480	資材置場	縄文中期住居跡2、縄文土坑11、ビット2	東Ⅷ
23		1987.7～8	1,024	区画道路	土坑2	調査6
24		1987			縄文中期住居2確認、未検出	
25		1988.1～2	781	区画道路	遺構なし	調査6
26		1988.3～4	1,649	区画道路	旧石器礫群、縄文中期住居跡3、土坑9、ビット、屋外埋蔵1	調査6
27		1988.10	942	区画道路	縄文中期住居跡5、縄文土坑2、炉穴1、集石土坑1	調査6
28		1988.11		区画道路	遺構なし	調査6
29		1988.12		区画道路		調査6
30		1989.2～3		区画道路	土坑1	調査6
31	西ノ原115-1	1989.11.4～11.11	21	下水管理設	遺構なし	東Ⅸ
32	西ノ原122	1989.1.10～1.19	21	区画道路	縄文中期住居跡1、屋外埋蔵3	東Ⅸ
33	西ノ原153-2	1989.1.10～1.19	21	区画道路	縄文中期住居跡1	東Ⅸ
34	西ノ原171	1989.1.24～1.31	21	区画道路	縄文中期住居跡1	東Ⅸ
35		1989.2～3	4,000	区画道路	縄文中期住居跡1、土坑1	調査6
36		1989.3～4		区画道路	縄文中期住居跡4、縄文土坑5、落とし穴2井戸1	調査6
37		1989.5～8	200	区画道路		
38	西ノ原142-2	1989.8.29～9.12	74	個人住宅	縄文中期住居跡1、土坑3	東Ⅹ
39	西ノ原142-2	1989.8.29～9.12	94	個人住宅	土坑2、溝2	東Ⅹ
40		1989.9.18～10.16、1989.10.19～11.4	980	消防訓練塔	縄文中期住居跡4、土坑4、集石土坑1、ビット28	東Ⅹ
41		1989.9～10	476	区画道路	縄文中期住居跡4、土坑1	調査6
42		1991.12～1992.7		区画道路	屋外埋蔵2、土坑19	調査6
43	苗間153-3	1990.6.26～7.9	272	個人住宅	縄文中期住居跡4、土坑3	東ⅩⅠ
44		1990.6～8	3,224	区画道路	屋外埋蔵、炉穴3、落とし穴2、土坑16、集石土坑1	調査6
45		1991.2		区画道路		
46	苗間83-2	1991.4.9・10	199	個人住宅	遺構なし、土器片のみ	町Ⅰ
47	苗間136-2	1991.7.15～7.26	141	個人住宅	遺構なし、石蔵、土器片のみ	町Ⅰ
48		1991.9～10	2,610	区画道路	縄文中期住居跡、土坑3	調査6
49		1991.12～1992.1		区画道路	縄文中期住居跡12、集石土坑1、土坑8	調査6
50		1991.11～12		区画道路	縄文中期住居跡15、屋外埋蔵1、土坑3	調査6
51	苗間153-2	1991.2.4～2.12	1,190	モデルルーム	縄文中期住居跡2、掘立柱跡、土坑2、ビット5	町Ⅰ
52	苗間122	1991.2.10～2.20	984	ガソリンスタンド	縄文中期住居跡14、集石土坑7、土坑5、野外炉1、ビット19	調査5
53	西ノ原133-2	1992.6	261	分譲住宅		
54		1992.5～7		区画道路	集石土坑1、土坑1	調査6
55	西ノ原135-5他	1992.5.21～6.23	241	駐車場	縄文中期住居跡2、炉穴5、土坑1	調査5
56	西ノ原133-2	1992.6.23～6.26	261	分譲住宅	集石土坑1、土坑3、ビット6、溝1	町Ⅱ
57	西ノ原143-3・4	1992.7.6～9.1	174	個人住宅	縄文中期住居跡2、土坑1	町Ⅱ
58	西ノ原137-2	1992.9.8	146	個人住宅	遺構なし、縄文土器若干	町Ⅱ
59	西ノ原135-1	1992.10.6～11.12	494	個人住宅	縄文中期住居跡3、炉穴11、屋外埋蔵1、土坑1、ビット12	町Ⅱ

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
60	西ノ原136-2	1992.12.10～12.25	253	個人住宅	縄文中期住居跡2、炉穴4、土坑1、ビット34、落とし穴1	町Ⅱ
61	西ノ原	1993.2	2,240	区画整理	早期竪穴状遺構1、落とし穴3、土坑2、炉穴	調査6
62						
63	西ノ原162-3、169	1993.4.13～4.22	147	共同住宅	中(近世)ビット群、遺物なし	町Ⅲ
64	西ノ原94-1	1993.4.27・28	327	共同住宅	近世・近代溝、前期土器	町Ⅲ
65	西ノ原145-1	1993.6.7～6.11	615	共同住宅	縄文中期土坑3、平安時代住居跡1、土師器、須恵器	町Ⅲ
66	西ノ原133-2	1993.6.30～7.19	474	共同住宅	近代溝、縄文土器	町Ⅲ
67	西ノ原159-2	1994.1.20・21	308	倉庫	縄文中期土坑、ビット、近代溝	町Ⅲ
68	西ノ原91-2・6	1994.3.22～3.25	285	店舗住宅	遺構遺物なし	町Ⅲ
69	苗間106	(1994.4.8～4.27) 1994.5.16～10.24	1,821	店舗	縄文中期住居跡28、土坑6、ビット11、溝1	調査13
70	苗間136	1994.5	551	店舗	屋外埋蔵4、土坑14	調査6
71	苗間112	1994.6～7	309	個人住宅	落とし穴1	
72	苗間112-109	1994.11.2～11.28	321	個人住宅	縄文中期住居跡3、土坑2、溝2	町Ⅳ
73	苗間92-1	1994.3.27～3.29	274	個人住宅	遺構遺物なし	町Ⅳ
74	苗間163	(1994.4.21～5.13)	169	事務所	ビット6	町Ⅴ
75	苗間122	(1995.5.16～5.23) 1995.6.2～9.23	379	事務所	縄文中期住居跡17、集石土坑1、土坑4、集石2、ビット9、溝1	調査13
76	苗間151-2他	(1995.4.20～4.27)	468	倉庫	ビット1、溝1	町Ⅴ
77	苗間143-2	(1995.5.24・25) 1995.6.1～7.28	347	店舗	縄文中期住居跡1、土坑18、溝4、ビット58	調査13
78	苗間22-3・2	(1995.6.28～8.8)	45	貯水槽	縄文中期住居跡3	町Ⅴ
79	苗間162-2他	(1995.6.29～7.24)	135	個人住宅	遺構遺物なし	町Ⅴ
80	苗間83-2	(1995.7.19～7.25)	319	駐車場	遺構遺物なし	町Ⅴ
81	苗間169	(1995.8.2～8.7)	223	店舗付住宅	溝1、遺物なし	町Ⅴ
82	苗間168	(1995.8.1～8.5)	249	事務所	遺構遺物なし	町Ⅴ
83	苗間136-2	1995.8.23～10.21	190	個人住宅	縄文中期住居跡2、集石土坑2、土坑2、ビット22	町Ⅴ
84	苗間108、109	(1995.11.30～12.9)	135	個人住宅	土坑1、ビット5	町Ⅴ
85	苗間181-3	(1996.1.9～1.26)	654	パチンコ店	遺構遺物なし	町Ⅴ
86	苗間113-2、93-1	(1996.4.19) 1996.4.22～5.15	698	個人住宅	土坑6、ビット26、溝2	町Ⅵ
87	苗間182-1	(1996.6.14～6.17)	344	学習塾	遺構遺物なし	町Ⅵ
88	苗間西ノ原182-3、189-2、202-1	(1996.7.16～7.22) 1996.8.1～8.8	745	共同住宅	土坑3、ビット29、櫛列1、落とし穴1、銭	調査13
89	苗間西ノ原112	(1996.7.17・18)	143	個人住宅	溝、土器片のみ	町Ⅵ
90	苗間西ノ原142-2	(1996.7.3) 1996.8.7～8.30	177	個人住宅	縄文中期住居跡2、炉穴2、土坑1、ビット9	町Ⅵ
91	苗間169	(1996.8.1～8.5)	477	店舗	遺構遺物なし	町Ⅵ
92	苗間192-2	(1996.10.23～10.28)	684	店共用住宅	遺構遺物なし	町Ⅵ
93	苗間315	(1996.10.22・23)	141	分譲住宅	遺構なし、土器片のみ	町Ⅵ
94	苗間145-2	(1996.11.11・12)	165	個人住宅	遺構なし、土器片のみ	町Ⅵ
95	苗間154	(1996.11.14～11.19)	283	商業ビル	炉1	町Ⅵ
96	苗間441	(1996.12.17～12.20) 1997.1.9～1.14	333	個人住宅	縄文中期住居跡2、炉穴2、土坑1、ビット3	町Ⅵ
97	苗間97-2	(1996.12.19・20)	141	分譲住宅	遺構遺物なし	町Ⅵ
98	苗間171-2	(1997.1.6)	206	個人住宅	盛土保存	町Ⅵ
99	苗間97-1	(1997.1.20～1.24)	396	個人住宅	土坑1、落とし穴1、ビット12、溝1	町Ⅵ
100	苗間150-2	(1997.4.5～4.12)	447	共同住宅	土坑2、ビット3	町Ⅶ
101	苗間183-1・3	(1997.7.22～7.25)	187	モデルハウス	遺構遺物なし	町Ⅶ
102	大井苗間22街区5画地	(1997.10.9～10.20)	179	個人住宅	ビット2、溝2	町Ⅶ
103						
104	苗間22街区2画地	(1997.10.6～10.8)	223	個人住宅	焼土、溝2	町Ⅶ
105	苗間125-2、126-2	(1998.1.13～2.12)	565	共同住宅	縄文中期住居跡1、炉穴1、溝9	町Ⅶ
106	苗間112	(1998.1.28～2.4)	135	個人住宅	ビット1	町Ⅶ
107	苗間112	(1998.2.9～2.13)	135	個人住宅	ビット4、溝1	町Ⅶ
108	苗間91-1、92-1、99-1	(1998.3.3)、1998.3.4～3.17	413	個人住宅	縄文住居跡1、土坑1、近世溝3	町Ⅶ
109	苗間83-4、429	(1998.3.11～3.18)	429	店舗付共同住宅	遺構遺物なし	町Ⅶ
110	苗間146-2	(1998.4.20～5.28)	385	郵便局	落とし穴1、集石1、礫群1	町Ⅶ
111	大井苗間23街区9画地	(1998.10.23～10.27)	354	個人住宅	ビット1、近世の溝1、道1	町Ⅶ
112	大井苗間23街区9画地	(1999.2.9)	144	個人住宅	近世の溝のみ	町Ⅶ
113	大井苗間57・58街区	(1999.4.5～12.14) 2000.1.6～3.13	2,817	店舗	旧石器時代のユニット、中期住居6、炉穴2、土坑、ビット、近世溝	町Ⅸ
114	西ノ原194-1	(1999.8.4～8.12)	676	駐車場	落とし穴1、ビット2	町Ⅸ
115	大井苗間52街区3画地	(1999.9.27～9.29)	135	事務所	遺構遺物なし	町Ⅸ
116	大井苗間59街区11画地	(1999.12.2・3)	119	個人住宅	遺構遺物なし	町Ⅸ
117	大井苗間199-2	(1999.12.2～12.4)	131	店舗併用住宅	遺構遺物なし	町Ⅸ

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
118	大井苗圃 59 街区 45 画地	(2000.4.3～4.12)	548	店舗住宅	遺構無し、縄文中期土器片	町 X
119	大井苗圃 18 街区 4 画地	2000.11.15～12.6	221	倉庫	縄文中期住居 3、土坑 1、近世溝 1	町 X
120	大井苗圃 24 街区 4 画地	(2001.5.7～5.15)	1,120	共同住宅	遺構無し、縄文中期土器片	町 X I
121	旭 1-15	2002.2.7～3.8	803	個人住宅	縄文中期住居 2、土坑 2、ピット 35、近世溝 4	町 X I
122	大井苗圃 14 街区 8 画地	(2002.3.9～3.19) 2002.6.21～7.22	593	共同住宅	縄文中期住居 4、溝 3	町 X I
123	大井苗圃 19 街区 10 画地	(2002.9.3～9.9)	252	共同住宅	根切溝のみ	町 X II
124	苗圃 137-2	(2002.10.2～10.6) 2002.10.8～10.11	524	個人住宅	縄文中期住居 1、土坑 2、溝 2	町 X II
125	旭 1-8-2	(2003.2.14～2.19)	182	個人住宅	ピット 5	町 X II
126	旭 1-13-6・7	(2004.2.23～2.25)	153	個人住宅	遺構遺物なし	町 X II
127	旭 1-13-4・19	(2004.5.24・25)	327	個人住宅	土坑 1	町 X II
128	旭 1-16-9・10	(2004.6.14～7.15)、 2004.7.16～9.29	614	店舗	縄文中期住居 17、集石 5、土坑 10、ピット 17	町 X II
129	旭 1-11-5	(2004.9.30～10.7)	235	共同住宅	縄文中期住居跡 1	町 X II
130	旭 1-5-8	(2004.10.14・15)	116	個人住宅	遺構遺物なし	町 X II
131	旭 1-5-13	(2004.10.22)	97	店付個人住宅	遺構遺物なし	町 X II
132	苗圃 1-15-17	(2005.7.28～8.2) 2005.8.3～8.11	272	店舗併用共同住宅	縄文中期住居跡 3、炉穴 7、土坑 1	調査 18
133	旭 1-8-8	(2005.10.11・12)	176	個人住宅	遺構なし、土器片	市 2
134	旭 1-13-8	(2005.10.6～10.11)	348	店舗	道跡 1	市 2
135	うれし野 1-5-2	(2006.3.14～4.28) 2006.5.29～6.19	3,341	店舗併用共同住宅	縄文中期住居跡 1、炉穴 1	市 3
		(2007.11.5～11.12)	257		土坑 1、ピット 3	市 4
136	苗圃 1-13-22・23	(2006.6.23)	630	学生寮	遺構遺物なし	市 3
137	うれし野 2-17-5・6・7	(2006.8.3～8.7)	861	共同住宅	遺構遺物なし	市 3
138	旭 1-4-7・8	(2006.11.21・22)	247	個人住宅	遺構遺物なし	市 3
139	うれし野 1-4-4・5・6	(2007.2.1)	474	共同住宅	遺構遺物なし	市 3
140	旭 1-16-14 の一部	(2007.5.7～5.10)	487	学習塾	遺構遺物なし	市 4
141	市沢 1-8-8	(2007.5.8・9)	735	店舗兼事務所	土坑 1、ピット 1	市 4
142	うれし野 1-6-2	(2008.4.4～4.7)	296	寄宿舎 (24 戸)	遺構遺物なし	市 6
143	うれし野 2-17-3	(2009.3.23)	287	寄宿舎 (25 戸)	遺構遺物なし	市 6
144	旭 1-8-11	(2009.9.18～9.25)	155	店舗兼事務所	遺構遺物なし	市 8

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
145	うれし野 2-4-1・10	(2010.7.23～8.25)	4,938	農協事務所・農産物直売所	近世以降の溝 5	市 10
146	旭 1-16-3	(2010.10.8～10.13)	246	分譲住宅	遺構遺物なし	市 10
147	旭 1-16-8 の一部	2010.12.8～2011.1.18	135	個人住宅	縄文中期住居跡 1、集石土坑 1、土坑 1、ピット 50、近世以降溝 2	市 10
148	旭 1-16-8 の一部	2011.1.19～2.1	211	個人住宅	縄文中期住居跡 1、土坑 3、ピット 20、近世以降溝 2	市 10
149	うれし野 2-4-7	(2011.2.7～2.10)	625	農協事務所・農産物直売所	近世以降の溝 1	市 10
150	旭一丁目 14-5・6	(2012.1.23～2.16)、 2012.2.20～3.4	108	宅地造成	縄文中期住居跡 12、集石土坑 2、土坑 2、ピット 36、縄文土器・石器	市 11
	旭 1-14-18	2013.1.23～2.14	111	個人住宅	縄文中期住居跡 5 軒、風倒木痕 1、縄文中期土器・石器コンテナ 14 箱	市 15
	旭 1-14-19	2012.6.26・27	107	個人住宅	縄文中期住居跡 1、縄文土器・石器	市 15
	旭 1-14-17	2013.7.1～7.26	111	個人住宅	縄文中期住居跡 3、土坑 3、ピット 2、縄文土器・石器	市 18
151	旭 1-14-1	(2012.1.25～1.27)	467	分譲住宅	溝 5、縄文土器片	市 14
152	苗圃 1-12-3	(2012.1.27～1.31)	324	分譲住宅	遺構遺物なし	市 14
153	旭 1-6-2 の一部、1-6-4・5	(2012.5.28～5.30)	951	共同住宅	縄文中期住居跡 1、縄文土器・石器	市 15
154	苗圃 1-2-2・3	(2011.10.24～10.28)	846	共同住宅	遺構なし縄文土器片	市 14
155	旭 1-13-3・25	(2013.10.21・22)	234	分譲住宅	地表面から 1.7m 掘削するも確認面まで達せず、遺構遺物なし	市 18
156	旭 1-17-1・2	(2013.11.26～12.9)	2,345	店舗付工場	縄文住居跡床面確認、遺存状態悪く本調査不可	市 18
157	旭 1-6-3	(2013.12.9～12.17)	602	分譲住宅	時期不明溝 2	市 18
158	旭 1-15-6 の一部	(2014.1.7～1.14)	739	共同住宅	縄文時代住居跡 12 軒検出、要本調査	市 18
159	旭 1-15-8	(2014.1.30～2.10) 2014.3.4～5.2	869	共同住宅	縄文時代住居跡 9(プラン)。炉・ピットのみの検出含む	市 18
160	旭 1-14-2	(2014.4.15・16)	309	駐車場	遺構無し、縄文土器、石器	未報告
161	旭 1-15-18	(2014.6.17) 2014.6.18～6.23	442	個人住宅	縄文時代中期住居跡 2、溝 1	未報告
162	苗圃 1-13-2～5・11	(2014.8.29・9.4)	2,527	葬祭場	溝 1(時期不明、中近世以降)	未報告
163	旭 1-7-10	(2015.2.2・3)	149	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
164	苗圃 1-15-8	(2015.5.8～5.18)	647	駐車場	住居跡 1、屋外埋戻 1、土坑 9、ピット 1、縄文土器、石器	未報告
165	旭 1-12-1	(2015.9.30)	160	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
166	旭 1-13-1・17・18	(2015.11.5)	21201	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
167	旭 1-8-1	(2015.11.9・10)	349	駐車場	遺構遺物なし	未報告
168	旭 1-13-20・23	(2013.10.21)	76.8	店舗	遺構遺物なし(旧西ノ原遺跡第 154 地点の名称を変更)	市 18

※大：大井町東部遺跡群、町：大井町町内遺跡群、町資：大井町史資料編 1、調査：大井町遺跡調査会報告、市：ふじみ野市市内遺跡群

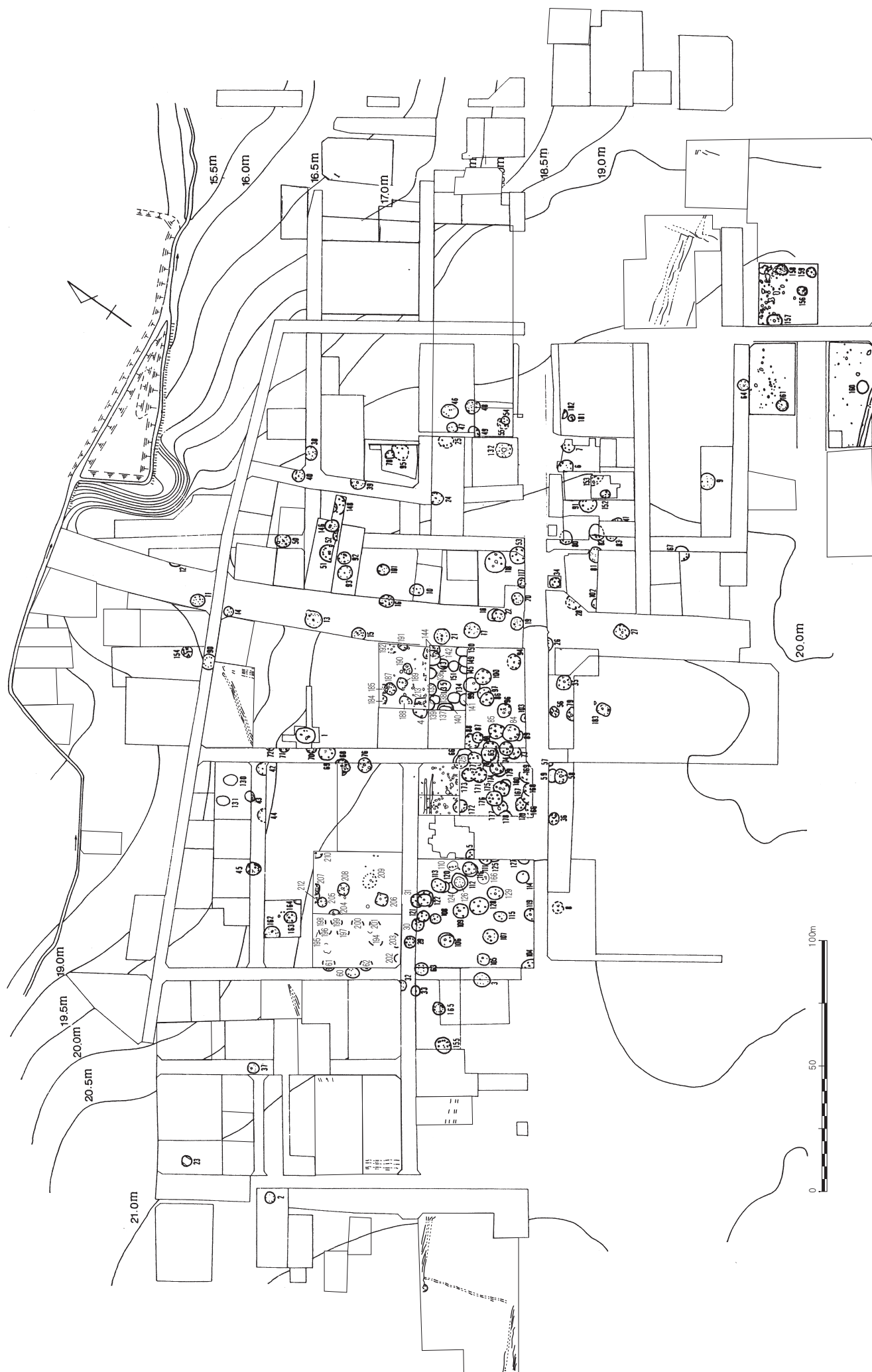
第 32 表 西ノ原遺跡住居跡一覧表

住居番号	調査率 () は推定	平面形 () は推定	規模	炉			埋戻	拡張	壁溝	備考	時期	文献
				地床	埋設	石囲						
1	完掘	楕円形	456 × 398	○				有	○	床直上土器	E II 古	資 I
2	完掘	不整形円形	400 × 400	○	△						阿 II a	調 6 集
3	完掘	楕円形	634 × 530	○	△	△					勝 II 新	調 6 集
4	75%	隅丸方形	540 × 485			○		有	○	111 号と複合	E I 新新	東 V
5	60%	隅丸方形	不明	○						111 号に切られる	E I 新	東 V
6	70%	(隅丸方形)	520 × ?			○	○	有			E II 新	東 V
7	80%	(隅丸方形)	440 × 430			○					E II 新	東 V
8	掘乱	不明	削平			○				石皿	E II	
9	90%	(不整形円形)	(540)	○							E II	東 VI
10	95%	楕円形	460 × 415	○				建替			勝 III 古	町 II
11	完掘	楕円形	550 × 497	○	○			建替		土製品・浮子	勝 III 古	調 6 集
12	30%	(円形)	(440) × ?			未掘				下層土器	E I 新古	調 6 集
13	完掘	円形	630 × 660	○					△	炉西埋設	E II 古	調 6 集
14	完掘	楕円形	(430 × 350)	○	○						勝 III 古	調 6 集
15	80%	(円形)	543 × ?	○	○			有	○		E I 古	調 6 集
16	完掘	楕円形	548 × 516	○	○			建替	○	耳栓	E I 古	調 6 集
17	完掘	楕円形	665 × 590	○	○		2 回拡張			復元 26 個体	勝 III 新	調 6 集
18	完掘	楕円形	420 × 353	○				有	○	22 号と複合	(勝 III)	調 6 集
19	完掘	円形	515 × 488	○							E II 中	調 6 集
20	完掘	楕円形	500 × 450	○	○			有		有効跨付完形・復元 15 個体	勝 III 新	調 6 集
21	完掘	不整形円形	615 × 635	○			○	建替			E II 新	調 6 集
22	完掘	楕円形	550 × 450	○	○				○	床直上土器・人面	勝 III 新	調 6 集
23	完掘	楕円形	425 × 370	○							勝 II 古	東 VII
24	85%	(円形)	不明	○	○					工事中止・調査	勝 III 古	東 VII
25	85%	楕円形	床部削平			掘乱	○			工事中止・調査	E II 新	東 VII
26	30%	(円形)	? × (530)	○			○				E II 古	調 6 集
27	完掘	隅丸方形	570 × 460	○					○	掘付台石・耳栓	E I 新中	調 6 集
28	65%	円形	床部削平	○	○		○				E II 中	調 6 集
29	完掘	円形	460 × 420	○		○					E I	調 6 集
30	80%	楕円形	405 × 403	○				有	○	121 号と複合	勝 III	調 6 集
31	完掘	円形	半掘	○						122 号と複合	勝 III	調 6 集
32	50%	(不整形円形)	(380) × 350	○	○						勝 II 新	調 6 集
33	完掘	楕円形	? × (340)	○	○					2 回発掘	E I 新	町 X II
34	完掘	楕円形	580 × 490	○				建替			E II 中	調 6 集

住居番号	調査率	平面形 () は推定	規模	炉			埋戻	拡張	壁溝	備考	時期	文献
				地床	埋設	石囲						
35	完掘	楕円形	605 × 550			○				耳栓・石皿	E II 中	調 6 集
36	完掘	隅丸方形	560 × 530			○			△		E I 新中	調 6 集
37	完掘	楕円形	440 × 390	○				△		柱穴内土器	阿 II 新	調 6 集
38	90%	隅丸方形	530 × 524	○							E II 新	調 6 集
39	70%	円形	(610) × ?			○					E I 新	調 6 集
40	95%	楕円形	420 × 380	○					○		E I 古	調 6 集
41	20%	(楕円形)	一部のみ調査			未掘			○		E II 新	町 II
42	60%	楕円形	610 × 510	○							E I 新	調 6 集
43	完掘	円形	506 × 470			不明		有	○	床大部分掘乱	不明	調 6 集
44	50%	楕円形	(約 500) × ?	○							E I 新	調 6 集
45	完掘	楕円形	560 × 530		○			建替	○	耳栓	勝 III 新	調 6・X II
46	完掘	楕円形	600 × 496	○							E II	東 X
47	98%	円形	約 460 × 約 450			○				有孔跨付・硬玉大珠	E II 新	東 X
48	完掘	円形	550 × 560	○	○						E II 新	東 X I
49	75%	楕円形	半掘 × 740	○							E II	東 X I
50	完掘	円形	530 × 約 500			○			○		E II	調 6 集
51	80%	大部分未掘	540 × 630	③	○			有	×		E II 新	調 13 集
52	60%	大部分未掘	460 × ?	○	○				×		E I 新	調 13 集
53	90%	大部分未掘	690 × 560	○	○		建替			○ 未塗多い	勝 III 古	調 6 集
54	完掘	円形	335 × 355	○						55 号と複合	E II	東 X I
55	掘乱	不明	690 × ?	○						54 号と複合	E III	東 X I
56	完掘	楕円形	600 × 496	○						床直上土器	E I 新	調 6 集
57	35%	不明	? × 約 500			未掘					E I 新	調 6 集
58	完掘	円形	550 × 560	○				△		柱穴内土器	E II 新	調 6 集
59	40%	楕円形	半掘 × 740	○			○			58 号と複合	E II 新	調 6 集
60	85%	楕円形	590 × 540	○	○			有	○	復元 27 個体・石器 36	勝末～E	調 6 集
61	20%	(円形)	(475 × 365)			未掘					勝 III 古	調 6 集、市 18
62	20%	(円形)	(450 × 435)			未掘					E I 新	調 6 集、市 18
63	完掘	楕円形	550 × 492	○				有	○	異系土器	E I 新古	調 6 集
64	完掘	不整形円形	418 × 420	○							E II	調 6 集
65	完掘	円形	550 × 565				3 回拡張		○	耳栓・連弘文・復原 33 個体	E II	調 6 集
66	90%	楕円形	670 × 570	○	○	○				耳栓・土鍾・77・75 号と複合	E II	調 6 集
67	75%	楕円形	670 × 620	○	○	○	有			土鍾・建替有	E I 古	町 X II

住居番号	調査率	平面形状 ()は推定	規模	地床		埋設	石階	埋土	拡張	壁溝	備考	時期	文献
				地床	埋設		石階						
68	75%	円形	625×610	○				○	有		3回発掘	EⅡ中	町X1
69	80%	円形	618×?	○		○					曾利式多い	EⅡ新	調6集
70	30%	東半未掘	468×?			未掘					床直上土器	EⅠ新中	調6集
71	20%	円形	420×?			未掘					石皿	勝Ⅲ古	調6集
72	15%	隅丸方形	不明			未掘			有	○	勝Ⅲ古	調6集	
73	80%	楕円形?	570×440	○							大磨製石斧・器台	EⅡ新	調6集
74	95%	隅丸方形	520×410	○	○				有	○	曾利系・98号と複合	EⅠ新中	調6集
75	80%	楕円形	(600)×(600)	○					○		ミニ土器・66・77号と複合	勝Ⅲ古	調6集
76	完掘	円形	512×545		○	○			○		3回発掘	EⅡ中	町X1
77	80%	楕円形	(550)×(550)	○			○		○		石棒・石皿・75号と複合	EⅠ新中	調6集
78	完掘	楕円形	402×352	○							勝Ⅲ古	町Ⅵ	
79	55%	南半未掘	?×570	○	△			3回拡張	○		炉上土器	勝Ⅲ新	調6集
80	80%	東半未掘	422×460	○					有			EⅡ新	調6集
81	65%	円形	588×未掘	○			○				曾利系	EⅡ	調6集
82	70%	楕円形	(560～570)	○			○					EⅡ中	調6集
83	45%	円形	364×?			未掘						EⅡ	調6集
84	完掘	隅丸方形	732×674	○				○	有	○	複合・小形磨製石斧	EⅠ新中	調5集
85	完掘	楕円形	620×598	○	△			○			84号と複合	EⅡ新	調5集
86	完掘	隅丸方形	520×490					○	有	○	97号と複合	EⅠ新新	調5集
87	完掘	円形	354×374	○							88号と複合	EⅡ	調5集
88	85%	隅丸方形	640×559		○	○	○	有			複合・復原31個体	EⅠ古	調5集
89	完掘	円形?	420×(390)	○							85号と複合	EⅠ新	調5集
90	70%	楕円形	?×560	○					○			勝Ⅲ新	調6集
91	80%	隅丸方形	746×?	○	○				有	○		勝Ⅲ新	町Ⅱ
92	完掘	楕円形	508×422	○	○				有	○		勝Ⅲ	調5集
93	完掘	楕円形	580×490	○				○	建替			EⅡ	調5集
94	70%	円形	不明	○	○		○				床掘乱	EⅡ	調5集
95	完掘	(円形)	(600×500)	○								EⅡ	町Ⅵ
96	完掘	楕円形	(560×580)			○					小形磨製石斧	EⅡ	調5集
97	完掘	楕円形	602×505								86号と複合	EⅡ古	調5集
98	60%	楕円形	472×(234)	○	○						74号と複合	勝Ⅲ古	調5集
99	完掘	不明	?×402	○							100号と複合	EⅡ新	調5・13集
100	完掘	隅丸方形	614×644		○	○	○	伏	有	○	小形磨製石斧・99号と複合	EⅡ新	調5集
101	完掘	円形	414×420	○	○				有			EⅠ新中	町Ⅱ
102	40%	円形	?×376									EⅡ	町Ⅱ
103	55%	楕円形	?×380	○	○						阿I b古	調5集	
104	90%	(楕円形)	(524×449)	○	○				有	○		勝Ⅲ	調13集
105	完掘	円形	405×420	○	○				有			EⅠ新	調13集
106	完掘	円形	560×520	②				○	有	○		EⅠ新中	調13集
107	完掘	円形	520×510	②	○				有			勝Ⅱ新	調13集
108	完掘	円形	385×340	○	○					○		勝Ⅲ新	調13集
109	完掘	楕円形	560×494	○	○	○				○		EⅠ新	調13集
110	完掘	不整形円形	418×370	○									調13集
111	30%	楕円形	不明			未掘				○	5・125号と複合	E	調13集
112	完掘	隅丸方形	600×574	○	○			○	有		124・126号と複合	EⅠ新中	調13集
113	完掘	隅丸方形	520×496	○	○			○		○	120号と複合	EⅠ新古	調13集
114	完掘	円形	480×480	○	○				有	○		勝Ⅲ古	調13集
115	完掘	隅丸方形	460×340	○	○							勝Ⅲ	調13集
116	完掘	楕円形	540×498		○	○				○	添石埋裏炉	EⅠ古(中峰)	調13集
117	70%	隅丸方形	?×440	○	○							勝Ⅲ新	調6集
118	完掘	楕円形	520×374	○	○						建替	EⅡ新	調6集
119	90%	楕円形	580×480	○					有	○		EⅡ・曾Ⅲ	調13集
120	完掘	円形	392×400	○							113・124号と複合	EⅠ新古	調13集
121	完掘	(円形)	380×390	○	○						30号と複合	EⅡ	調13集
122	完掘	隅丸方形		②				○	有	○	31号と複合	EⅡ	調13集
123													
124	完掘	円形?	418×420	○	○						112・120・126号と複合	勝Ⅲ新	調13集
125	10%	不明	不明			未掘				○	111号と複合	E	調13集
126	完掘	不明	550×565		○	○			有	○	112・124号と複合	EⅠ新	調13集
127	10%	不明	645×?			未掘						E	調13集
128	完掘	楕円形	(610×580)	○							削平著しい	E	調13集
129	完掘	不明	618×?	○								E	調13集
130	完掘	円形	542×465	○	○							勝Ⅲ古	町Ⅳ
131	完掘	楕円形	560×442	○	○					○		勝Ⅲ新	町Ⅳ
132	完掘	楕円形	590×580	②				○	有			EⅢ	調13集
133	60%	楕円形	?×460					○	有		138号と複合	EⅢ	調13集
134	完掘	隅丸方形	630×530	②					有		141号と複合	EⅠ新	調13集
135	完掘	隅丸方形	540×460	○	○					○		勝Ⅲ	調13集
136	70%	楕円形	?×610	②					有				調13集
137	20%	不明	?×	○					有	○	138・140号と複合	E	調13集
138	完掘	隅丸方形	450×360	○	○				有		133・139・140号と複合	勝Ⅲ	調13集
139	55%	不明	(546)×不明	○		○					138号と複合、4・213号と重複		調13集
140	40%	楕円形	(762)×不明	○							137・138号と複合		調13集

住居番号	調査率	平面形状 ()は推定	規模	地床		埋設	石階	埋土	拡張	壁溝	備考	時期	文献
				地床	埋設		石階						
141	55%	不明	528×不明	○							134号と複合		調13集
142	50%	不明	不明	○							143・144号と複合		調13集
143	完掘	楕円形	479×421			○			建替	○	142・151号と複合		調13集
144	90%	(隅丸長方形)	595×430×40	○	○				有		142号と複合	勝Ⅲ新	調13・市14
145	60%	不明	不明×325	○							149・151号と複合		調13集
146	85%	楕円形	585×?	○					有		軒穴群と複合	EⅡ	調17集
147	30%	楕円形	?×			未掘				○	148号と複合	EⅡ	町Ⅴ
148	完掘	楕円形	不明	○							147号と複合	EⅡ	町Ⅴ
149	90%	(楕円形)	430×336		○	○					145・150号と複合	EⅡ新	調13集
150	80%	(円形)	581×不明			○					149・151号と複合		調13集
151	95%	(楕円形)	664×(642)		○	○					143・145・150号と複合	EⅡ古	調13集
152	95%	円形	380×370	○							153号と複合	EⅡ	町Ⅵ
153	20%	(円形)	-600	○							152号と複合	EⅡ新	町Ⅵ
154	完掘	不明	(400)	○	○				有		床面まで削平	勝Ⅲ	町Ⅶ
155	75%	隅丸方形	610×540	②	②				建替と拡張	○	2回拡張・建替	勝Ⅲ新・EⅠ新式古	町Ⅷ
156	完掘	円形	462×365×14	○								EⅡ新	調17集
157	75%	楕円形	594×392×22	○								EⅡ	調17集
158	完掘	不定形	669×455×16			○						EⅡ新	調17集
159	完掘	円形	434×415×13	○?								EⅡ～Ⅲ	調17集
160	完掘	円形	547×490×35					○?				EⅡ新	調17集
161	完掘	楕円形	512×440×16		○	○?	②					EⅡ中～新	調17集
162	75%	隅丸方形	715×?	③				2回拡張	○			勝Ⅲ	町Ⅷ
163	完掘	楕円形	505×482	○	○		○	有			脂肪酸分析実施	EⅠ新古	町Ⅷ
164	20%	隅丸方形	不明			未掘						EⅠ新	町Ⅷ
165	完掘	卵形	498×488	②	○				建替	○	他地域系多い	勝Ⅲ・EⅠ新式古	町Ⅷ
166	10%	不明	不明	○							削平著しく好・ビットのみ検出	EⅡ中	調13集
167	55%	(円形)	不明								168・170号と複合	EⅡ	調18集
168	45%	隅丸方形	不明			未掘			有	○	167号に切られる	EⅠ新	調18集
169	30%	円形	不明	○							南・東未発掘		調18集
170	60%	(円形)	不明×496	○							167号を切る	EⅢ	調18集
171	完掘	不整形円形	554×595	○					有	○	173号を切る	EⅡ	調18集
172	52%	円形	不明×472			未掘				○		EⅠ古	調18集
173	完掘	円形	485×492	○					有			EⅠ新	調18集
174	90%	楕円形	612×?	○							179号と複合	EⅡ古	調18集
175	完掘	楕円形	640×630	○					有	○	176号に切られる	EⅡ	調18集
176	完掘	隅丸方形	690×535	○	○				2回拡張	○	175・177号と複合	EⅠ古	調18集
177	95%	楕円形	624×不明	○				○	不明		176号を切る	EⅡ	調18集
178	10%	隅丸方形	不明			未掘			有	○	177号と複合	EⅠ新	調18集
179	95%	楕円形						○			174号を切る	EⅡ	調18集
180	完掘	円形	385×392									EⅡ	調18集
181	完掘	不整形楕円形	340×298	○							削平著しい	EⅡ	調18集
182	45%	(円形)	不明×390	○							削平著しい	EⅡ	調18集
183	完掘	隅丸方形	450×370	○	○					○		EⅠ新	市3
184	25%	(隅丸方形)	(337×225)										市15
185	80%	(円形)	320×(224)			○				○	187号と複合		市15
186	欠番												
187	完掘	楕円形	480×430			○			○	○	185号と複合		市15



第61図 西ノ原遺跡遺構分布図 (1/2,000)

【住居跡】住居跡は第159地点から続く204号住居跡を含め、13軒以上が存在するとみられる。検出は行っておらず、プランの規模を第32表に掲載する。

【土坑】土坑1は不整形を呈し、規模は(270×101)cm。土坑2は半円形を呈し、規模は(120×40)cm。土坑3は半円形を呈し、規模は(160×60)cm。

【出土遺物】(第77図1～35)1は横位の平行沈線に地文R1縄文、内面は黒色で丁寧に磨く。2は刻目隆帯下に刺突文と沈線文を施す。3は低い隆帯に刻目を施し、間に蛇行する紐状隆帯を貼付。4は横位隆帯に細い隆帯を格子状に貼付、隆帯の懸垂文で区画を配し沈線を施す。5は蛇行する紐状隆帯を貼付。6・14は地文Lr撚糸文に隆帯(6は2本組)の懸垂文を貼付。7は横位隆帯、8は横位隆帯に沈線、9は地文Lr縄文に沈線を施す。10は口唇部の隆帯脇に1列の角押文を施し、区画内に複列角押文を波状に施文。11は有節沈線、10・11は胎土に金雲母を含む。12は内外面に浅い沈線を施す。13は平行する隆帯間に沈線文と蛇行隆帯を貼付。15は口縁部の隆帯区画内に地文Lr撚糸文を施し頸部無文帯を有するが、16は撚糸文は確認出来ない。17は半截竹管状工具の刺突と沈線文。18・19・24・29は無文、29は口縁部で内外面に丁寧な磨きを施す。20は細かい沈線文、21は地文Lr撚糸文に蛇行隆帯の懸垂文を貼付。22は隆帯脇に押引文を施し胎土に金雲母を含む。23は横位沈線で無文口縁部と地文R1縄文の頸部以下を区画。25は地文R1縄文に隆帯で区画文を施す。26は口縁部の把手、27は横位隆帯に地文Lr縄文、28は横位の半隆帯と区画内に沈線文を施す。30は浅鉢形土器の口縁部で平行沈線文を施す。28と30は胎土が類似するが、同一個体かは不明。31～35は石器で第36表を参照。1・2・4・5・17・28・30は勝坂Ⅲ式。17・22・23は勝坂式。3・6～9・12～16・25～27は加曽利EⅠ。10・11・22は阿玉台Ⅰb～Ⅲ式。それ以外も勝坂～加曽利E式。

Ⅶ 西ノ原遺跡第159地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、「Ⅵ 西ノ原遺跡第158地点調査の概要」で述べたとおりであるが、第158地点での開発計画が変更され、改めて原因者より2014年1月27日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

申請者と協議の結果、遺構の存在を改めて確認するため、2014年1月30日～2月10日に試掘調査を実施し、縄文時代の住居跡や炉跡等を確認した。遺構確認面までの深さは約30mで、遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

試掘調査及び本調査の成果については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第17集『市内遺跡群16』(2016.3)で報告済みのため、本書では割愛する。

Ⅷ 西ノ原遺跡第168地点

(1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2013年10月4日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部北寄りに位置する。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2013年10月21日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約1mのトレンチ1本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から15～20mで地山ローム層を確認した。

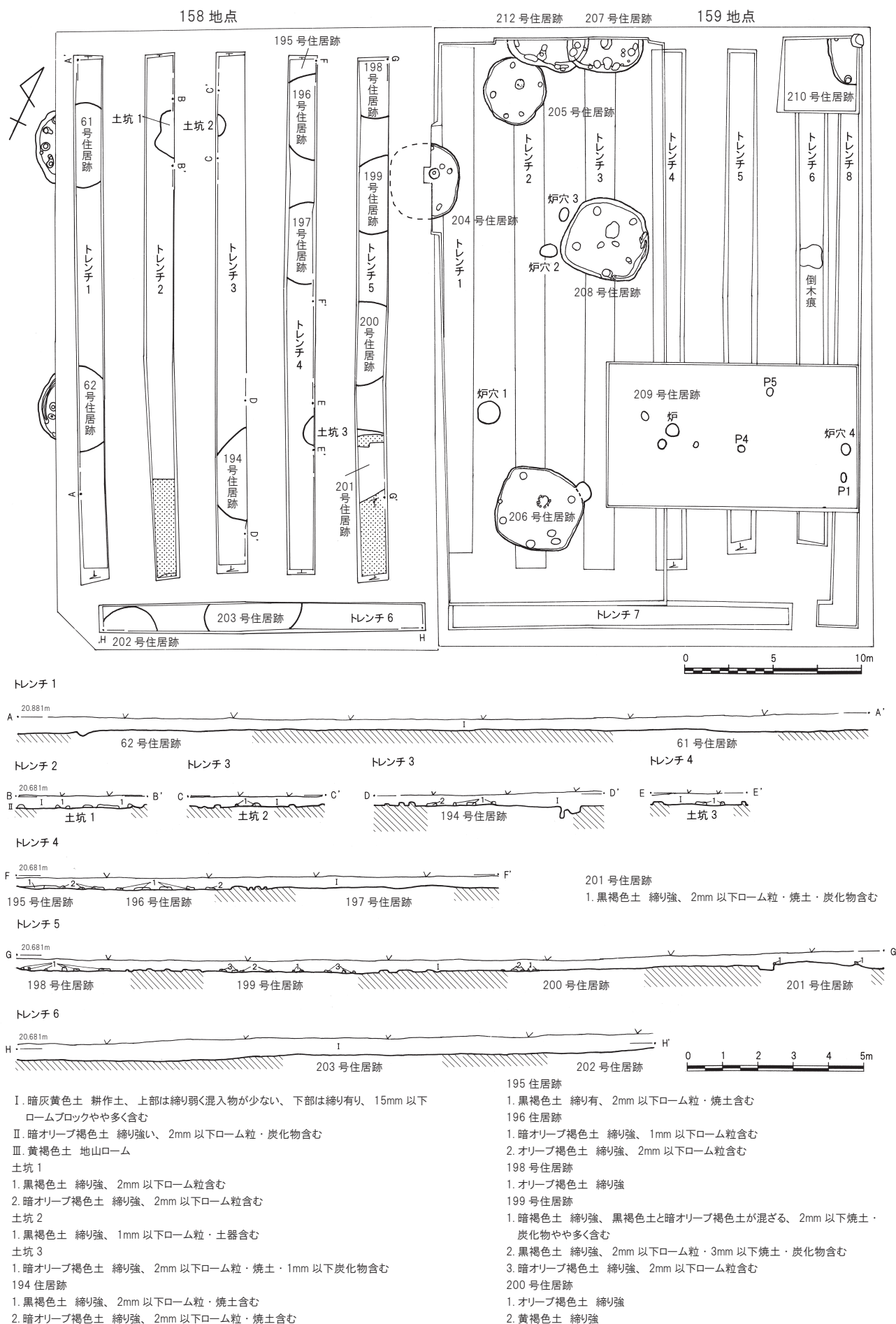
試掘調査の結果、溝状の掘り込み1カ所を確認。

上幅60cm、下幅20cm、深さ10cmである。覆土層から縄文土器1点が出土したが、遺構の時期を示すものとは考えられず、遺構とも判断出来ない。第77図の1は縄文土器の口縁部片で、地文はR1縄文。

なお、本地点は試掘調査段階では西ノ原遺跡第154地点としていたが、地点名の重複が判明したので、第168地点に変更した。

第36表 西ノ原遺跡第158地点 出土石器観察表(単位cm・g)

図版番号・No.	遺構名・注記No.	種別/器形	長さ	幅	厚さ	重量	石材/推定生産地	推定年代	残存/備考
第77図31	195号住居跡、一括	石鏃	(2.1)	1.4	0.4	(1.07)	チャート	縄文時代	先端部欠損
第77図32	62号住居跡、一括	打製石斧	9.8	5.9	3.8	246.95	頁岩	縄文時代	完形
第77図33	遺構外	打製石斧	8.5	7.3	2.4	178.65	粗粒砂岩	縄文時代	完形
第77図34	201号住居跡、一括	打製石斧	7.9	4.3	2.3	91.05	ホルンフェルス	縄文時代	完形
第77図35	61号住居跡、一括	打製石斧	(6.3)	(4.5)	2.0	(84.31)	粗粒砂岩	縄文時代	下部欠損



第 75 図 西ノ原遺跡第 158・159 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)